

激突と片思い

内田 芳邦



目次

はじめに	1
目次	2
第1章 なぜ、日本人は英語の発音が苦手なのか	5
第2章 なぜ、英語が「国際共通語」（「世界共通語」）になったのか	17
第3章 日本語と英語の違い	21
第4章 日本人が「え？」と驚く表現	61
第5章 日本語は曖昧、英語は論理的	66
第6章 日本語にはない英語の表現法	74
第7章 発想の違いと表現の違い	86
第8章 居酒屋とパブ	92
第9章 米国民と銃	96
第10章 聖書と米国民	100

はじめに

はじめに

20年以上前のことだが、英会話レッスンの冒頭で講師に問われた。

“Have you ever had a crush?”

“A crush? Yes, I have.”

“When?”

“When I was 24.

“24? ...How?”

“I crashed my car into a bank. I was on my way to work.”

“Oh, that’s a crash. I said a crush.”

「クラッシュしたことがありますか？」

「クラッシュ？ あるよ」

「いつのこと？」

「24歳の時...」

「24歳?...どんな風に？」

「仕事に行く途中クルマを土手にぶつけてしまった」

「ああ、それはクラッシュ。私が言ったのはクラッシュです」

「え？」

辞書を引くと crush は「片思い」で発音記号は [kr]、私が思い浮かべたのは crash 「激突、衝突」で発音記号は [kræ]、発音の違いは [] と [æ] で、カタカナで表せばどちらも「ア」。このとき思った。むり！

英会話で特に苦労するのはリスニングである。なぜ聞き取れないのか？「習うより慣れよ」というけれど、あえて理屈から考えてみた。「彼を知り己を知れば百戦危うからず」、孫子の兵法である。「百戦危うからず」は到底無理だが、とりあえず、「彼（相手）を知り己を知れば」なにか手がかりが得られるかもしれない。

目次

Contents (目次)

第1章 なぜ、日本人は英語の発音が苦手なのか

- 【1】日本人が発音できる音は極端に少ない
- 【2】心の中に描くのは発音記号ではなくカタカナ
- 【3】和製漢語「音の軽視、文字の重視」
- 【4】「日本語を捨てよう」、「漢字を捨てよう」
- 【5】「英語から英語へ」は可能か？（スピーキングとリスニングのプロセス）
- 【6】バイリンガルは可能か？（英語を学び始める時期）
- 【7】ニュースキャスターも大統領も 20 は「トゥエニー」

第2章 なぜ、英語が「国際共通語」になったのか

- 【1】理由1 英語は際立ってシンプルな言語である
- 【2】理由2 英国と米国の国力が英語を世界に普及させていった

第3章 日本語と英語の違い

- 【1】文の構造が全く異なる
- 【2】英単語の持つ意味は範囲が広く、日本語に訳すと複数になる
- 【3】動詞の後に来る語によって、動詞の（日本語の）意味が変わる。
- 【4】英語には「は、が、を、に、と」の助詞がない
- 【5】「冠詞 a は名詞につくアクセサリーではない」
- 【6】『連想ゲーム』 英単語の意味をその前後の語から推測してみる
- 【7】『連想ゲーム』 名詞からその動詞の意味を連想してみる
- 【8】視点を変えれば異なる意味になる → leave, rent
- 【9】日本語は言葉に気持（感情や感覚）が入るが、英語は論理
- 【10】連想過程がじっくりこない単語
- 【11】英語はおおざっぱ
- 【12】「と言う」と「と書いてある」が同じ単語、「と話す」と「を調べる」が同じ単語
- 【13】他動詞と自動詞 日本語と英語の違い
- 【14】カタカナ語（外来語）と英語

第4章 日本人が「え？」と驚く表現

- 【1】「指名手配」と「募集」が同じ語

- 【2】「服役する」と「サービスする」「飲食物を提供する」が同じ語
- 【3】『犯行声明』 彼らは「犯行」と考えていない
- 【4】「ごめんなさい」と「お気の毒です」が同じ語
- 【5】謝り方の違い
- 【6】他動詞 fuck

第5章 日本語は曖昧、英語は論理的

- 【1】英語では伝える内容に正確さが求められる
- 【2】英語は「現在」「過去」「未来」をしっかりと区別して表現する
- 【3】疑問文の作り方 愕然とする英語と日本語の差
- 【4】仮定法の表現法 英語と日本語の差
- 【5】日本語表現の曖昧さ 「主語や目的語の位置」「読点の位置」など

第6章 日本語にはない英語の表現法

- 【1】便利な英語の he と she
- 【2】これも便利。助動詞 Do や完了形 Have が先頭の疑問文に対する返答
- 【3】「何も無い」や「誰もいない」を主語や目的語で使う
- 【4】日本語にはない it の用法
- 【5】なんでもありの have
- 【6】なんでもありの get
- 【7】とまどう go, come, be, run の用法
- 【8】驚くべし can の用法
- 【9】「食べ物をよそう」は help
- 【10】happen は「予期せぬことが偶然起こる」
- 【11】work 「働く」から、次に何を想像できるか？

第7章 発想の違いと表現の違い

- 【1】出産と誕生
- 【2】日本語は「～ではないと思う」⇔英語は「～だとは思わない」
- 【3】警察の事情聴取 英語は肯定疑問文、日本語は否定疑問文
- 【4】「見分ける」「違いが判る」ということは「違いを言う」「違いが言える」ことである
- 【5】「お付き合いする」「と付き合っている」「と交際している」の動詞は？
- 【6】「人と会う」には3つの会い方がある
- 【7】「に包帯をする」(on は「の上に」ではない)
- 【8】「死後6年たつ=6年間死んでいる」
- 【9】発想に共通するものあり？
- 【10】ちょっと変わった英単語と用法

第8章 居酒屋とパブ

- 【1】アルコールの年齢制限

- 【2】日本人はビールを「ゴクゴク飲む」が英国人は「ちびちび飲む」
- 【3】日本の生ビールはアワが多い
- 【4】日本の居酒屋の魅力

第9章 米国民と銃

- 【1】米国では飲酒解禁年齢は21歳だが、銃は18歳から所持できる
- 【2】米国民は自己防衛のために銃を所持・携行できる

第10章 聖書と米国民

- 【1】『進化論』（the theory of evolution）

第1章 なぜ、日本人は英語の発音が苦手なのか

【1】日本人が発音できる音は極端に少ない

日本人が発音できる音は、他言語を話す人と比べて極端に少ないのだそうだ。言い換えれば、英語の音声には、そもそも日本語には無い音声がたくさんあるということになる。そして、その「日本語には無い音声」は聞き取れないし発音できない。

①例えば日本語の音声の「ア」は「ア」ひとつだけだが、「英語のア」は複数ある。

いや、日本語の音声と英語の音声は異なるのだから「英語のア」という言い方は正しくない。「日本語のア」に近い音として、高校生用の英和辞典の発音記号には [ɑ] [ɒ] [æ] の4つの発音記号が載っていて、発音に関する参考書を見ると、それぞれ「普通のア」「口を小さく開け奥の方で発音するア」「あいまいなア」「エに近いア」などと解説されている。

だから少し乱暴に言えば、日本人はひとつの「ア」の音しか声に出せないが、英語を母語とする人は少なくとも4種類の「ア」を区別して発音し、かつ聞き分けている。「少なくとも」と書いたのは、10種類くらいあるという人もいるからだ。いずれにしても、私が crush の「ア」を crash の「ア」と聞き間違えたのは私が悪いのではない。日本語には「ア」が1種類しかないのだから。

② ラ行 [l] と [r] の区別

「ア」だけではない。日本人が英語を学ぶとき、発音や聞き取りが苦手な音として必ず指摘されるのが、[l] と [r] の区別である。日本語のラ行は「ラリルレロ」の1つしかないのに、英語は [l] と [r] の2通りある。

いや、正確に言えば日本語のラ行と [l] と [r] とは異なる音で、[l] と [r] はどちらも日本語には無い音だから、その違いを聞き取りその違いを発音するのは難しい。

例えば lady と ready という全く異なる音声の英単語を日本語のカタカナで表記すると、どちらも「レディ」となってしまう。参考書を見ると、「[r] は巻き舌で発音する」、「[l] は舌を歯茎の裏側に付けて発音する」、「日本語のラ行は [r] と [l] の中間の音」などと説明されている。

なるほどと思い、その発音を真似してみる。“Are you ready?” とか “Do you know that lady?” などというように単語の先頭に [r] と [l] が来る場合は、そこでいったん立ち止まって、ゆっくり発音すれば何とかなる。しかし、問題は聞き取りである。right と light、grass と glass、wrong と long Paris (パリ) と palace (宮殿) などの単語で l と r の違いを聞き取るのはとても難しい。

③ バ行 [b] と [v] の区別

[b] と [v] の区別も難しい。例えば trouble と travel。日本語のカタカナでは「トラブル」と「トラベル」と区別するので間違えることはないが、英語の発音は [trɒbl] と [trævl] で私には、ほぼ同じに聞こえる。

日本語のバ行は「バビブベボ」ひとつしかないが、それとよく似た音の英語は ba, bi, bu, be, bo と va, vi, vu, ve, vo の 2 種類あって、英語を母語とする人は、その 2 種類を聞き分けることができるし発音することもできる。あたりまえだけど。

[v] と [b] を区別して、それぞれを表すカタカナはないので、江戸時代はずっと「バビブベボ」で表記してきたが、幕末 1860 年（万延元年）、福沢諭吉がアルファベットの [v] の発音を [b] と区別して「ヴァ・ヴィ・ヴ・ヴェ・ヴォ」と表記する方法を考案した。

以後、例えば楽器の violin 「バイオリン」は「ヴァイオリン」と表記されることがあり、高校世界史の教科書の中では、長い間「ヴェネツィア」と「ベネチア」、「ベトナム」と「ヴェトナム」など双方の表記がみられたが、1991 年、文部省は [v] の表記も「バビブベボ」でよいとした。つまり、日本人にとって両者の聞き分けも発音も難しいから、[b] も [v] も「バビブベボ」の表記でよいとしたのである。

④ サ行 [s] と [θ] の区別

さらに、サ行でも同じことだ。日本語には「サシスセソ」のひとつしかないが、英語は [s] と [θ] の二通りある。いや、正確に言えば「サ」と [s] と [θ] は、それぞれ全く別の音だが、例えば「テーブルクロス」と「クロスカントリー」は、英語の場合、tablecloth [kl() θ] と cross-country [kr()s] で発音も綴りも異なる語である。しかし、カタカナにするとどちらも「クロス」になってしまう。乗り物の bus [bs] も風呂の bath [bæ θ] もカタカナにすると「バス」になる。

こうしてみると、なるほど、日本語は音が少ない。つまり、英語の発音には、そもそも日本語に無い音がたくさんあるのだということを思い知らされる。このことについて「目からうろこ」だったのは、『漢字と日本人』（高島俊男著 文春新書）を読んだときである。以下の<>は引用である。

<日本人の口は不器用で..... 日本人が口から出せるのはごくかんたんな音だけである・・・すべての音節が母音でおわる。しかもその母音の前につく子音が一つだけである>

人が言葉をしゃべる際に発する音の最小単位を『音節』というが、日本語の音節の数は 100 くらいなのに対し、英語の音節は 3000 くらいで、漢語の音節は 1500 くらいだと高島氏は述べている。

（ええーっ？）口から出せる音が、英語を母語とする人の 3000 に対し日本人が 100 って、ホントですか?... だったら、日本人にとって英語の発音がむずかしいのは当たり前で、だれのせいでもない。

そして、さらに、日本語の「スプリング」はス・プ・リ・ン・グと 5 音節になるが、英語の spring は 1 音節なのだそう。（はァ？）、英語を母語とする人は、spring とか strike を 1 音節で発音しているって... マジですか？ 英和辞典を見ると、確かに 1 音節になっている。また、日本人は英語の子音を発音できないから、全部あとに母音をくつけちゃ

うと高島氏は指摘する。

なるほど、私が「温泉」を spa [sp:] と発音したとき、「あなた発音は [su/pa] (ス・パ) になっている」と英会話講師に指摘された。try [traɪ] も、私がなにげなく発音すると [to/ra/i] 「ト・ラ・イ」の 3 音節になっていて子音を発音できていない。

もちろん、練習すれば spa も try も 1 音節で発音できるようになるだろう。現代の日本人の発声は、他言語の人とくらべて極端に不器用だが、昔の日本人はさらに不器用だった。例えば、ビルディングの「ディ」も「狩り」のハンティングの「ティ」もチェーンの「チェ」も昔の人は発音できなかった。だから「ビルジング」「ハンチング」となっていた。

ずいぶん昔だが、仰天したことがある。買い物から帰宅した大正生まれのお婆さんが、「八百屋の角で、若い娘さんがチンが外れてナンギしとった」と告げたのである。「な、なんだって?」「自転車のチンが外れてナンギ...」「あ、それは自転車のチェーンだ」「だから自転車のチンって言ってる」「違う。チェーン」「チン」、「チェーン」「チン」、本人は「チェーン」と発音しているつもりらしい。

昔の日本人が発音できなかった音を現代の日本人が発音できるのである。だから、私たちだって練習すれば、現在日本語にはない音節を発音できるようになるはずである。しかし、脳の言語中枢に日本語の言語システムがしっかり定着した日本人にとって、それがなかなか難しい。

【2】心の中に描くのは発音記号ではなくカタカナ

英語の音を、それに近い音で表記できるカタカナは便利だが、英語を学ぼうえで弊害が多いという人も少なくない。

すでにみたように、風呂の bath [bæ θ] の th [θ] は日本語にない音なので、それに近い「ス」を使い「バス」と表記する。しかし、乗り物の bus [bs] も「バス」だから、発音の全く違う 2 つの英単語が同じカタカナで表記されてしまう。

そして、日本人の多くが英語を学ぶとき、[bæ θ] も [bs] も、なんとなくカタカナの「バス」と発音して両者の音の違いにあまりこだわらない。しかも、カタカナの「ス」は [su] と発音するので、[s] とも [θ] とも異なる音である。

さらに例を挙げて考えてみよう。try [traɪ] や drive [draɪv] をカタカナで表記すると「トライ」と「ドライブ」になるが、発音記号の [t], [d] に対して、カタカナの「ト」は [to] で「ド」は [do] と 発音する。

私たちは、知らず知らずのうちに、カタカナ語読みで try を「トライ」と発音し、drive を「ドライブ」と発音しているのではないだろうか。発音するとき、私たちが頭の中でイメージしているのは、英語の発音記号ではない。たぶん、カタカナ。

もちろん、これはカタカナだけに責任があるわけではない。日本人の発声音が極端に少ないというところに根本的な原因があるのだ。しかし、日本の英語教育で発音記号があまり重要視されてこなかったのは、もしかしたらカタカナの存在があるのかもしれない。ともかく、発音記号にこだわってがんばる人は、教わる側だけでなく教える側にも少なかったような気がする。

もうひとつ注意する点は、カタカナ語（外来語）は英語ばかりではないということ

である。「パン」はポルトガル語・スペイン語で英語は bread。英語の pan は「平なべ」で frying pan は「フライパン」、 「パンケーキ」は pancake である。「コーヒー」も「ビール」もオランダ語が起源で、英語は coffee と beer。なお「カメラ」はドイツ語の kamera かな？ 英語の camera [kæmɹ] であれば「キャメラ」になる。英語風に「キャメラ」と言う人もいるけれど、現在は「カメラ」が一般的である。猫の cat [kæt] は「キャット」で「カット」とは言わないのだから、英語の camera を「カメラ」と表記するのはおかしい。「キャノン（Canon）製のカメラ」というのは混ぜ混ぜだ。

カタカナ表記が英語の発音習得の妨げになっている。それはあると思う。しかし、幕末から明治にかけての日本人が西洋文明をとり入れるうえで、カタカナ表記が大いに役立ったという点は評価しなければならない。そして、日本語の中には西洋からの外来語が「カタカナ語」として多く取り入れられてきた。いや、いまなお、新しい西洋語がカタカナ語として日本語の中に取り込まれている。だから、とりあえず、カタカナ語の歴史を少し知っておいた方がいいと思う。

西洋と接して、それまでの日本にはなかった物や概念が入ってきたとき、その西洋語を日本語の中に取り入れる方法は2つある。①ひとつは、外国語をそのままの発音でカタカナ表示する。もちろんこの場合は、日本語なまりのカタカナ語となる。②もう1つの方法は、新しい日本語をつくるのである。これが「和製漢語」だ。

手っ取り早いのはカタカナ語である。幸いなことに日本では、奈良から平安時代にかけて表意文字の漢字をもとに音標文字（表音文字）の片仮名と平仮名がつくられていた。

カタカナ語は、英語だけではない。ポルトガル語、スペイン語、オランダ語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロシア語など、日本語の中には、西洋からの様々な借用語（外来語）が入っている。これはつまり、日本がそれらの国と関わってきたということ、そういう歴史があったということである。

1543年8月の、いわゆる「鉄砲伝来」が日本と西洋との出会いである。以後、江戸時代初期1639年の鎖国令までの約100年間、ポルトガル人およびスペイン人との貿易が行われ、長崎の街にはポルトガル人やスペイン人が住み、日本人妻との間に混血児も存在した。

食べるパンも、雨降りに身につけるカッパも、お菓子のカステラもポルトガル語が起源だが、さらに公園のブランコは「バランス」を意味する balanço、「天ぷら」は「味付け、調理」を意味する tempero が語源だという。それどころか、「おんぶにだっこ」の「おんぶ」は ombro（肩）に由来するという説もあるから、びっくりする。日本がポルトガルと深く関わった歴史を思い知らされる。なおタバコはスペイン語で、「聖母マリア」はポルトガル語もスペイン語も同じ「マリア」。英語では「聖母メアリー」だ。

ポルトガル語の次はオランダ語だ。1600年関ヶ原の戦いの半年前、オランダ船が九州の大分に漂着した。2年前にアジアを目指して、オランダのロッテルダムを出港した船団5隻のうちの1隻であった。

オランダと敵対関係にあったポルトガル商人やイエズス会の宣教師達は、「オランダ人は海賊で、オランダから被害を受けない国はありません」と進言し死刑を要請したほどだったが、家康はそれに耳を貸さず手厚く待遇した。やはり、家康は賢くて懐が深い。

オランダ名門貴族のヤン・ヨーステンは家康の信任が厚く、国際情勢についての顧問として家康に仕え江戸と長崎に住宅を与えられた。東京駅の八重洲口は彼の名に由来するそうだ。つまり、彼の和名「耶楊子（やようす）」から「八代州」そして「八重洲」。

3代将軍家光の鎖国令でポルトガル人とスペイン人が追い出された後も、オランダは「貿易しかやらない、布教活動はしない」と言って貿易を許された。オランダ人は、やがて長崎の出島に閉じこめられるが、幕末の「開国」まで日本との貿易を中国の清とともに独占した。

ビール、アルコール、コーヒー、コック、ガス、船のマスト、外科医のメス、ブリキ、スコップ、ガラス、ズック、カバン（鞆）、ランドセル、インキ、レンズ、オルゴール、ピストルなどなど。オランダとのつきあいも深くて長い。

1853年、ペルーが率いる米国の東インド艦隊（インドはアジアを意味する）に迫られて、幕府は遂に開国した。以後、米国、イギリス、フランス、ロシア、ドイツ、イタリアなどとのつきあいが始まる。

幕末以降は米国、イギリスとの交わりの中で、多くの英語が借用語となる。現代の借用語（外来語）の大部分は英語から来たものだが、その他にも、ドイツ語から来たものはエネルギー、アレルギー、ガーゼ、ノイローゼ、ワクチン、カプセル、ギプスなど医学分野にみられる。

フランス語からはシュミーズ、ルージュなど服飾・美容分野、あるいはデッサン、クロッキー、ジャンル、パトロンなど芸術分野に、イタリア語からはソプラノ、アルト、テノール、フィナーレなど音楽分野に多くみられる。ロシア語からはイクラ（鮭の卵）、ウオッカ、インテリ、カンパ、ノルマ、コンビナートなどがある。

面白いことに、2カ国語を使い分けている場合もある。ビール（オランダ語）とビア（英語）はどちらも使う。「ビール下さい」というときはビールだが、ビア・ガーデンとかビア・ホールの場合は英語のビアだ。最初にビールを日本に持ち込んだのがオランダ人（17世紀）だからビールが先なのだが、ビア・ガーデンの方は、明治になってからキリンビールの創始者の米国人が横浜の工場の隣に開いたのが最初だそうだ。だから英語。

海外旅行から帰国した直後、レストランで料理を注文したあと、うっかり「それとピアもね」と言ったら「ビールですね」と訂正された。コーヒーもオランダ語。英語の coffee をカタカナで表すとしたら「カフィ」かな。「カフェ・オ・レ」というのはフランス語で、意味は「コーヒー・と・牛乳」だ。つまり「コーヒー牛乳」だが、「カフェ・オ・レ」の方がおしゃれでグレードが高そう。英語だと coffee with milk となるが、こちらは、ちょっと長すぎる。

同じ単語なのにアメリカ式の発音とイギリス式の発音の2種類あるのもある。volley のカタカナ語は「ボレー」と「バリー」の2種類あって、サッカーやテニスでは「ボレーシュート」とか「ボレー」と言うけれど、バレーボールの「バリー」と同じ語で「ボールが地面に落ちないうちに打ち返すこと」という意味である。サッカーやテニスはイギリスから入ってきた球技だから英国式の発音の [vli] で、バレーボールは米国で考案されたものだから米国式の発音で [vli] となる。

【3】和製漢語「音の軽視、文字の重視」

＜明治維新以後、日本は、西洋のありとあらゆるものをとり入れるべくつとめた。政治のしくみ、法律と裁判、各種の産業、建築や交通機関、通信手段、学校と教育、学問芸術、軍隊警察、衣服や食品等の生活用品、それに運動やあそびまで。それらにはみな、西洋語の名称や用語がともなっている。日本人はこれをことごとく日本語に訳そうとし、また実際訳した。それに漢字が動員され、数千数万語にのぼる和製漢語がつくられたのである・・・「現代」は modern の、「社会」は society の、「生活」は life の、「政治」は politics の、「政府」は government の、「産業」は industry の「銀行」は bank の、「保険」は insurance の訳、・・・政治にかかわることばなら、政府、官庁、官吏、公務員、議会、議案、法案、議院、議員、行政、施政、選挙、投票・・・経済産業なら、会社、企業、銀行、保険、信託、証券、不動産、有価証券、金融、電器、機械、運輸、輸送、物産、精密、計画、経理、営業、総務、企画、立案・・・交通機関なら、鉄道、線路、汽車、電車、自動車、自転車、道路、飛行機、航空、郵便、電信、電報、電話、・・・運動やあそびなら、運動、体育、体操、陸上、水上、競技、競走、競泳、野球、庭球、卓球、球技、選手、審判、球場・・・いくらあげてもキリがない。われわれがこんにち、新聞や雑誌で見ることば、テレビやラジオで聞くことば、その大半は明治以後につくられた「和製漢語」である＞と、高島氏は述べている。

これらの和製漢語を使用することで、日本人は西洋文明を導入しやがて西洋式の近代国家建設に成功したのである。しかし、問題も生じた。「和製漢語」を短期間に大量に、ひたすら文字の意味だけをたよりにつくったので、その結果、同音異義語が複数できてしまったのである。例えば「電線」と「伝染」、「電灯」と「伝統」、「科学」と「化学」、「假定」と「家庭」のように。

もちろん英語にも同音異義語はある。たとえば、sun と son, wait と weight, write と right, break と brake, cell と sell, way と weigh など。ただし、英語の場合は、1つの音に対して異義語は2つまでというのがほとんどである。

しかし、日本語の場合、ひとつの発音に異義語がいくつも存在する。例えば、「きせい」を辞書で引くと12もの言葉が並んでいる。しかも、その半数以上は私たちが普段よく使っている語である。既製、既成、規制、帰省、寄生、氣勢、奇声など。

和製漢語は耳で聞いても意味は分からないが字を見ると見当がつく。それはそのはずで、和製漢語はひたすら文字の意味だけを頼りに作ってある。音のことは何も考えていない。同音語の発生などを気にしていたら短期間に何千もの語を作り出せるはずがない。しかし、このことは、日本人の音声に対する軽視、ないしは無頓着をもたらし、文字に対する重視を一層強めることになった。

では、なぜ日本人は同音異義語で混乱しないのか。高島俊男氏は次のように説明する。

＜日本人が「假定の問題」と「家庭の問題」とを正しく聞きわけるしくみを説明するのはむずかしい。・・・「假定の問題」ということばを耳にした時、日本人はその文字（漢字）を思い浮かべるのである。・・・その語を耳にした刹那、瞬間的に、その正しい一語の文字が脳中に出現して、相手の発言を誤りなくとらえるのである。そういう神業のようなことを日本人は日常不断におこなって、自身はそのことに気づかない・・・本来、ことばは人が口に発し耳で聞くものである。すなわち、言語の実体は音声である。しか

るに日本語においては、文字が言語の実体であり、耳が捉えた音声はいずれかの文字に結び付けないと意味が確定しない。・・・そして、何より重要なことは、日本人がそのことをすこしも意識していない、ということだ>

なるほど。パソコンで文章を作成する場合、私たち日本人は、入力しながら漢字変換して文字を確定するが、それと同じように、私たちは会話しながら頭の中で漢字変換しながら相手の言葉を確定し理解しているのである。これが、近代以降の日本語のメカニズムなのであり、それは日本語の中に大量に存在する「和製漢語」のせいである。そして、「和製漢語」を使いこなす過程で日本人が習得した「文字変換」のメカニズムは<日本人の音声に対する軽視、ないしは無頓着をもたらし、文字に対する重視を一層強めた>のである。

もともと、日本人が発音できる音は極端に少ないのだが、幕末から明治期に大量に作り出された「和製漢語」は、日本語における「音の軽視、文字の重視」を一層強めた。ずっと繰り返されてきた疑問「なぜ、日本人は英語の発音が苦手なのか?」、その根源的な原因はここにある。

【4】「日本語を捨てよう」、「漢字を捨てよう」

西洋語を日本語の中に取り入れる方法として、日本人はカタカナを使って「カタカナ語」をつくり漢字を駆使して「和製漢語」をつくったが、西洋の近代文明を日本に取り込む方法はまだ他にもある。極端なのは、日本語を捨て、英語なりフランス語なり西洋語の一つを採用して日本の国語としてしまうというのがある。

西洋文明に触れた明治初期の人々は痛感した。<日本は西洋よりはるかにおきている。なにもかもがおきている・・・政治、経済、産業、交通はもとより、学問も芸術も教育も・・・そして、言語改革論が盛んとなえられた。言語改革論の一つはおくれた言語である日本語を全面的捨て去り、英語を日本の国語にしよう、という主張である。英語採用論を主張した人は数多いが、そのもっとも著名なのは、文部大臣であった森有礼である>と、高島氏は述べている。

明治15年(1885)、憲法制定に先駆けて内閣制度が施行されたが、その最初の内閣の文部大臣が森有礼である。1847年、鹿児島藩士の五男として生まれた森は、1865年、グラバーの手引きで、薩摩藩が幕府に内緒でイギリスに派遣した留学生(いわゆる薩摩スチューデント)のひとりである。その後、キリスト教に傾倒した森は、米国に渡って教団の共同生活に参加した。しかし、明治維新後に帰国すると、明治6年、福沢諭吉らとともに明六社を創立し啓蒙活動を開始する。そして、駐英公使を務めた後、第1次伊藤内閣の文部大臣に抜擢されたのである。

森は米国の学者にあてた手紙で、「ヨーロッパ語のどれかを将来の日本語と採用するの でなければ世界の先進国と足並みをそろえて進んでいくことは不可能だと考えている」と述べているそうだ。

日本語を捨てて英語を国語にしてしまうなどという考えは、現代の日本人からすれば到底理解できないバカバカしい話だが、当時の日本を取りまく国際情勢はそれほど厳しかったのである。なにもかも西洋化して、早いところ西洋列強に追いつかなければ日本は滅ぼされてしまう。明治の為政者たちは、そんな危機感を抱いていた。

明治初期、盛んに唱えられた「言語改革論」には「日本語を捨てて英語を国語とする」という主張のほかにもう一つ「日本語は捨てずに漢字を捨てよう」という主張があった。漢字を捨ててアルファベットや仮名文字のような音標文字だけにするというものである「軽快で能率的なアルファベット」に対して「くおくれた鈍重な象形文字漢字、というのが当時の見方」で、これは日本だけでなく中国も同じだったそうだ。

<日本政府は明治 30 年代にいたって、音標文字化を国の方針にした。中国も、日本よりややおくれて音標文字化を国の方針とした・・・しかし一挙にやるのではなく渡りの期間をおくことにした>

日本の場合、採用する音標文字を仮名にするかローマ字にするかで意見が分かれたが、とりあえず、漢字の数を減らし、字体を簡略化して当分の間使用を認めることにした。戦後の中華人民共和国政府も漢字を簡略化して当分の間使用を認め、その間にローマ字を普及させて将来完全に廃止する方針だった。しかし、その後、日本でも中国でも漢字の廃止は進まず、廃止までの「渡りの期間」だったはずの簡略字体があたかも正式字体になったような中途半端な状態のまま停止している。

<明治初期と同じことが、昭和敗戦後の日本でもう一度おこるのである。・・・敗戦後の日本の一般的精神状況は、明治初年のそれにはなほだよく似ていた。あるいは、もっと徹底的だった。明治初年の日本人は、これまでの日本は無価値であると考えたが、昭和の敗戦後の日本人は、これまでの日本のいっさいが邪悪でありまちがっていた、と思った。戦争に敗れたのは、軍事力、経済力の敗北であったのみでなく、文化の敗北なのだ、と識者たちは言った。さらにせんじつめれば言語と文学がおとっていたというのである> と、高島氏は述べている。

昭和 21 年（1946 年）、「内閣総理大臣吉田茂の名で『当用漢字 1850 字』が出された。その趣旨は『従来、わが国で用いられていた漢字は、その数がはなはだ多く、その用い方も複雑であるために、教育上または社会生活上、多くの不便があった。これを制限することは、国民の能力を上げ、文化水準を高める上に資するところが少なくない』とある」「当用漢字」の「当用」とは「さしあたって用いる」という意味である。つまり、「近い将来さらにそれを減らし、いずれは全廃にもってゆく」のが目標だった。

そして、戦後、漢字など日本語に代わる音標文字として取り上げられたのがローマ字である。1947 年（昭和 22 年）、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の勧告を受けて文部省は「ローマ字教育の指針」を発表した。ローマ字は正式な科目として小学 4 年生から年間 40 時間程度（週 1 時間）学ぶこととされ、ローマ字学習用の教科書も作られた。

現在も小学 3 年生から国語の中で「ローマ字」を学ぶが、これは P C の普及や英語教育の前倒しに伴う措置で、単語の読み書きをローマ字でおこなうものである。時間数も年間数時間にすぎない。

ところが、私が小学生だった昭和 20 年代から 30 年代のローマ字学習は、単語の読み書きではなく文章全体をローマ字で読み書きすることだった。例えば、「きょうは、学校に行きました」を「Kyo wa gakkō ni ikimasita」のような具合に日本語そのものをローマ字で表記するのである。その最終目標は漢字の廃止と日本語のローマ字化だった。

その後、国語審議会では改革派と反対派の対立が激化し、昭和 40 年代に入ると改革派の勢力が後退したようである。その結果、ローマ字の授業時間数は半減し、やがて 3 分の

1 までに減り、教科の独立性は失われて国語の中に組み込まれ教科書も廃止された。「漢字廃止」の動きも中途半端なまま止まってしまい、1981 年および 2010 年には「当用漢字」の名称は「常用漢字表」に変更され、漢字の数は 286 字増やされ 2136 字になった。

【5】「英語から英語へ」は可能か？（スピーキングとリスニングのプロセス）

聞き取った英語を日本語に変換せず英語のまま理解し、言いたいことを日本語に変換せずに英語のまま表現できるようになれば、a native speaker of English（英語を母語とする人）、いわゆる「ネイティブ・スピーカー」と同じになる。しかし、そんなことが可能だろうか？ まずは、「己」を知らなければならない。

① スピーキング

スピーキングのプロセスについては、宮本大平氏が無料メールマガジン『ネイティブ英語のススメ』でわかりやすく述べている。以下概略である。

よく「日本語を考えるから英語を話すのが遅くなる。頭でイメージしてそれをそのまま英語で表現しなさい」と言うけれど、これはなかなか難しい。「お腹がすいた」など単純で短い文については、英語学習者でも、（イメージ→英語）としてすぐに I'm hungry. と言えるだろうが、文が長くなる場合は（イメージ→日本語→英語）というプロセスを踏まざるを得ない。しかし、この点はプロの同時通訳者でも同じである。複雑な内容となると、どうしても（イメージ→日本語→英語）となってしまう。ただ、この（日本語→英語）の変換速度が速い。それは、常日頃から、この処理を早くするためのトレーニングを行っているからである。このトレーニングが英語学習者にとっても大変役に立つ。

② リスニングはどうなのか

スピーキングと同様、単純で短い文については（英語→イメージ）が可能だろうが、長い文は（英語→日本語→イメージ）にならざるを得ない。しかし、『映画の英語がわかる』（齊藤兼司著小学館文庫）を読むと、そこがポイントだという。

「日本人が英語を理解するプロセス・・・例えば pencil という単語。リスニングの場合は、何とか音が聴き取れると、頭の中に pencil というスペルが浮かんでくるでしょう。そして、その pencil のスペルを鉛筆という日本語に置き換えて、そこで初めて鉛筆のイメージが頭に浮かんでくるわけです。つまり、『音』→『英語のスペル』→『日本語』→『イメージ』という 4 つの段階を経て理解するわけです。一方、ネイティブは『音』→『イメージ』で英語を理解しています。・・・『映画の英語』を理解するためには、『音』→『イメージ』のプロセスで英語を理解できるようにならなければなりません」

確かに、文字を覚える前の幼児は（音声→イメージ）のプロセスで物事を理解するようだ。私の孫が小学校に上がる前、つまり 6 歳の頃だが、「恐竜」、「肉食」、「草食」、「翼竜」、「滑空」、「隕石」、「爆発」、「氷河時代」、「地下」、「絵本」、「探検」、「実験」などの「和製漢語」を使って遊んでいたが、当時の彼らの頭の中に文字（漢字）は浮かんでいない。まだ文字（漢字）など知らない。「音」からストレートに「イメージ」していたのである。つまり、6 歳くらいまでの幼児であれば、英語でもネイティブのように（英語の音→イメージ）で英語を理解することも可能であるということにもなる。

しかし、「和製漢語」からなる日本語のメカニズムがすでに脳にしっかりインプットされてしまった成人の日本人にとって、「文字を浮かべる」プロセスを省略して（音→イメージ）で英語を理解することなど不可能ではないか...と絶望的になる。

まあ、しかし、それでも、そういう「己を知る」ことは大切で、リスニングの場合もスピーキングと同様、長い文については（音→英語のスペル→日本語→イメージ）の変換速度を速めるよう訓練するほかないとあきらめ、そして頑張れる。

【6】バイリンガルは可能か？（英語を学び始める時期）

英語を学ぶのは「早ければ早いほど良い」という考え方がある。「英語脳」や「英語耳」を作るためには0歳から6歳までが良いとされていて、聴覚が柔軟なこの頃は、聞こえてくる音をそのまま吸収できるそうだ。[l] と [r] の発音も理屈抜きに聞き分けられるようになるし、聞き取った英語を日本語に変換せず英語のまま理解し、言いたいことを日本語に変換せずに英語のまま表現するようになるとのことだ。

ところが、弊害も生ずる。母国語を習得しないまま熱心に外国語を習うと、どちらの言語も年齢相応のレベルに達しなくなるというのである。いくら「英語脳」や「英語耳」を身につけても、肝心の日本語の発達に支障をきたしたり、日本語と英語が混同したりしてコミュニケーションに問題が出てしまっは元も子もない。

【7】ニュースキャスターも大統領も「トゥエニー」

<1>スピーキング 「日本語訛りの英語でいい」

「聞きとる」と「話す」は別だと割り切ったほうがよい。そして、「流ちょうに話す」ことにこだわる必要はない。今や英語は国際共通語になっていて、英語を話す人は世界に10数億人いて、そのうち第2言語として英語を使う人の数は、英語を母語とする人（native speakers of English）をはるかに超え、約80%にも及ぶそうだ。

第2言語として英語を話す人の多くは、母語の訛りで英語を話す。例えば、スペイン語訛りやフランス語訛りの英語である。しかし、それでも意思の疎通は十分可能なことから、日本人が日本語訛りの英語で話しても何ら差しつかえない。

<2>英語の弱点「発音と綴りが一致しない」

発音と綴りが一致しないのが英語の弱点だといわれる。アルファベットは表音文字、つまりカタカナやひらがなと同じく音を表す文字だから、その文字を綴った単語の発音は、綴りが同じ部分は同じだと思うのだが、英語の場合、必ずしもそうではない。

例えば、food [fud]（「食べ物」フード）、foot [fut]（「足」フット）、blood [bld]（「血」ブラッド）のooの部分の発音は、それぞれ[u] [u] [] と異なる。couch [kaut]（カウチ長椅子）、cough [k()f]（コフ 咳をする）、could [kud]（canの過去）、couple [kpl]（カップル）のouの部分の発音もそれぞれ[au] [()] [u] [] と異なる。

英語はラテン語、イタリア語、フランス語、ギリシャ語など他言語から多くの単語を借用してきた。つまり、その言葉を英語風に発音して使用してきたのだが、綴りはもとのまま残していたので、発音と綴りが一致しないものが生じたのだそうだ。

20年ほど前、アイルランドの語学学校で英語の授業を2週間ほど受けたとき、スペイ

ン人の生徒が、英語はスペルと発音が一致しないとぼやいていた。スペイン語は英語と同じアルファベットで、英語と綴りが全く同じ単語や、あるいは語尾の1字だけが異なる単語もいくつかある。しかし、発音が全く異なるのだから、そりゃあ混同するだろうなと思った。

例えば、color, nuclear, personal はスペイン語と英語の綴りは同じだが、スペイン語は「コロール」「ヌクレアル」「ペルソナル」と発音する。また、綴りが1字だけ異なる futuro は「フトゥーロ」と発音する。しかし、その生徒は英語の future も「フトゥーロ」と発音していたし、英語講師もなぜか訂正しなかった。

アルファベットのもとになったのはローマ帝国で使われていたラテン語だから、イタリア語やスペイン語（イタリア語の親戚）の発音は日本の「ローマ字読み」とだいたい一致するようだ。そして、日本語の中にもしっかりと定着している「ローマ字読みの英語」がいくつかある。

「ネオンサイン」 neon sign [ni:n]、「プロフィール」 profile [proufail]、「サタン（悪魔）」 Satan [seitn]、「マニアック」 maniac [meiniæk]、「ペニス」 penis [pi:nis]

上記の単語の発音記号をみれば、英語の発音と「ローマ字読み」とがずいぶん違うことがわかる。ネオンは「ニーアン」でプロフィールは「プロファイル」。サタンは「セイトウン」で、マニアックは「メイニアック」。ペニスは「ピーニス」である。

現在、日本では小学3年生から英語とローマ字読みを習うが、同じアルファベットでも英語の発音とローマ字読みは違うということで子供たちに混乱は生じていないだろうか？ 上記した「ローマ字読みの英語」もそうだが、基本的なところで例えば、wa-というスペルはローマ字読みで「ワ」と発音するが、英語の場合は、walk, want, watch, water, washなどをみればすぐわかるが、「ウォ」と発音するのが主流である。mo-もローマ字読みでは「モ」だが、Manday, mother, money, monthのように英語では「マ」と発音する。monkey「猿」は「モンキー」ではないのかというかもしれないが、あれはカタカナ語で定着したもので英語の発音とは異なる。

しかし、まあ、英語は今や世界各国の人々が使う世界共通語なので、英語にはいろんな発音が入り混じり、やがてはローマ字読みの発音も公認されるかもしれない。英会話のテキストのCDに money を「モニィ」と発音している会話が出てきたので、そんな気もした。

< 3 > 英語の多彩な音変化

国際会議を報道する TV ニュースなどを観ていて、英語を母語としない人の英語が聞き取りやすいと感じることがある。英語を母語としない人は、学んだ英単語を一音一音はつきりと発音するからである。しかし、英語を母語とする人は音をつなげたり落としたりする。流ちょうな英語が聞き取りにくいのは、多彩な音変化があるからである。それにしても、2つの単語の前後の音がつながったり（リエゾン）、単語の1部が他の音に転化したり、発音されずに脱落したりで英語の音変化は自由で奔放過ぎる。

なかでも、t は音の脱落や音の転化（変化）が際立つ。teacher とか today などのように単語の頭にある t は特に問題はないが、twenty, thirty, forty, water や get out, shat

up のような単語の途中や後ろにある t の場合、t の前で音が切れてしまう。英語を母語とする人、とくに米国人はこれが気に入らないようで、次の 3 つの方法で音を切らさず滑らかに繋げて発音する。

① t を脱落させる

特に米国人に多いようだが、twenty [twenti] の -nty [nti] の t を脱落させて -ny [ni]、つまり [tweni] (トゥエニー) と発音する。テレビのニュースキャスターも大統領も、みな「トゥエニー」だ。なるほど、これだと twenty [twen/ti] を 2 音節でなく 1 音節のように発音できる。つまり、t の前で音が切れず、ひとまとまりの音として発音できる。

このように音を切らさず滑らかに発音するというのが、彼らにとって大事なようで、同じく thirty [θ :r ti] を「サー・ティ」でなく [θ :ri] 「サーリィ」、forty [fɔrti] を「フォー・ティ」でなく [fri] 「フォーリィ」と t を脱落させて発音する。

What are you doing? も「ワラユ・ドゥーイン」と聞こえるのが、それは What の語尾の t が脱落しているからである。

ただし、似たようなことが日本語にもある。「わからない」を「わかんない」、「やらない」を「やんない」、「やらないといけない」を「やんなきゃいけない」。確かに、「わからない」「やらない」より「わかんない」「やんない」の方が滑らかで発音しやすい。

② t を r に変化させる

water は [w/tr] で 2 音節だが、t を r に変化させることで [wrr] 「ワラー」と発音して 1 音節のようになる。また shut up [t/ p], get out [get/ ut] も t を r に変化させることにより、[rp] 「シャラッ (プ)」 [gerut] 「ゲラアウ (ト)」と、ひとまとまりの音として発音することができる。

③ t を d に変化させることによって音を切らさず滑らかに発音する。

check it out [tek/it/ ut] 「調べる」が [tekidut] 「チェッキダウ (ト)」、eat up [i:t/ p] 「残さず食べる」や eat out [i:t/ ut] 「外食する」は、[i:dp] 「イーダッ (プ)」 [i:dut] 「イーダウ (ト)」のように、[t] を [d] に転化させて滑らかに発音する。

第2章 なぜ、英語が「国際共通語」（「世界共通語」）になったのか

今や英語が「国際共通語」（「世界共通語」）になっている。それは、英語を母語としない人が英語を母語とする人と話をする場合、英語で話すということだけにとどまらず、英語を母語としない者同士でも英語で会話する現実を指すのだと思う。

つまり、イギリス人とフランス人が英語で会話するだけでなく、フランス人とドイツ人が英語で会話するのである。そして、アジアの人々も欧米人と英語で会話するだけでなく、異なるアジア諸国の人々同士でも英語で会話する。

日本人がイギリス人やアメリカ人と英語で会話するだけでなく、日本人がフランス人やドイツ人とも英語で話をする。それだけではない。日本人とフィリピン人が英語で会話する。日本人と中国人も英語で会話するのである。

世界には、英語を母語として話す人々が約4億人いて、第2言語として英語を使っている人々は10数億人いると言われている。英語を公用語・準公用語としているのは58カ国以上。その他の多くの国でも、英語はビジネスや商業、科学技術の分野で使用される言語である。そして、母語の異なる人々のコミュニケーションは、英語をツール（道具）として使うことによって成立している。

では、なぜフランス語でもドイツ語ではなく、英語が「世界共通語」の地位を獲得したのだろうか。次の2点が考えられる。

【1】理由1 英語は際立ってシンプルな言語である

<1> 動詞の変化

英語の動詞の語尾や形の変化は他のヨーロッパ語に比べて極端に少ない。英語もスペイン語もフランス語もドイツ語も、ヨーロッパの言語は、人称（1人称、2人称、3人称）、数（単数と複数）、性別（男性、女性、中性）、時制（現在、過去、未来など）に応じて変化する。動詞の語尾や形そのものが変化するのだが、英語はその数が極端に少ない。例えば、go は go, goes, going, went, gone という5つの形に変化する。

これに対し、スペイン語の ir 「行く」は26の形に変化する。ひとつの動詞が26にも変化するんだよ。それも、voy, fui, ire, iba, vaga, da, ido など原形の ir からは想起できない形なので、はじめは辞書引くのにも苦勞する。では、ドイツ語の「行く」gehen はどうかと PC で検索すると、（うわっ、なにこれ？）ざっと数えて、なんと36種類にも変化する。

<2> 冠詞の数

英語の定冠詞は the ひとつだが、スペイン語は4個、ドイツ語は8個もある。

< 3 >一語で多品詞兼用

ひとつの語がいくつかの品詞を兼ねるのは、ヨーロッパ語の中では英語だけのようである。まことに英語は大雑把だが、よくいえば柔軟性があるとも言える。

< 4 >名詞と動詞の綴りが同じ

カタカナ語の「ガーディニング」は英語の gardening で「園芸、庭仕事」の意味だが、これは garden の動名詞である。つまり、この場合の garden は名詞「庭」ではなく動詞「庭いじりをする、園芸を行う」である。「ハウジング・センター」は和製英語のようだが、house にも名詞（家、建物）と動詞（家を供給する）がある。

他のヨーロッパ語のように、英語も元来は動詞と名詞とは異なる綴りだったのが、その後の発展の中で、名詞の綴りのままで動詞としても使用されるようになったのか、それとも、英語の名詞はどれもみな、元来、そのまま動詞としても使用されていたのか、そのところはわからないが、I water the flowers. 「私は花に水をかける」という文を見たときは、もしかしたら、英語の名詞はすべて、そのまま動詞としても使えるのではないかと感じた。

さらに、You are making my mouth water. 「あなたの話を聞いているとヨダレが出ます」という文に出くわしたときは、びっくり仰天した。この文の water は自動詞で「ヨダレが出る」という意味である。いや、英語ってスゲーな、と改めて思った。「よだれ」という単語はないのかと辞書を引くと saliva 「唾液」とあるが、「ヨダレが出そうなくらいおいしそう」という場合は make one's mouth water が一般的のようだ。

ついでに、もうひとつ。映画に He wants to be billed. 「彼は請求書を回して欲しい」というのが出てきた。名詞 bill は「請求書」だが、動詞の意味は「請求書を送る」で、受け身にすれば「請求書を回してもらおう」ということになる。「請求書を回してもらおう（セイキュウショヲマワシテモラウ）」というフレーズを be billed と二言というか、ほぼ一言で表現できるところが英語の凄いところだ。

ところで、ふつう I am a Japanese. とは言わないよね。冠詞の a はつけない。（え、名詞なのに a をつけないの？）と思う人もいるかもしれないが、この場合の Japanese は形容詞として使われている。

海外でツアーバスの運転手から、This bus is Japanese. と声をかけられたことがある。「このバスは日本人だよ」ではもちろんない。「このバスは日本製だよ」と言ったのだ。それから called Hino 「日野っていうんだ」と付け加えた。この場合の Japanese は形容詞で「日本製の」という意味になる。

That is my car. 「あれは私のクルマだ」の that は名詞で、That car is mine. 「あのクルマは私のだ」の that が形容詞で、I can't walk that far. 「そんなに遠くまで歩けない」の that は副詞である。話している本人が意識しているかどうかに関係なく、文法的に見るとそうなるということである。

なるほど、英語は大雑把というか柔軟性がある。驚くのはまだ早い。down などは動詞、名詞、副詞、形容詞、前置詞として使用される。こんなことは他のヨーロッパ語には見られない。英語だけの特徴である。

【2】理由2 英国と米国の国力が英語を世界に普及させていった

19世紀初頭、ナポレオンが没落すると産業革命を経て国力を高めたイギリスがスペインやフランスに代わって欧米列強の覇者となるが、その地位は第1次世界大戦後、米国に移る。国力とは経済力と外交および軍事力で、経済力や軍事力を支えるのは科学技術の力である。

1871年に建国された「ドイツ帝国」は、その後めざましい発展を遂げ、新時代の技術産業で世界をリードした。それを支えたのが自然科学の発展である。各国はこぞってドイツに留学生を派遣した。

日本の近代憲法を作るため伊藤博文もドイツで学んだ。ペスト菌を発見し「日本の細菌学の父」と讃えられ、新しい千円札の肖像画にも採用された北里柴三郎も軍医だった森鷗外もドイツに派遣され細菌学を学んだ。そうして、ドイツ語が世界に広がっていく。しかし、第1次世界大戦でドイツは敗れ、戦後世界をリードしたのは米国である。英語を学ぶ人々は増えていった。そして、それに伴い日本で使われる科学用語も医学用語もドイツ語から英語に代わっていった。例えば、日本では「病原体」の「ウイルス」を、私の記憶では、少し前までずっと「ビールス」と呼んでいたが、これはドイツ語で綴りはvirusである。しかし、その後、同じ綴りのvirusを英語の発音で「バイアラス」と呼ぶ医学者や医師が多くなったので、混乱を招かないようラテン語風の発音「ウイルス」に統一したとのことである。ここにも歴史がある。

幕末、長崎でオランダ語を学んだ福沢諭吉は、安政五年（1858年）江戸へ出た。日米修好通商条約が結ばれた年で、横浜も開港された。横浜見物に行った福沢は愕然とする。オランダ語で西洋人に話しかけても通じない。店の看板も読めない。なんということだ。今まで数年間、死に物狂いでオランダ語を学んだが役に立たない。すっかり落ち込んだ福沢だったが、すぐに気持ちを切り替えた。どうやら、今、世界に広がっているのは英語のようだ。これからは英語が必要になるだろう。ならば、なんとしてでも英語をものにしてやろう。しかし、英語を教えてくれる学校も無ければ人もいない。24歳の福沢は途方に暮れた。

万延元年（1860年）、通商条約批准のため幕府の使節が米国の軍艦で米国に派遣されることになり、幕府の軍艦「咸臨丸」も随行することとなった。オランダに注文して建造させた船とはいえ、日本の船が日本人の操業で初めて太平洋を渡るのである。提督は木村摂津守だが、艦長はあの勝海舟である。それを聞いた福沢は、幕府に仕えるオランダ医に頼み込んで木村に宛てた紹介状を書いてもらおうと、木村の「お供」として連れて行って欲しいと懇願する。すると、木村は「渡米を嫌がる家来が多い中、自分から進んで行きたいとは珍しいやつだ」と言って福沢を連れて行くことにした。（『福翁自伝』より）

福沢諭吉はもちろん偉大な人物だが、無名の若者の熱意を受けとめた幕府の役人もなかなかの人物だと思う。この時の渡米がなければ、帰国後、福沢諭吉が幕府の翻訳方に雇われることもなかっただろうし、2年後の幕府の遣欧使節に随行することもなく、『西洋事情』も『学問のすすめ』の執筆・刊行もなかっただろう。

日本国が西洋文明をとりいれ近代産業を発展させ軍事力を強化して国家の独立を保つためには、英語を理解し使いこなす人材を育成しなければならない。やがて、ビジネスのため、民間でも英語を学ぼうという気運が高まっていった。英語に限らず、ひとつの

言語が他国で普及していく過程というのは、こういうことだろうと思う。自国の言語を力づくで他民族に押しつけるなんてことはできっこない。

イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの英語を母語とする人々は、世界中どこへ行っても母語だけで活動できる。話しかけた相手がまごまごしていれば、Do you speak English? 「英語、話せますか?」と上から目線で問えばよい。たいていの相手は a little とか何とか言って申し訳なさそうな表情を浮かべるだろう。そんなバカな、と思うがどうしようもない。また、本国で資格さえ取っておけば、世界中どこでも英語講師としての職がある。彼らはなんとラッキーなんだろう。米国人の英会話講師が笑いながら次のようなジョークを言ったとき、私はつくづくそう思った。

“What do you call someone who speaks two languages?”

“Bilingual.”

“What do you call someone who speaks three languages?”

“Trilingual.”

“What do you call someone who speaks one language?”

“. ?”

“American. Ha,ha,ha”

「2 カ国語を話す人を何というか?」

「バイリンガル」

「3 カ国語を話す人を何というか?」

「トライリンガル」

「じゃあ、1 カ国語しか話さない人は、何というか?」

「. ?」

「アメリカ人だよ。ハハハ」

彼らは、自国を愛し誇りを持ち、そして優越感を感じ、自国民であることに感謝して生きているように見える。幸せなことである。

第3章 日本語と英語の違い

【1】文の構造が全く異なる

日本語と英語の相性が良くないのは発音においてだけではない。英語と日本語では、文の構造が全く異なる。では、漢語（中国語）と日本語とではどうか。日本語は中国から入ってきた漢字を用いてきたので、漢語と日本語は同系統の言語ではないだろうかと思うかもしれないが、言語の系統は全く異なるのだそうだ。そして、漢語と英語は次の2点において文の構造が似ている。

①述語動詞が先に来て補語や目的語がそのあとにつく。（漢語と英語は同じ語順）

I see the mountain. 「山を見る」 漢語は「我見山」で英語と同じ語順

②否定を表す語が先にくる。（英語と漢語は同じ語順）

I do not steal. 「盗みをしない」 漢語は「我不盗」

<上記①について>

英語の語順は「私」「見る」と来るから、おそらく頭の中は「何を見る？」と反応し、続いて「山」という目的語が来て「私は山を見る」とスムーズに理解できると思う。しかし、日本語の場合は「私は」「山を」と来るから、頭の中には「山をどうするの？」という疑問が浮かぶ。で、最後に「見る」という動詞が来て初めて全体の意味が理解できる。主語の「私」から述語動詞の「見る」までの間の文が短ければ問題ないが、長いと「で、どうするの？」「で、どうなるの？」というモヤモヤ感が長く続いてイライラするだろう。

英語は基本的に主語が先頭で、そのすぐ後に述語動詞が続くが、日本語は述語動詞を文の最後に持ってくるのが基本である。この違いの影響は大きくて、日本人が英語を学ぶ上で大きな障害になっているような気がする。

She was last seen yesterday morning driving her jeep near the front line.

「彼女は最後に目撃された/昨日の朝/自分のジープを運転しているところを/前線の近くで」

この文は、ある地域の内乱取材していた記者が行方不明になったことを伝える報道だが、英語の場合は、まず主語と述語動詞で「最後に目撃されたのが昨日の朝」と結論を伝え、その後から情報を付け足していく。聞き手（読み手）は、付け足される情報をその順番のまま受け入れていけばよい。すなわち、「ジープを運転していた」、「前線の近くで」という具合に。

これに対して、日本語の場合は「彼女は/昨日の朝/前線の近くで/自分のジープを運転しているところを/最後に目撃された」というように、「時間」と「場所」と「状況」という情報が先に来て、最後に結論の「目撃された」が来るので、最後の結論を知らされる

まで聞き手（読み手）の意識は不安定で落ち着かない。そのところを、中学3年の教科書に出てくる次の英文でもう少し考えてみる。

Nuclear power produces a large amount of energy without releasing carbon dioxide.

これをまず英語の語順通りに和訳すれば（ア）「原子力は生産する/大量のエネルギーを/二酸化炭素を放出することなく」となる。次に、これを日本語の語順に並び替えると（イ）「原子力は/二酸化炭素を放出することなく/大量のエネルギーを/生産する」となる。

私たちが英文を読んで（聞いて）理解する過程は（ア）の和訳になると思うが、日本語らしくするため（イ）のように直すのがふつうである。日本文の（ア）と（イ）を読みくらべて欲しい。「聞き取る」（読み取る）側が、話の内容をより早くより正確に理解できるのはどちらだろうか？

私の場合、「原子力は生産する」と主語に続けて述語動詞を真っ先に言うことで結論を先に提示する（ア）の方が断然わかりやすいと思うが、どうだろう？

では、もう1つ、同じ教科書から例を挙げてみる。

Many things that we see every day come from overseas, such as food and clothes.

（ア）「多くのものは/私たちが毎日目にする/海外から来る/食料や衣服のように」

（イ）「食料や衣服のように/私たちが毎日目にする/多くのものは/海外から来る」

2つをくらべてみれば、英語の語順と日本語の語順がいかに異なるかがよくわかる。英語を同時通訳する場合、中国語の場合であれば文の構造が似ているから、話される言葉をそのままの順にどんどん訳していけばいいのだろうが、日本語の場合はそうはいかない。TVのニュース番組などで同時通訳の場面を見ると、ああ、日本人通訳は気の毒だなあと心底思う。

それで、ふと思った。小学校や中学校の授業で英文を和訳する場合、まずは英語の語順で訳し、それを日本語の語順に直す。そういう手順が普通だと思うが、その後半部分をカットする。英語の語順で和訳し、日本語の語順に直さない。その語順のまま理解させる。授業だけでなく考査でも日本語の語順に直さない。そういう訓練をしたらどうだろうか？

次の2つの文は米国のTVドラマ『FBI』の会話文だが、スラッシュで区切って「英文」とその和訳を交互に声に出して読んでみると、日本語の語順に直さなくても、いや直さない方が理解しやすいような気がしてくるのだが、どうでしょう？

It's possible/that Bryant had no idea/what was going to happen/when he got into the car.

「その可能性はある/ブライアンは何にも知らなかった/何が起きるかということを/彼が車に乗り込んだとき」

Reed was having dinner/with his wife/when/someone threw a garden brick/through the side window. 「リードは夕飯を食べていた/奥さんと一緒に/...の時/誰かが庭のレンガを投げて/サイドウインドのガラスを割って」

<上記②>英文では否定を表す語が先にくる。(英文と漢文は同じ語順)

I do not steal. 「私は盗まない」「私は盗みをしない」 漢文は「我不盗」

この点に関して、孫が3歳で言葉を覚え始めた頃のことを思い出す。「好きじゃない」を「好きくない」、「来(こ)ない」を「きない」と言ったときは、「.....ああ、なるほど」と納得がいった。

英語の場合は、not like、not comeのように動詞のlikeやcomeを変化(活用)させず、それに否定を意味するnotをつければすむのに、日本語の場合は「好きだ」の「だ」を「では」と変化(活用)させてから「ない」をつける。すなわち「好きではない」、「来た」の「き」も「こ」に変化させてから「ない」をつける。つまり「こない」

言葉を覚え始めた幼児が、動詞を変化させずに「ない」をつけてシンプルに否定形をつくったということは、それが自然な形だということかもしれない。そして、英語はその自然な形に沿っている。そんな気もしてきた。それに比べて日本語は難しい。

また、「これくれた」と言って手に持ったお菓子を私に「くれた」ときは、思わず「そういうときは『あげる』と言うんだよ」と訂正したけれど、英語では「あげる」(I give you...)も「くれる」(He give me...)も同じgiveを使うから、言葉を覚え始めた幼児の表現の方が、無理のない自然の形なのかもしれない。

ここまででわかったこと。日本語と英語の相性はよくない。

①日本語は他の言語に比べて音の種類が極端に少ない

②英語と日本語では、文の構造が全く異なる

この2点からすると、日本語を母語とする人が英語を身につけるのは、他言語を母語とする人と比べると大変不利だということになる。

例えば、中国人は発音できる音も多いし、文の構造も英語とよく似ている点で、少なくとも日本人と比べれば有利である。日本人が英語のリスニングやスピーキングを苦手とする理由は、よく指摘されるように読解力偏重の日本の英語教育ばかりに問題があるのではなく、他言語と比べて特異な存在である日本語そのものにあるということになる。

しかし、(だから無理だ)というわけではない。ただ、聞き取りや発音が苦手なのは、自分の努力不足のせいばかりではないということを知れば、つまり「己を知れば」、とりあえず肩の力を抜くことができる。日本語を母語とする日本人にとって、聞き取りや発音が苦手なのは、いわば宿命だから恥じることも悩むこともない。失礼のないよう、相手に聞き返す術をマスターしておけばよいと、まあこんなふうに前向きに考えることができると思うのです。

【2】英単語の意味は範囲が広く、日本語に訳すと複数になる

<1> judge

英語では1つの単語で間に合わせているところを、日本語では、使う場面や対象の違いによって表現をひとつひとつ変える。だから似たような言葉が多くなる。

例えばjudgeで「judgeする人」を英和辞典で調べると「裁判官」「判事」「審査員」「審判」「鑑定家」などと出てくる。日本語は、裁判、コンクールやコンテスト、スポーツの試合、物品鑑定における「judgeする人」の呼び名をそれぞれ変える。言い換えると、日

本語では5つの異なる言葉を覚えなければならないが、英語は judge ひとつですむ。

日本人の感覚からすると、「裁判官」と「コンクールの審査員」あるいは「野球の審判」とは違うでしょ？ となるが、英語を母語とする人からすれば「judge する」点ではみな同じで、場所や場面の違いは前後の言葉でわかるのだから、わざわざ別の言葉にする必要はないということになるのかもしれない。なるほど、日本語でも例えば「審判」の1語にして「裁判の審判」「コンクールの審判」「試合の審判」とすれば言葉の数を減らすことはできる。

説明や描写を正確で細やか、かつ豊かに表現するためには言葉の数は多い方が有利なのかもしれないが、それを覚える子どもの負担を考えると多すぎるのもよくない。英語を母語とする子どもとくらべて、日本の幼い子ども達は小学校にあがる前後でひらがなを覚え、カタカナを覚えると次は漢字を学ぶ。そして、小学5年からは国語や算数と同じように教科として英語を学ぶ。英語を母語とする子ども達とくらべると、その負担の重さに愕然とする。

< 2 > witness も意味の範囲が広い

①「目撃者」②「(裁判の)証人」③(結婚式などの)「立会人」「保証人」

The police is looking for the witness of the crime.

「警察は犯罪の目撃者を探している」

I was called as a witness for the prosecution. 「私は検察側の証人として召喚された」

I'm going to be a witness to your wedding. 「あなた達の結婚式の立会人になるよ」

確かに、「目撃者」はただ「見た人」ではなく、見たことを「証言してくれる人」でなければ意味がない。だから目撃者=証人となる。立会人も2人の結婚を「証言する人」であり、裁判における「証人」も「証言する人」である。だから、言葉は「証人」ひとつで間に合う。どんな種類の「証人」なのかは文脈でわかる。また、「召喚された」という難しい言葉にしても、英語のように「called 呼ばれた」でいいような気もする。

英語の Judge 1語が日本語訳では5つの語に分かれ、witness に対しては3つの語に分かれる。この違いはどこから生じるのだろうか？ 国民性の違いといったところにも、なにかその要因があるのかもしれないが、やはり漢字とアルファベットの違いは大きいと思う。

文字そのものに意味はなく、単語のまとまりにしないと意味をなさない表音文字のアルファベットと違って、表意文字である漢字はひとつひとつの語に意味があるので、漢字2つをいろいろ組み合わせればいろんな意味の、あるいは似たような意味の2字熟語がいくつもできてしまう。Judge や witness の訳語などは、まさにそれだと思う。

しかし、日本語の単語と英単語の違いには、漢字とアルファベットの違いによるものだけではない。もっと根深いものが存在すると思う。英単語の持つ意味は日本語とくらべて範囲が広いので、日本語に訳すと異なる別の意味の複数の語になってしまうのである。たとえば life

< 3 > life

life の意味について、中学の教科書には 4 つの異なる日本語が出てくる。①生命、命 ②生活、暮らし③一生、人生 ④生き物で、教科書の本文は以下のアからエである。

ア、One photograph changed Hoshino Michio's life.

イ、The progress of AI is changing our lives. (progress 「進歩」)

ウ、He loves the beautiful sea life.

エ、Many people lost their lives. (lost は lose の過去形 「失った」)

「1 枚の写真が星野道夫の人生を変えた」

「AI の進歩は私たちの生活を変化させている」

「彼は海の生き物が大好きだ」

「多くの人が命を失った」

アからエの中の life は、私たち日本人からすれば、それぞれが異なる意味のことばだと考えているから別々の日本語になっているのである。しかし英語では、(どのように言ったらいいのかわからないが) その 4 つの意味を表現するのに 1 つの単語 life ですむのである。これは、いったいどういうことだろう？ 英語を母語とする人達の頭の中は、いったいどうなっているのだろうか？

『LIGHTHOUSE』という英和辞典には、命→(命のある期間) 「一生」「人生」→(生き方) →「生活」；命→(命を持つもの) →「生き物」... というふうに矢印を使って説明している。なるほど、もともとの意味というのがあって、そこから連想するイメージや言葉を次々に展開させていく。いわば連想ゲームみたいなものだ。

『E-Gate』という英和辞典の life の項目には、「(死に対する) 生」「『生命』『人生』『生活』がこん然一体となったのが life」という説明がある。

(え？ こん然一体？) ... であるなら... life という語を提示されたとき、英語を母語とする人たちの頭の中の反応と日本人のそれとは根本的に異なるということになる。日本人の場合は、「ええと、life には生命、生活、人生、生き物など 4 つくらいの意味があって...」と頭の中で、それぞれの漢字を思い浮かべるのだろうが、『E-Gate』によれば、彼らの頭の中の life は 4 つの意味が「こん然一体となって」いるのだそうだ。

ということは、アからエの文を読んだとき、彼らは「こん然一体」の life のままで文の意味を理解することになる。(よし) life を日本語の 4 つの意味に分けて考えるのではなく、「こん然一体となった」状態で心の中に思い描いてみよう、と眼をつむり (うーん) と、うなって精神を集中させてみた。しかし、モヤモヤするばかりで何も浮かんでこない。

それにしても、英語を母語とする人の言語に対する思考回路と日本人のそれとがこんなにも違っているのでは、これはもう、どうにもならないのではないかと弱気になるが、気を取り直して、このところを別の単語でもう少し考えてみたい。

< 4 > empty

英語を見たり聞いたりしたとき、その和訳をひとつひとつ漢字やひらがなに置き換えるのではなく、それらを「こん然一体」となった状態で頭の中に思い浮かべるにはどうしたらいいのだろうか？...それを試すいい英単語はないか？「こん然」「モヤモヤ

感」... だったら、モヤモヤ感そのものの単語 empty はどうか？

empty の本来の意味は「(中身が) からの」「あるべきものがない」で、an empty can は「空き缶」、an empty bottle は「空き瓶」だが、この英単語を見て「空き」という文字を思い浮かべるのではなく「なにもない」状態の缶や瓶の映像をモヤモヤと頭の中でイメージしてみる。

続いて The train was empty. と英語でつぶやいてから、その列車内の状態をイメージする。「ガラガラだった」なんていう日本語は思い浮かべないでイメージする。さらに The street was empty. これも「人通りがない」なんて文字を思い浮かべてはダメ。イメージね。夜間だな。通りに人家は？ 街灯は？ 治安は？ (あっ) 無意識に頭の中で「人家」とか「街灯」とか「治安」とかの漢字を思い浮かべてないだろうね？ そうじゃなくて映像ね。

次は TV ドラマ『FBI』のワンシーン。FBI 捜査官が駐車してある容疑者の車を発見する。銃を抜いて、そっと近寄り中を覗く。仲間を振り返って言った。Empty! そうそう。(うーん) どうだろ？ 少しは「こん然一体」を体験できたのかな... わからない。ま、でも焦らず、次に take で考えてみる。

< 5 > take 5つの和訳に共通する意味

中学の教科書巻末の [Word List] には、take の訳語として5つの異なる日本語が出てくる。① (写真など) を撮る②... を (手に) 取る、... を持っていく、連れていく③ (ある行動) をとる、する④ (乗り物など) に乗る、... を利用する⑤... を選ぶ、... を買う

日本人は、この5つは意味の異なる別々の語だと考えているのだが、それがどうして take という1つの語で表現できるのだろうか？

英和辞典『E-Gate』の編者田中茂範教授はNHKのTV番組『新感覚 キーワードで英会話』(2006年)で次のように述べている。< take には様々な訳語があるが、それらには「自分のところに何かを取り込む」という共通の意味がある。それをコアという。このコアをイメージで理解していけば、日本語の訳語にとらわれなくても、スッキリと英語が分かるようになります>

take のコアは「自分のところに (目的語) を取り込む」で、「取り込むもの」は「物、人、形のあるもの・ないもの、精神的なもの (気分)」などさまざまである。「写真を撮る」、買い物で「これを選ぶ」、「彼を採用します」、「体温を測る」、「薬を飲む」、「～の気分になる」、「(交通機関) を (選んで) 利用する (乗る)」など。以下はその例文だが、英文をつぶやいてから、和訳を思い浮かべることなく、take のコアから英文の映像をイメージしてみる。

Shall I take a picture of you?

I'll take it.

Take it. (人に何か物をあげる場面。遠慮している相手に向かって言う)

I'll take him. (面接後に)

Let me take your temperature.

Take it three times a day after each meal.

Take it easy.
 I can't take it anymore.
 Take your time
 Will you take a bus, or a train?
 We took the high way.
 You took the wrong way.
 You should take an umbrella.
 Catch him! He took my bag!
 Take me to the hospital.
 I'll take you home.
 I want to take you out.

次の文は動作・行動を表す名詞（ a good look, a good care, a shit ）を取り込む型で、動詞と同じ意味になる

Take a good look around you before we leave.
 He take a good care of his grandchildren.
 （上記の good は「十分な」「かなり」という意味）
 I want to take a shit.

念のため和訳は上から順に以下の通り。「あなたの写真を撮ってあげようか」「これにします」（買い物で）「受け取りなさい」「受け取れ」「彼を採用します」「体温を測りましょう」「（薬）1日3回食後に飲んでください」（食べ物 は have でいいが、薬はその効用を集中的に取り込むわけだから take）「肩の力を抜け」（気分を取り込む）「もう我慢できない」「焦らないで」「ゆっくりでいいよ」「バスに乗りますか、それとも列車にしますか」「私達は高速道路で行った」「あなた道（方向）を間違えていますよ」（「自分のところに取り込んで」→「持っていく」「連れていく」「盗る」）「傘を持って行った方がいいよ」「あいつを捕まえて！ 私のバッグを盗った」（連れて行く先は、場所や方向を表す前置詞 to をつければいい。ただし home は to をつけない。この場合 home は「家へ」という副詞。まあ、文法は後づけだろうから。また、副詞の out をつければ、「デートする」という意味にもなる）「病院へ連れて行ってくれ」「家まで送るよ」「私はあなたをデートに誘いたい」「立ち去る前にまわりをよく見てね」「彼は孫をととてもかわいがっている」「ウンチをしたい」

（うーん）「和訳でなく映像をイメージする」というのは難しい。ま、しかし、焦らず少しずつやっていくほかない。

ところで、このように take の和訳（意味）は、使われる場面や take の後に来る語によって違って来る。この点を、より身近な単語で考えてみたい。

【3】動詞の後に来る語によって、動詞の（日本語の）意味が変わる。

< 1 > walk

「walk を使った次の英文を日本語に訳しなさい」

と、英語を学び始めた小学生に質問すれば、英文法のことなど何も知らなくても、好奇

心旺盛な子どもたちは喜んで取りかかるだろう。

文法的な説明は抜きにして、ただ、「英語はおおざっぱだから細かいことは気にせず、walk のあとに続く言葉からその場面を想像して日本語にきなさい」と考えさせる。

I walk.

I walk in the park every day. (every day は「毎日」)

I walk to school.

I walk my dog.

I walk my son to school. (son は「息子」)

I walk 3 kilometers Today. (Today は「今日」)

<解答> 「私は歩く」「私は毎日公園を散歩する」「私は歩いて学校へ行く」「私は犬を散歩させる」「私は息子を歩いて学校まで送って行く(連れていく)」「私は今日3キロ(を)歩く」

* my dog は動詞 walk の目的語だから、「犬を散歩させる」

* my son は walk の目的語だから「息子を(学校まで)歩かせる」

* 3 kilometers は英語では、日本語と違って walk の目的語となる「3キロ(を)歩く」

どうだろうか？ それぞれの文の walk の日本語の意味は、子どもたちでも、おおよその見当がつくのではないだろうか？ もしそうであるなら、私たちの日本語脳でも英語脳の「こん然一体」に近づくことは決して不可能ではない。そんな気がする。

また、英文の中の動詞 walk は全く変化しないのに、日本語の場合、動詞の「歩く」は後に続く単語に応じて表現がさまざまに変わる。その決定的な違いにも、子供たちは気づくだろう。さらに、「必要な単語を思いついた順に並べていけば、英文はできるよ」と、次のように日本語を言いながら英単語を並べてみせれば、英語のシンプルさを実感できるかもしれない。

「私・歩く」、「私・歩く・公園の中」、「私・歩く・学校へ」、「私・歩く・私の犬」

「私・歩く・私の息子・学校へ」、「私・歩く・3キロ・今日」

そして、子どもたちは気がつくだろう。英語には「は、が、を、に、と」という助詞がない。

【4】英語には「は、が、を、に、と」の助詞がない

<1> I'll buy you. . .

と言われると、一瞬(え?)と戸惑うかもしれない。女性に言ったら頬を張り飛ばされるかもしれない。いえ、大丈夫です。そんなことは起きません。この場合は、「あなたを買う」のではなく「あなたに買う」つまり「あなたに何かを買ってあげる」という意味である。だから、相手から I'll buy you. と言われれば、彼らには「おごるよ」と聞こえると思う。

I'll buy you a drink. 「一杯おごるよ」とか I'll buy you lunch. 「昼飯おごってあげるよ」などとネイティブスピーカーは使うけれど、助詞の「に」「を」がない文に慣れていない私は、このフレーズを初めて女性に使ったとき、(大丈夫かな?)と少しビビりま

したね。

I'll buy you a drink. は I'll buy a drink for you と言い換えることも可能で、この方が日本人にはわかりやすいのだが、ネイティブスピーカーは I'll buy you a drink. の方を使う。しかも、日本人は「おごる」と「買ってやる」とが同じだとは考えないので、そのことを知らなければ、I'll buy you a drink. と言われても「は？」となるだろう。この違いはどこから来るのだろうか。

英和辞典で buy をひくと、「(物)を買う」「(人)に(物)を買ってやる(あげる)」とある。しかし、国語辞典の「買う」に、このような用法はのっていない。日本語では、というか日本人の感覚では「物を買う」と「おごる」つまり「人に物を買ってやる(あげる)」は異なる別々の行為だと考えているのではないだろうか。しかし、よくよく考えてみると、なるほど確かに、「人におごる」とは「人を買ってやる」と同じことになる。

<2>助詞「を」「に」

英語には動詞の対象(目的語)にかかる助詞の「を」や「に」がないのに、なぜ、ネイティブスピーカーは「あなたに」と「あなたを」と区別できるのだろうか？

まず、英語の動詞には日本語の意味がいくつかあるが、動詞の後に何が来るかでその意味が決まる。さらに、英語には助詞の「を」と「に」がない分、単語を並べる順番つまり「語順」がとても重要で、これは中学2年で英文法の『5文型』として学ぶ。

「第3文型」(SVO) I'll buy a book. 「私は本を1冊買う」

「第4文型」(SVOO) I'll buy you a book. 「あなたに本を1冊買ってあげる」

I'll buy you a book. は述語動詞が2つの目的語をとる「第4文型」(SVOO)である。動詞 buy という行為の受け手は you (人)で、主語の I (私)は「あなたに買ってあげる」という情報を相手にまず伝えたいから人を先に持ってくる。そのあとで buy という行為の対象である「a book を」という情報を伝える。

つまり、buy のあとに you など人称代名詞や人を意味する名詞が来た場合は、それにかかる助詞は「を」でなく「に」になる。だから、I'll buy you 「あなたに買ってあげる」と言われた場合にネイティブスピーカーは、その文がそこで終わるとは思わない。次に来る目的語の「～を」は何だろうと待っている。

このように見てくると、「は、が」と「を、に、と」という助詞がない英文を、私たち日本人が作ったり読んだり話したりするうえで、『5文型』を意識することは重要だと思う。『5文型』を意識していれば、次の文の違いは容易に判断できるだろう。

① I'll bring her to the party. ② I'll bring her some coffee.

①は SVO + 修飾語 (to the party)。目的語は her の1つだけで、あとに続く to the party から判断すれば「彼女をパーティーに連れて来るよ」となる。

②は SVOO 型で、目的語は her と some coffee の2つだから、助詞は「彼女に」「コーヒーを」持ってくるとなる。「彼女をコーヒーに」は考えられない。

では、逆に「そのことを彼に言わないでね」の日本語を英文にしなさい、と問われた場合、Don't tell him that という英文がスッと出てくるだろうか？

Don't tell のあとに続けて目的語を2つ him と that をそのまま並べるわけだが、助詞

の「に」や「を」に慣れている日本人にとって、これがなかなか難しい。(えーと?) him のあと that の前に何か前置詞があるよな? などと考えてしまう。しかし、(ああそうか、これは SVOO 型だな) と気がつけば、目的語をそのまま 2 つ並べられる。

もう 1 つ。TV ドラマ『FBI』に凄いセリフが出てきた。和訳してみてください。
He said “If you steal me a car in the next hour, I’ll give you 1,000 dollars cash”

(え、steal me?) と、あわてる必要はない。SVOO 型だから「そいつは言った/俺に車を盗んでくれたら/今から 1 時間以内に/現金で千ドルやるよ」となる。

なお、I’ll cook you. と言われても焦らないでね。「あなたを料理する」のではなく「あなたに料理してあげる」という意味で、I’ll drive you. も「あなたを運転(操縦)する」のではなく、「あなたを車で送るよ」という意味だからね。

< 3 > 助詞「は」「が」

日本語の助詞「は」が既知の情報を示すのに対し、「が」は新情報を示す。または現象の描写に使われる。例えば「富士山はきれいだ」は、誰もが既に知っている情報を伝えているのに対して、「富士山がきれいだ」は、目の前に富士山がある状況で相手にとっては新しい情報を示している。

この「が」と「は」のニュアンスの違いのようなものは英語にもあるのだろうか?

『日本人の英語』(岩波新書)で著者のマーク・ピーターセン氏は、それは冠詞 a (an) と the の違いにあると指摘している。

Once upon a time, in a certain place, an old man and an old woman lived. The old man went to the mountain to cut grass, and the old woman went to the river to wash clothes. 「昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは山に柴刈りに行き、おばあさんは川に洗濯に行きました」

昔話『桃太郎』の冒頭だが、最初のセンテンスの「おじいさんとおばあさん」の助詞は「が」で、次の「おじいさん」は「は」である。それは「が」が物語の主語を特定し新情報を示すのに対し、主格助詞「は」は既知の情報を扱うからである。

これを、「昔々、あるところにおじいさんとおばあさんはいました」と言われたら日本人の多くは、きっと「ちょっと待って。変だよ」と訂正したくなるだろう。(そんなの、ひらがな 1 字の違いじゃん。どっちでもいいでしょ) ... とはならない。これと同じで、この英訳も最初が a[an] で、次が the でなければならない。

ところで、『桃太郎』の「おじいさんとおばあさん」は英語では an old man と an old woman と訳す。「おじいさん」とか「じじい」という呼称は、日本では、親族の祖父を指すだけでなく見知らぬ老人に対しても使うが、英語にそういう用法はない。親族でない老人は単に old man[woman] で、ヘミングウェイの小説『老人と海』も原題は The old man and the sea だ。

弱い子をいじめているところを、通りがかりの老人に注意された不良少年が言う。

Do you want to fight me, old man? 「おい、ジジイ。やるのか?」

(この old man は呼びかけだから冠詞はつけない)

ただし、「老人」と呼ぶと失礼にあたる場合もあるので、そういうときは elderly gentleman [lady] という表現を使う。さらに、欧米の人にはとても奇妙に感じられるようだが、日本では両親が自らの親を「おじいちゃん」「おばあちゃん」と呼ぶことも珍しくない。孫を基準にして家族の構成員を互いに呼びあうこの方法は、家長の後継ぎを重視する家父長制度の流れだとする見方もあるが、別の見方もある。祖父母にとって孫はとてもかわいい存在なので、孫を基準にすることで両親が祖父母から何かと譲歩を引き出そうとする作戦・工夫ではないかというのである。なるほど、それはあると思うな。

【5】「冠詞 a は名詞につくアクセサリーではない」

英語の多くの単語は、日本語からすると意味の範囲が広いが、その前後の語によってその範囲は狭められ、より具体的な意味に絞られてくる。冠詞だって同じである。そのあとに続く名詞や文全体の意味を具体化し決定する。

<不定冠詞 a, an >

① go to jail [prison] と go to a jail [prison] の違いは？（冠詞 a のあるなし）

go to jail [prison] は「刑務所に入る」だが go to a jail [prison] と a がつくと「（用事があって）ある刑務所を訪れる」の意味になる。

② go to school と go to a school の違いはなにか？

冠詞なしが「（勉強するために）学校に通う」だが、冠詞の a がつくと「（用事あって）ある学校へ行く」となる。go to church も go to bed も同じで冠詞はつけない。go to work も「仕事に行く」「出勤する」だが、この場合の work は名詞で冠詞はつけない。

前述の『日本人の英語』に面白いことが載っていた。「アメリカに留学している日本人の友人から手紙がきたが、その中に次の文章がいきなり出てきた。Last night, I ate a chicken in the backyard.（昨夜、鶏を1羽[捕まえて、そのまま]裏庭で食べ[てしまっ]た）これを見たときの気持は非常に複雑で、なかなか日本語では説明できないが...」「a は名詞につくアクセサリーではない」chicken は「鶏肉」で a chicken は「1羽の鶏」の意味になる。

そのほか例えば英和辞典で glass を引くと、無冠詞の glass には「ガラス」「ガラス製品」という意味があり、冠詞の a をつけた a wine glass は「1つのワイングラス」で、a glass of wine なら「グラス1杯分のワイン」だ。He drank three glasses of wine. は「彼はワインを3杯飲んだ」になる。glasses と複数形にすれば「眼鏡」である。

なお、「散歩する」「風呂に入る」「シャワーを浴びる」take a walk [bath, shower] に不定冠詞 a をつけるのは、それを「1つ（1回）の行為」としてとらえているからだそうで、take a shit 「ウンチする」も冠詞の a をつける。

また、「散らかった（ひとつの）状態」をさす mess という名詞があるが、これにも不定冠詞の a をつける。日本人の感覚だと、「散らかっている状態」を表現する場合は形容詞を使うのではないの？ となるだろうが、英語では名詞を使う。

Don't make a mess in the house. 「家の中を散らかさないで」

I'm afraid the house is a mess. 「家が散らかっているんじゃないかな」

Sorry about the mess. → Oh, that's OK. 「散らかっていて、ゴメンよ」 → 「いえ、いいよ」

【6】「連想ゲーム」 英単語の意味をその前後の語から推測してみる

ここまでで明らかになったことは、「英単語の持つ意味は範囲が広く、日本語に訳すと複数になる」そして、「その単語の意味は前後の語によって確定する」では、次に英単語の意味を、その前後の語から推測する「連想ゲーム」をしてみよう。

< 1 > free

- ① What do you usually do when you are free? [in your free time?]
- ② The drinks are free.
- ③ Admission free. （ Admission は「入場料」）
- ④ Free Smoke （ レストランのテーブルにあった掲示 ）

< 解答 > ① 「暇なとき（あいてるとき）いつも何をする？」 ② 「飲み物は無料です」（「フリードリンク」） ③ 「入場無料」 ④ 「禁煙」

日本人は「フリー」を「自由な」「暇な」という意味で最初に覚えるから、なかなか「無料の」という意味に結びつかないが、本来の意味は「なにものにも束縛されていない」という意味である。ここから「無料の」という意味も出てくる。

掲示や文の free が「（時間から）自由な」なのか「（料金から）自由」なのかは、前後の語で判断できる。しかし、大事なことは、free という英単語を「自由な（の）」とか「無料の」とかいうような個々の日本語に結びつけるのではなく、free = 「なにものにも束縛されていない状態」と理解することで、これが英和辞典『E-Gate』のいう「こん然一体」だろうと思う。

ところで、日本にも「フリードリンク」というものがあるが、日本の場合は一定の料金で指定されたドリンクを好きなだけ飲めるというシステムで、free（無料）ではない。

カナダへ旅行したとき、レンタカーで走っていて道を尋ねるためカフェに立ち寄った。道を聞くだけでは悪いかと思ってコーヒーを注文し、飲んでから中年のウェイターに道を尋ねると、私を外へ連れ出してていねいに教えてくれた。私はお礼を言い、I didn't pay for the coffee yet. 「コーヒーの代金をまだ払ってない」というと、いやコーヒーは It's free drink. だと言う。（え、うそ？）コーヒーだけで他に何も注文してない。いくらなんでもそれは申し訳ない。やっぱ、I'll pay for it. 「払うよ」と言ったが、No. It's free drink だと言い張って受け取らなかった。なるほど、これが本当のフリードリンク。

ただし、「フリーマーケット」は「自由な市」ではなく「蚤の市」だから注意。こちらの「フリー」は r でなく l の flea で意味は「蚤」。flea market

< 2 > short は「短い」だけではない。次の文を和訳しなさい

- ① He is shorter than his brother.
- ② I am 500 yen short = I am short by 500 yen.

③ We are short of water.

④ I am short of sleep.

<解答>①「彼は兄弟より背が低い」②「500円足りない」③「水が不足している」④「寝不足だ」(それにしても「背が低い」と「足りない」が同じ語というのは、ちょっとどうかと思うが英語は論理だから)

<3> tired の日本語の意味を2つ想像し、次の文を和訳しなさい

① I'm very tired from swimming.

② I'm tired of the same food every day.

③ I'm bored, Dad. I'm tired of my toys and computer games. There is nothing good on TV.

<解答>①「水泳でとても疲れた」②「毎日同じ食事でうんざりだよ」③「退屈だよ、パパ。おもちゃにもゲームにも飽きちゃった。テレビも面白いのをやってない」

*「飽きた」と「疲れた」が1つの同じ英単語だが、その連想の過程は？

「疲れた」→(精神的に)疲れた→「うんざりだ」→「飽きた」

「に飽きる」は tired of で、「で疲れる」は tired from

*英語の「退屈だ」には、ちょっと注意

I am board. 「退屈だよ」←「退屈だ」ということは、主語である人が「退屈にさせられた」という状態を表すから過去分詞(受け身)にする。これに対し、物事が主語のときは現在分詞の boring を使う。His lesson is boring. 「彼の授業は退屈だ」

I'm boring と言うと「私は退屈な人間です」になってしまうので注意

<4> time には日本語にすると3つの意味がある。次の英文を和訳しなさい。

① What time is it now?

② How many times have you been to France?

③ Is this your first time to come to Japan?

④ The population of China is about twelve times (as many as) that of Japan.

<解答>①「今何時ですか？」②「フランスへは何回(何度)行ったんですか？」③「日本に来たのは、これが初めてですか？」④「中国の人口は日本の約12倍だ」

日本人には「タイム=時間」が定着しているので、なかなか「回数」や「倍」の意味に慣れないが、辞書には、次のように矢印で説明している。まず①「時間」→ある事柄の起きる時→そこから回数が連想されて②(回数)「回」→さらに(繰り返される回数)から→③「倍」

(うーん...) ②「回数」から③「倍」へというのはわかるが、①「時間」から②「回数」への連想は少し難しいかな。しかし、②の回数については、How many「いくつ」がついた time だから s をつけて「回数」「何回？」となり、また your first「あなたにとって最

初の」がついた time も「回数」と理解できるような気がする。

さらに「回数」は「倍数」でもあるので、How many times～? は「何回?」でもあるし「何倍?」でもある。「倍数」の方は、そのあとに larger など比較級の単語や「同じ程度の」とか「同じ数量の(何倍)」を表す as ～ as をつける。いずれにせよ、How many times とか twelve times as many [much]as など前後の単語とまとめて覚えておくことが大切だ。

【7】『連想ゲーム』 名詞からその動詞の意味を連想してみる

water を動詞で使うと「水をかける」「水が流れる」「唾液が出る」だが

< 1 > fish を動詞で使うと、どういう意味になるだろうか?

fish の動詞の意味はまず「魚を捕る」だが、そこから次にどういう動作が連想されるだろうか? 次の英文は映画に出てきたもので、川に落ちて気を失った主人公が助けられたときの会話である。fish が動詞で使われているが、和訳してみてください。

Did I die? → Yeah, You were down three minutes before I fished you out.

ここでの fish の意味は「～を水中から引っ張り出す」→「私、死んでた?」「ああ、俺が君を水中から引っ張り出すまでの3分間はダウンしてたよ」

しかし、これ大人も子どもも楽しめる、つまり子どもをも対象にした映画のセリフだけど、この動詞 fish の意味が子どもにも理解できるというのが不思議。

「いいかい。fish はね、動詞で使うと『～を水中から引っ張り出す』という意味になるんだよ」と教わるのだろうか? それとも、そんなこと教わらなくても、なんとなくわかるようになる...みたいなことだろうか? そこがわからない。

< 2 > land は名詞で「陸」「土地」だが、動詞で使うとどんな意味になるのだろうか?

次の英文を和訳しなさい。

- ① Our plane lands at Haneda.
- ② I fell and landed on my left hand.
- ③ It took me two whole days to land your papa.

① 「飛行機は羽田に着陸します」

② 「私は転んで左手をついた」

③ 「私なんか、あなたのパパを獲得する(釣り上げる)のに丸2日かかったわ」
(映画『GIANT』。ヒロインのエリザベステイラーが夫とのことを反抗期の娘に話す)

land の動詞は「着地(着水)する」「上陸する」→「釣り上げる」「獲得する」

< 3 > さらに、もう1つ。これは難しいよ。ditch という語の名詞は「溝」「排水溝」「堀」という意味だが、次の動詞 ditch の意味はなんでしょう?

Someone stole my motorcycle and ditched it there.

「誰かが俺のバイクを盗んで、そこに乗り捨てたんだ」

動詞 ditch の意味は「(車)を溝に落とす、乗り捨てる。(列車)を脱線させる」だが、名詞の「溝」「排水溝」から「乗り捨てる」を連想するその奔放さと論理の展開が凄い。そして、これも米国の TV ドラマ『FBI』に出てきたセリフだから、それを居間で観ているフツウの家庭の大人も子どもも理解しているということになる。そこがまた凄い。

だが、驚くのはまだ早い。その論理の展開には、思わず拍手したくなるような素晴らしい単語もある。

【8】視点を変えれば異なる意味になる → leave, rent

< 1 > leave の 2 つの意味

- ① Could you leave this room at once.
- ② I couldn't find my keys, when I was leaving the house.
- ③ Are you leaving? (出席したパーティーで、早めに帰る場面)
- ④ We left together there. (刑事の尋問に対する返答)
- ⑤ How much money is left?
- ⑥ Leave me alone

- ① 「この部屋からすぐ出て行ってくれませんか」
- ② 「家を出るときカギが見つからなくて」
- ③ 「(もう)帰るの?」
- ④ 「私たちはそこで別れました」
- ⑤ 「お金いくら残ってる?」
- ⑥ 「私のことはほっといて」

「(場所・人)から離れる」行為について、「離れる方」から「離された方」「残された方」に視点を移せば「残る」「残される」「(そこで)別れる」ということになる。したがって、leave にはその 2 つの意味がある。この論理の展開が素晴らしい。

leave には、さらに名詞で「休暇」という意味がある。なるほど、「仕事を離れる」から「休暇」なのかと感心したが、これはどうも違うらしい。「休暇」の leave と「離れる」の leave は語源が異なるようだ。

< 2 > ちなみに、英語には 3 種類の「休み」がある

- ① day off 仕事のない「休みの日」 → a day off, a week off, Saturday off

I have a day off every Thursday. 「私は毎週木曜日が休みです」

I'd like to have Saturday and Sunday off. 「私は土日休みがいいな」

I will take a week off. 「1週間休みをとる」 ← 仕事を off にする

- ② leave

「育児休暇」 child-care leave

「産児休暇(産休)」 maternity leave

「病気療養休暇」 sick leave

「有給休暇」 leave with pay

- ③ vacation 一般的には、旅行などをしてリフレッシュする長期的な休暇。2週間くらいがふつう。私が高校2年生のとき、広田三枝子の『ヴァケーション』という歌が大ヒットしたが、これはローマ字読みの発音で英語ではないので注意。

< 3 > 「お金を払って借りる」と「お金をもらって貸す」が同じ動詞 rent

これも同じ論理かな。視点を変えればそうなる。日本人の感覚からすると（ええっ？うそ？）となるだろうが、彼らはどのように判断しているのだろうか？

① My son rents a room in Tokyo. 「息子は東京で部屋を借りている」

② She rents a student a room. 「彼女は学生に部屋を賃貸している」

動詞の rent だけで考えると、英語では「借りる」と「賃貸する」が同じ語になるが、日本語脳からすれば（ええっ？ そんな無茶な）となる。

①は「借りる」「貸す」の両方どちらも意味するが、父親が息子のことを話している場面だから「借りる」だろう。②はSVOO型で、間接目的語は「学生」だから「学生を貸す」にはならず「学生に貸す」となる。

じゃあ、She rents a room. は「借りる」のか、「貸す」のかどっちなんだ？ となるが、会話の中で「貸す側」と「借りる側」が曖昧になる場合は、rents a room のあとに to か from をつけて明確にする。

She rents a room to a student. 「彼女は学生に部屋を貸している」

She rents a room from Mr. Yamada. 「彼女は山田さんから部屋を借りている」

< 4 > 「信頼」と「自信」が同じ単語 confidence. これも同じ論理だろう。「信頼する対象」が他人か自分自身かということで、それは文脈で判断できる。

① I have confidence that I can manage it

② I gained boss's confidence.

① 「私は何とかやりこなせる自信がある」

② 「私は上司の信頼を得た」

さらに驚くのが、confidence man [con man] 「詐欺師」という英語。これは「相手の信頼を巧みに利用して金銭をだまし取る」という論理の展開から来ている。

A group of con men was arrested. 「詐欺師のグループが逮捕された」

このように見てくると、英語はおおざっぱだが、論理的かつシンプルだと思ってしまう。そして、このあたりが英語の強みで、英語が国際共通語になりえた理由のひとつだと思う。日本語の場合は、言葉に「気持」が入るから、表現が細やかで多様になる。外国人が日本語を学ぶのは大変だろうなと思う。

【9】 日本語は言葉に気持（感情や感覚）が入るが、英語は論理

< 1 > give

動詞 give は「（自分のところにある物や事）を相手に手渡す」という意味だが、この give を日本語に訳す場合、「与える」「やる」「あげる」「差しあげる」などになり、他人を主語にすれば「くれる」で、受動態にすれば「もらう」「いただく」になる。日本語が、このように相手や状況によって表現をさまざまに変えるのは、言葉に「気持が入る」からだと思う。

しかし、英語の場合は、動作の対象（手渡す物や手渡す相手）による変化はない。日本人の感覚では「手渡す物」が、例えば「風邪」の場合は、「あげる」や「もらう」では

なく「風邪を移した」「移された」とか「感染した」などと表現を変えるが、英語を話す欧米人にとって、そんなことは問題にならないようだ。

Give me the scissors. 「ハサミを渡しなさい」

(母親がハサミを手にした幼児を見て、あわてたときの表現)

I'll give you a cookie. 「クッキーをあげるよ」

He gave me a book. 「彼が本をくれた」

Give me my money back. 「オレの金返せ」

I'll give you a shot. 「注射しましょう」

(手渡すものは物だけではない。形のないものも渡す)

Give me a kiss. 「キスしてちょうだい」

Give me an example. 「例をあげてください」

My brother gave me his cold. 「兄の風邪が移った。移された」

Give me a discount. 「まけてよ」 ショッピングでの会話

Give me a ride to the station. 「駅まで乗せて行ってよ」

うーん、なるほど日本語はややこしいし難しいなと思う。逆に言えば、英語はとてもシンプルだということになる。このところを、もう少し例を挙げて考えてみる。

< 2 > 日本語は「良いこと」と「悪いこと」では表現が変わるが、英語は論理が同じなら「良いこと」でも「悪いこと」でも表現を変えない

Thanks to you I got a job. 「あなたのおかげで就職できました」

Thanks to you I spent all my money. 「お前のせいでお金を全部使っちゃった」

I missed the last train. 「最終列車に乗りそこなった (間に合わなかった)」

I missed the accident. 「事故を免れた」

< 3 > 「テイクアウト」対象が物でも人でも区別しない

異性を「連れ出す」のを「お持ち帰り (テイクアウト)」と言って笑いを取る TV 番組があったが、英語の場合、内容が同じであれば、対象が人間でも動・植物でも物でも動詞や形容詞は同じである。「人を連れ出す」も「物を持ち出す」も同じ take out を使う。この場合の take は「持って行く」「連れて行く」である。

I took her out for dinner. 「私は彼女を食事に連れ出した」

To drink here or to take out. 「ここで飲みになりますか、それともお持ち帰りですか」

I'll take an umbrella with me. 「傘を持って行く」

I'll take my grandchildren to the park. 「孫を公園へ連れて行く」

Catch him! He took my bag. 「あいつを捕まえてくれ！ 俺のバッグをとった」

I'll take your suitcase to your room, sir. (ホテルで従業員が客に言う)

「スーツケースは部屋までお持ちします」

*最後の2つの文を見てください。take one's bag は場面によっては「盗む」となり、「お

持ちします」ともなる。これも論理。

< 4 > 「(物)を持って来る」と「(ひと)を連れて来る」→ 英語は同じ bring

I'll bring you some coffee. 「あなたにコーヒーを持ってきてあげる」

I'll bring her to the party. 「彼女をパーティーに連れて来るよ」

< 5 > 「持つ」と「抱っこする」も同じ動詞 hold である。

I hold a pencil in my right hand 「右手で鉛筆を持つ」

She holds her baby in her arms. 「赤ちゃんを抱っこする」

< 6 > 「死ぬ」と「枯れる」が同じ→ die

He died. 「彼は死んだ」

The flowers died. 「花が枯れた」

* 形容詞の dead

He is dead. 「彼は死んでいるよ」

The flowers are dead. 「その花は枯れているよ」

This battery is dead. 「この電池は切れているよ」

< 7 > kill 「殺す」と「枯らす」が同じ

The dry weather killed the plants in the garden.

「庭の草木が乾燥した天候で枯れた」

殺すのは人や動植物だけではない。米国 TV ドラマで You killed the washing machine.

「あなたは洗濯機を壊した」というセリフも出てきた。

kill に対し murder は「人殺しをする」(名詞「人殺し」)。殺す相手は人に限る

< 8 > 「食べ物を与える」→与える相手が「サル」でも「赤ちゃん」でも「老いた母」でも動詞はみな同じ feed を使う。このあたりが英語の凄いところだ。

Do not feed the monkeys. 「サルにエサをやらないでください」

She feeds her baby. 「赤ちゃんに食べさせる。乳をやる」

I feed my mother. 「母に食べさせる」

< 9 > 「何歳?」「築何年?」「樹齢何年?」→人間も建物も樹木も同じ How old?

「あの子は何歳ですか?」は How old is he (she)? だが、「この家は築何年ですか?」も How old is this house? となり、「この家は築 20 年です」は This house is 20 years old. となる。「この樹は樹齢何年?」も How old is this tree? で「樹齢 1000 年」は This tree is 1000 years old. となる。なお、「年齢の数え方」は英語と日本語では違う。

数年前のことだが、テニス・ウインブルドン決勝の TV 放送で、アナウンサーがフェデラー選手を 37 歳 342 日と紹介した。対するジョコビッチは 32 歳 2 カ月。今までで日数まで細かく紹介していたというのは記憶にない。37 歳のフェデラーが決勝にまで勝ち進んだことがいかに偉大なことか。アナウンサーは、それを伝えたかったようだ。

日本では、1950年、法律で公的な場面での「年齢のとなえかた」は「満年齢」とされた。それまでの「数え歳」というのは生まれたときが1歳で、以後、誕生日ではなく、お正月が来るとみんな一緒に年（歳）を重ねた。なるほど、だから昔のお正月は日本人にとって特別だったんだ。お正月を迎える子どもの気持も格別で、だから「もういくつ寝るとお正月♪」（唱歌）だったんだね。

ただ、現在でも1歳未満の赤ちゃんの場合のみ「生後10日」とか「生後2週間」あるいは「生後2カ月」と表現する。しかし、英語の場合は、「年数」にこだわらず「日・週・月・年の数」のあとにold（生後）をつければいいのだから He is 10 days old. He is 10 weeks old. He is 10 months old. He is 10 years old. となる。

だから、He is 37 years (and) 342 days old. の日本語訳も「37歳342日」でなく「生後37年342日」とした方がわかりやすいかもしれない。（え？）試合の結果ですか？世界レベルのテニスで30代の選手が勝ち上がるのは厳しいことなので、32歳のジョコビッチも凄いのですが、37歳のフェデラーが決勝進出なんてもう奇跡ですね。で、両者の直近の対戦ではフェデラーが4連敗。なので、（ちょっとムリかな？）と観ていたのですが、（うわー、フェデラーが勝つ）と何度も思いましたね。5時間に及ぶ死闘でした。

< 10 > 機械と人間が同じ

printer 「印刷機と印刷工」、translator 「翻訳家と翻訳機」

日本人の感覚では、人と機械の呼び名が同じでは？ となるが英語は論理

< 11 > garbageman 「ごみ収集人」と hangman 「死刑執行人」

garbage は「生ごみ」だが、garbageman 「ゴミ収集人」という語があるのには驚いた。さらに hangman 「死刑執行人」という語にもびっくりした。

hang は「洋服掛け」（ハンガー）の動詞で「つるす」という意味で、そこから「絞首刑にする」という意味にもなり、hang oneself なら「首つり自殺をする」ということになる。この連想にも驚いたが hangman にはもう仰天。

英語は、日本語と違って、言葉に気持は入らないから garbageman や hangman に対して私たちが抱くような違和感はないのだろう。動詞に-man をつければ「～に従事する人」を意味することになるのだから、おかしいところは何もない。むしろ、おかしいと感ずる方がおかしいということになるのかもしれない。

piano man と pianist はどちらも使うし、barman と bartender も同様である。ただし、fireman （消防士）は性差別だとして fire fighter に変更された。

< 12 > bag

英語では、小さな紙袋から手提げカバン、スーツケースまですべて bag である。日本語では、駄菓子を入れる紙袋は「紙袋」と言い、オランダからの外来語だとされる「カバン」とは区別する。紙袋と旅行用のカバンが同じ語というのは、日本人の感覚からすれば（変だよ）となるが、物を入れる袋という論理からすればみな同じ。

【10】連想過程がしっくりこない単語

< 1 > なぜ? 「興味」と「利子」「利害」が同じ単語の interest

interest の語源は「かわりを持つ」ということだそうだが、これがなぜ「利益」「利子」「利害関係」に結びつくのだろうか? 人間誰も「損得」や「利害」には「関心」を持ち関わってしまうということらしいが... じっくりこない。

What kind of sports are you interested in? 「どんなスポーツに関心をお持ちですか」

I'll pay back this with interest. 「これ、利子付けて返すから」

There are some conflicts of interests between neighboring countries.

「隣国同士には利害の対立がいくつかある」

< 2 > 「貧しい」と「かわいそうな」「哀れな」が同じ単語の poor

They were all poor. 「彼らはみな貧しかった」

He was born poor. 「彼は貧しい家に生まれた」(第2文型 SVC)

My poor father! 「私のかわいそうな父さん」

< 3 > 「太陽系」と「ソーラーシステム」が同じ単語 a solar system

The earth is only a small spaceship floating in a solar system in the enormous universe.

「地球は広大な宇宙の1つの太陽系の中に浮かぶ小さな宇宙船にすぎない」

We had a solar system installed on the roof of our house.

「我が家の屋根にソーラーシステムを設置してもらった」

< 4 > 「宇宙空間」と「余地」「(空いた)場所」が同じ単語 space

Who was the first person to travel in space?

「宇宙を最初に旅したのは誰ですか」

Is there space to park a car? Is there a parking space?

「車を停める場所ありますか」

< 5 > 「大気」と「雰囲気」が同じ単語 atmosphere

The rocket flew out of the atmosphere. 「ロケットは大気圏外まで飛んだ」

The atmosphere of the meeting was very friendly.

「会議の雰囲気はとても友好的だった」

Read the atmosphere [あるいは room]. 「空気読めよ」

< 6 > 「部屋」と「空間」「余地」「(空いた)場所」が同じ単語 room

My house has six rooms. 「私の家には部屋が6つあります」

In the back seat, there's enough room for three adults.

「後部座席には大人3人が座れるスペースがある」

(部屋には靴を脱いで上がる日本人の感覚と靴のまま部屋に入る欧米人の差かな?)

< 7 > 「秘密」と「秘訣」は同じ単語 secret.

日本人からすると2つは違うと思うが、「他人に知られていない」という共通点はある。

This is a secret between you and me. 「これは二人だけの秘密だよ」「ここだけの話だよ」
Elderly Japanese people look young compared to western people. What's the secret? Is it the way of thinking? Is it what you eat?

「日本のお年寄りとは西洋人と比べて若く見えるけれど、その秘訣はなんですか？ 考え方はですか。それとも食べるものですか」（新任の米国人英会話講師から言われたお世辞）

< 8 >これにはびっくり。想像力豊かな plant

「プラント輸出」とは大規模な生産設備や施設一式を輸出することだが、plant のもともとの意味は「植物」。これが、どうして「工場」や「機械設備」につながるのか理解できない。その連想の過程は（動詞）「（植物）を植える」→「根つかせる」→「しっかりと据える」→→「工場」「機械設備」だそうだが、私には理解不能だ。

< 9 >これには納得！「心臓発作」と「心臓麻痺」「心肺停止」

「心臓発作」は a heart attack で心臓麻痺は a heart[cardiac] arrest つまり「発作」は「攻撃」で「麻痺」は「逮捕」（活動・行動の停止）。このように、「発作」とか「麻痺」とか新しい言葉を考案せず、従来からの言葉で間に合わせれば言葉の数は減る。

He died of a heart attack. 「彼は心臓発作で亡くなった」

I have an attack of the asthma. 「ぜんそくの発作が起きる」

He was taken to the hospital with a cardiac[heart] arrest.

「彼は心臓まひで病院に運ばれた」

< 10 >①「尋ねる」「質問する」と②「頼む」と③「要求する」が同じ英単語 ask

① She asked me "Are you tired?" 「彼女は私に『疲れたの?』と尋ねた（聞いた）」

① Don't ask me. Ask her. 「俺に聞くな。彼女に聞けよ」

② I'm asking you to do that. 「私は頼んでいるんだ。それをしてってくれって」

③ The child asked his mother for his pocket money.

「その子は母に小づかいをねだった」

* 「～を要求する」のときは前置詞 for をつけて < ask 人 for 物 >

【11】英語はおおざっぱ

< 1 >クラス

Good morning, class. と1限目の授業で、教室に入って来た先生が挨拶する。意味は「クラスの皆さんおはようございます」。英語の class は teach[take] a class 「授業を教える（受ける）」のように①「授業」と②（一緒に授業を受ける生徒・学生）の2つの意味を持つ。なお、日本語の「クラス」（学級）A組、B組は homeroom である。

それにしても、「授業」と「授業を受ける生徒」が同じって、少しおおざっぱすぎないかと几帳面な日本人は思うだろう。考査の最後に、先生が次のように言う。

I'd like to collect your papers now.

「それでは、答案用紙を集めます」

< 2 > 英語の paper は「紙」だけではない

①「紙」②「答案用紙」③「論文」「レポート」④「書類」「証明書」⑤新聞

She can't live in the city without papers.

「書類（身分証明書）なしでは、この都市で暮らせない」（映画『第三の男』1949年作）という英文を見たときは驚いた。（え？）いくらなんでも、大事な書類と紙が同じって、と。

しかし、先日（2025年）、記者会見で大臣が「書類」と言わず「まだカミ（紙）を見てないので」と言ったのをTVで観て（へえ...）と思った。もしかしたら、政治家や官僚たちは「書類」のことを「紙」と呼んでいるのかも知れない。

< 3 > 野球場の「ブルペン」 bullpen

大谷翔平選手の驚異的な活躍で、米国メジャーリーグの試合の様子が日本のTVでもひんぱんに流されるようになったが、そこで、なるほどと感心したのが「ブルペン」という言葉である。

bull は「雄牛」、pen は「檻」「囲い」。もともとは「闘牛場で待機させる牛の囲い場所」のことだが、野球場では登板を待つ救援投手が投球練習する場所を指す。さらに英語では、場所だけでなく、そこで肩慣らしをする控えの投手陣全体を指す言葉でも使われるのだそう。class と同じ論理だが、出番を待って気合を入れる救援投手を同じく出番を待って興奮する闘牛にたとえるなんて、英語ならはでのことだと感心する。

< 4 > fly の意味

飛行機「を操縦する」「に乗っていく」「を飛ばす」「（凧）を揚げる」「（国旗）を掲げる」

英会話講師から次のように訊かれたときは、英語ってホントに融通が利くというか、おおざっぱなんだと感心した。

How did you get to Canada? Where did you fly to from Japan?

「どうやってカナダまで行ったの？ 日本からどこへ飛行機で行ったの？」

この場合の fly は「飛行機で（に乗って）行く」という意味である。ところが、この fly

は次のようにも使う。

I want to fly this plane? 「私はこの飛行機を操縦してみたい」

The children were flying model planes. [kites]

「子どもたちは模型飛行機を飛ばしていた（凧をあげていた）」

小学1年生の孫が「じいちゃん、今日グラウンドでこの凧を飛ばしたよ」と工作の授業で作った凧を私に見せたときは思わずうなりました。なるほど、言葉を覚える前の子どもの自然の感覚だと凧は「飛ばす」になるんだ。

国旗を掲げるも fly a national flag. 日本語はほんとに大変だ。「飛行機に乗っていく」「飛行機を操縦する」「模型飛行機を飛ばす」「凧を揚げる」「国旗を掲げる（揚げる）」英語は1つの単語なのに日本語は5つ覚えなきゃならない。ちなみに名詞の「ハエ（蠅）」も fly(flies)

< 5 > 「とまる」「とめる」と「停車駅」「停留所」とが同じ単語 stop

The train stops at Shinagawa. 「電車は品川に停まります」

The next stop is Shinagawa. 「次の停車駅は品川です」

< 6 > 「結婚」と「結婚生活」「夫婦仲」とが同じ単語 marriage

I was surprised at her marriage to Paul. 「彼女がポールと結婚したのには驚いた」

How's your marriage? 「あなた達、夫婦仲（結婚生活）はどのなの？」

< 7 > 「狩り」「狩りをする」と「狩りの獲物」とが同じ単語 hunt

Yes, he likes to hunt. 「ええ、彼は狩りが好きです」

Did he send you some photos of his hunts? 「彼は獲物の写真を君に送ってきただろう」

米国の TV ドラマ『FBI』に出てきた hunt という単語にも驚いた。狩りでしとめた「獲物」の英語が his hunt だった。日本人は「狩の獲物」と「狩」は異なる事柄だから、それを表す言語も別々でなければならぬと考えるのだが、英語を母語とする人からすれば、そんなことはその前後の語や場面から判断できるだろ。その程度の違いのためにわざわざ別の単語を考え出す必要はないということだろうか？ このような英語と日本語の違いから連想することがある。『日本国憲法』第 60 条だ。

< 8 > 『日本国憲法』第 60 条 「予算」と「予算案」

「予算は、さきに衆議院に提出しなければならない」の「予算」は「予算案」の誤りで、この誤りは英語の和訳から生じたものと駒澤大学の西修教授が指摘していた。

英語の budget は「予算」と「予算案」の両方の意味で使われる。ここが日本語と異なる。しかし、この点については『大日本帝国憲法』第 65 条でも「予算ハ前（さき）ニ衆議院に提出スヘシ」となっていて同じである。こちらの憲法の手本はドイツをはじめヨーロッパ各国の憲法だから、調べてみるとドイツ語も発音は異なるが綴りは同じ budget で「予算」と「予算案」の両方の意味を持っている。ちょっと待てよと思って、フランス語やスペイン語を調べてみると、「予算」と「予算案」は同じ 1 つの単語だった。

日本人からすると国会審議を経る前の「予算案」は、審議を経て正式に成立した「予算」とは全く異なるのだから第 60 条の記述は誤りだということになるが、欧米の感覚からすればそうではないようだ。

< 9 > 関連してもう 1 つ export

export の名詞は「輸出」「輸出業」だが、複数形の s をつければ「輸出品」「輸出額」になる。

They grow coffee in Brazil for export. 「ブラジルではコーヒーを輸出用に栽培している」

He is engaged in export. 「彼は輸出業に従事している」

What are the chief [major] exports of Canada. 「カナダの主要輸出品は何ですか」

Last year the total amount of exports exceeded that of imports.

「去年は輸出総額が輸入総額を上回った」

日本人の感覚からすると、「予算」と「予算案」が異なるように、「輸出」「輸出業」「輸出品」「輸出額」の4つは別々の事なので「輸出」にそれぞれ「業」「品」「額」の1語を付け足して区別するのだが、英語を母語とする人々の頭の中では、そんなものは必要ないらしい。

【12】「と言う」と「と書いてある」が同じ語、「と話す」と「を調べる」が同じ語

米国のTVドラマ『FBI』を観ている、分析官がI talked to ballistics. 「線条痕を調べてみました」と言ったのには驚いた。掲示板を見た友人に「何と書いてあるんだ？」と質問した英文がWhat does it say? というのは知っていたが、talkも？とびっくりした。

日本語からすると「言う」と「書いてある」は異なるが、英和辞典でsayを調べると「と言う」「と書いてある」「ある内容を（口頭であるいは文字で）言う」などがある。ただし、talkは「（相手と）話す」で「調べる」という意味はなさそうだ。しかし、I talked to ballistics.（線条痕とtalkして）で意味が通じるのだと思う。なにしろ、TVドラマだから、大人も子供も即座に理解できなければ、だれも観ないだろう。そう考えれば、日本語の字幕の「線条痕を調べてみました」で問題はない。

Ballistics says the gun we found in her apartment was used to kill Nilsen.

「線条痕は、我々が彼女のアパートで発見した銃がニルソン殺しに使われた銃であることを示している」

いずれにせよ、日本語と比べて英語の動詞が持つ意味の幅の広さというか柔軟性というのか、そういうものには驚かされる。なお、ballisticはballistic missileと使えば「弾道ミサイル」だが、銃の場合で使えば「線条痕」になる。日本語では「弾道」と「線条痕」は別の語なのに英語は同じ1つの単語である。しかし、考えてみれば日本語が細かいのかもしれない。

My guidebook says that 「私のガイドブックには...と書いてある」

What does it say? 「なんと書いてあるんだ？」

The notice says that there will be no school. 「掲示には明日は休講と書いてある」

【13】他動詞と自動詞の違い

<1> 日本語文法と英文法の共通点

日本語の場合、自動詞はその動作や作用が主語自身の働きにとどまり目的語を必要としない動詞で、「水が流れる」、「窓が閉まる」などの例があげられる。これに対して、他動詞はその動作や作用の向かう対象（目的語）がないと成り立たない動詞で、「ボールを蹴る」、「本を読む」などの例があげられる。

言いかえると、「～を...する」と目的語をとるのが他動詞で、目的語を必要としない動詞が自動詞である。この点は、英語も同じで、英英辞典のLONGMANをみると、次のように説明されている。

A transitive verb must have an object. For example, the verb 'break' in the sentence 'I broke the cup'. An intransitive verb has a subject but no object. For example, 'my cup broke', 'break' is intransitive.

「他動詞は必ず目的語をとる。例えば『私はコップを割ってしまった』という文の break である。自動詞には主語はあるが、目的語をとらない。例えば『私のコップは割れた』における break は自動詞である」

そして、Transitive Verve（他動詞）の接頭語 trans-は「を横切って、を越えて、貫いて、別の場所（状態）へ」という意味をもつから、transitive verb というのは目的語「に向かって移動し働きかける」動詞ということになる。そういう意味を、日本の学者は「他動詞」と簡潔に翻訳したのだろう。調べてみると、やっぱり「自動詞」と「他動詞」は明治初期につくられた和製漢語でした。

< 2 > 日本語と英語で異なる点（その1）

日本語は次の2点①②を変えて自動詞と他動詞を区別するが、英語は同じ形。

日本語の場合、主語や目的語につける①助詞「が」と「を」を変化させ、かつ②動詞の語尾を変化（活用）させることで他動詞と自動詞とを区別する。「水を流す」と「水が流れる」、「窓を閉める」と「窓が閉まる」のように。ただし、「風が吹く」「笛を吹く」、「中をのぞく」「月がのぞく」のように、自動詞と他動詞で語尾を変化させない動詞もごく少ないがある。しかし、この場合も助詞の「が」と「を」は変えて区別する。

英語でも rise「上る、昇る」「立ち上がる」と raise「上げる」「起こす」のように自動詞と他動詞が異なる単語の場合もあるが、ほとんどの動詞が①同じ形で自動詞としても他動詞としても使われる。そして、②「が」とか「を」などのような日本語の助詞にあたるものもない。

例えば、自動詞「ドアが開く」と他動詞「ドアを開ける」の場合、日本文では助詞の「が」と「を」を変化させ、かつ語尾を「く」と「ける」に活用させるが、英文は主語が代わり、それに伴い3人称単数現在形のsがつくつかつかないかの違いだけである。

The door opens. 「ドアが開く」

I open the door. 「ドアを開ける」

自動詞「～は隠れる」と他動詞「～を隠す」にしても、英語の動詞 hide は変化しない。

Where did you hide it? （他動詞）「それをどこに隠したの？」

Where did you hide? （自動詞）「あなたは、どこに隠れたの？」

自動詞「目覚める」「起きる」と他動詞「起こす（目覚めさせる）」も、どちらも wake

I wake up. （自動詞）「私は目が覚める」「起きる」

I wake him up. （他動詞）「彼を起こす」

自動詞「重さが～である」と他動詞「重さをはかる」も、どちらも weigh

I weighed myself on the scales.

「私は体重計で自分の体重をはかった」（他動詞、SVO型）

How much do you weigh? 「あなたの体重はどれくらい？」（自動詞）

I weigh 63 kilograms.

「私の体重は63キログラムです」（自動詞 63 kilograms は補語、SVC型）

こんなふうに日本語と英語を並べてくらべてみると、英語って本当にシンプルで使い勝手のいい言語なんだとつくづく思う。

ちなみに名詞の「重さ」「重荷」は weight だが、これを他動詞で使うと「に重みを加える」という意味になる。(へえ...なるほど) 理屈に合っている。

The body is bound with wire and weighted to stay under water.

「死体はワイヤーで縛られ、水の中にとどまるよう重くされた」

< 3 > 日本語と英語で異なる点 (その2)

英語の場合、自動詞と他動詞の境界があいまいである

自動詞はその動作や作用が主語自身の働きにとどまり目的語を必要としない動詞で、他動詞はその動作や作用の向かう対象(目的語)がないと成り立たない動詞であるという説明は、日本語と英語の場合は少し異なるようである。

例えば、日本語の「歩く」は自動詞で他動詞にはならないが、英語の walk は目的語をとって他動詞にもなる。英和辞典で walk をひくと、I walk. (私は歩く) の場合は自動詞だが、他動詞のところを見ると I walked two kilometers in the snow. (私は雪の中を2キロ歩いた) という例文が載っている。この場合の walk は他動詞で two kilometers は walk の目的語とされている。5文型でいうと SVO の第3文型である。

しかし、日本語の文法では「歩く」という動作は、何かに直接働きかけているのではないので他動詞ではない。つまり、日本語の場合、「歩く」は自動詞だけの用法があって他動詞にはなりえないと考える。だから、「私は雪の中を2キロ歩いた」の「2キロ(を)」は目的語ではなく副詞句になる。

同様に「走る」も、日本語文法では自動詞だけである。しかし、英和辞典で run の他動詞のところを見ると He runs 50 meters in 6 seconds. 「彼は50メートルを6秒で走る」や Don't run a red light 「赤信号を(無視して)走り抜けるな。信号無視をするな」という例文が載っていて、50 meters や a red light は動詞 run の目的語になっている。

< 4 > 日本語と英語で異なる点 (その3)

英語はおおざっぱで柔軟性がある

英英辞典 LONGMAN でみたように、「他動詞は目的語をとる動詞」で「自動詞は目的語をとらない動詞」という点は日英共通の原則と考えていいと思うが、英語はおおざっぱというか柔軟性があるというか、次のようにもなるからややこしい。

英語の場合、自動詞でも前置詞をつければ目的語をとることができるように見える。また、動詞の表現をより正確により効果的にするために、他動詞でも目的語の前に前置詞をつけて(動詞+前置詞+目的語)の形にすることがあるが、この場合は文法上自動詞になる。(ええっ?) と、几帳面な日本人は困惑するだろうが、そう考えた方がわかりやすい。

(ア) kick

日本語の場合、「蹴る」という動作は「蹴るもの」(目的語)がなければ成り立たないから他動詞であって自動詞ではない。しかし、英語の kick には walk の場合と同じで、他動詞と自動詞の両方がある。ただし、両者の意味やニュアンスは異なる。

kick the door の場合、kick は他動詞で目的語の the door に働きかけて「を越えて、を貫いて」という意味をもつので、「蹴ってドアを開ける」「ドアを壊して入る」という意図や結果も含まれる。

これに対して、kick at the door の at は場所や目標を示す前置詞で the door は kick の目的語ではないから、ここでの kick は自動詞で、ドアに向かって（めがけて）「蹴るといふ動作」に焦点を当てていて、蹴るその目的や結果についてはなにも示していないということになる。

kick in という熟語もあって、The police kicked in the door. という例文が載っている。この場合の kick は他動詞で「ドアをけ破って中に入る」という意味になる。「ドアの中で蹴る」ではない。（え、ちょっと待って、in は前置詞ではないの？）と、なるかもしれないが、動詞のあとにつく in, on, off, up, over などは前置詞としても副詞としても用いられる。kick in the door の場合の in は「～の中に、で、の」という（場所・位置）を示す前置詞ではなく、「～の中へ」という（移動）を示す副詞だから、kick in の kick は文法上他動詞になり the door はその目的語になる。つまり、（他動詞＋副詞＋目的語）。だって、「ドアの中で蹴る」って変でしょ？

これに対して、kicked at the door の at に副詞の用法はなく、「～の場所に」「～をめがけて」という（点）を表す前置詞すなわち（自動詞＋前置詞＋名詞）だから the door は目的語ではなく、場所を示す副詞句の一部となる。

なんだかややこしいが、まあ、所詮、文法はあとづけだからと考えればいい。話し手が、「蹴る」という動作を示す kick に at や in を付け加えるのは、その動作や意図をより正確により効果的に伝えようとしてのことであって、at あるいは in をつけると文法上どうなるかなどということなどももちろん考えていない。

ただし、kick in the door は kick the door in が本来の形だったのだろうか。in をうしろにもってきて（動詞＋目的語＋in）の形にすれば、in が副詞であることはハッキリして「ドアをけ破って中に入る」という意味も伝わりやすいような気がする。辞書を見ると in の位置は前と後どちらもある。

（イ）shoot

kick と似たような例で shoot がある。shot her は他動詞で「彼女を撃った（命中した）」で「撃ち殺した」という意味にもなるが、shot at her の場合、shoot は自動詞で「彼女に向けて発砲した（狙って撃った）」という意味になる。命中したかどうかは問題にしていない。

I don't think he'll shoot at me. 「彼は私を撃たんだろう（私に向けて）」

He begged for his life and Cookie shot him.

「彼は命乞いしたのにクッキーは撃った（射殺した）」

（ウ）fight

日本語の「戦う」は自動詞として扱われるが、英語の fight はどちらでも使われ、その意味が異なる。では、fight with him（自動詞）と fight him（他動詞）の違いは何か？ fight に with をつけると「を相手にして」「に向き合って」というニュアンスを持つため、

2人で「もめている」もしくは「口げんか」のイメージになる。

これに対し、他動詞の場合は、より攻撃的で「を攻撃する」というニュアンスを持つ。したがって、「敵と戦う」や「病気と闘う、病気に立ち向かう」という場合は、fight an enemy, fight cancerのように他動詞として使う。

Two men were fighting on the street. 「二人の男が通りでけんかしていた」（自動詞）

I don't want to fight with her. 「彼女とけんかしたくないな」（自動詞）

Do you want to fight me, old man? 「おい、ジジイ。やるのか?」（他動詞）

（ただし、fight withには「と一緒に（に味方に）なって戦う」という意味もある。この場合はagainst +（戦う相手）をつけるとわかりやすい。

Great Britain fought with France against Germany.（自動詞）

「英国はフランスと一緒にになってドイツと戦った」

（エ）know

他動詞（know +目的語）と自動詞（know about [of] +名詞）の違い

「前置詞をつけると動詞の働きが間接的になる」という説明もできる

① I know him. 「私は彼をよく知っています（直接会って話したことがある）」

（日本語の「知り合いである」という意味もある）

How well did you know her? → We were seeing each other.

「彼女とはどの程度の知り合いでしたか?」→「私たちは付き合っていました」

Okay, I've seen him but I don't know him. （警察の尋問を受けて）

「わかったよ。やつに会ったことはある。だけど、よく知らねえ（知り合いじゃねえ）」

② I know about [of] him. 「彼について聞いたことがある（間接的に知っている）」

したがって、有名人や歴史上の人物などを「知っている」という場合は②のように言わなければならない

（オ）learn

①他動詞（learn +目的語）と②自動詞（learn about (of) +名詞）の違い

①は「～を習得する」（言語やスキル）

②は「～について知る」（特定の話題や歴史的背景、トピック）

I want to learn German. 「私はドイツ語を学びたい（習得したい）」

I learned how to drive a car. 「私は車の運転の仕方を学んだ」

We learned about Genesis in school. 「私たちは学校で『創世記』について学んだ」

< 4 > 日本語と英語で異なる点（その3）

日本語では自動詞と他動詞の区別はハッキリしているが、英語の場合は、上記のように、その境界が曖昧で自由自在という感じがする。そのあたりをもう少しみってみる。

（ア）smell 「～が匂う」と「～を嗅ぐ」

① Something smells burned [burnt]. 「何か焦げくさい」「焦げた匂いがする」

② He smelled the milk. It's still OK. 「彼は牛乳の匂いを嗅いだ。まだ大丈夫だ」

「～が匂う」は smell の自動詞つまり（物＋smells）で、「～を嗅ぐ」は smell の他動詞つまり（人＋smell＋目的語）だと、とりあえず理解してもいいのだが、実は「～が匂う」を他動詞でも表現できる。

③ I smell something burning. 「何か焦げている匂いがする」「何か焦げくさい」

④ Don't you smell something unusual? 「何か変な匂いがしない？」

上記①は SVC の第 2 文型で②は SVO の第 3 文型だが、③と④は SVOC の第 5 文型になる。直訳すると、「私は何か焦げている匂いを嗅いでいる」「あなたは何か変な匂いを嗅いでいませんか？」となるが、これを日本語らしくすれば「何か焦げくさい」「何か変な匂いがしませんか？」となる

日本人は、「～が匂う」と「～を嗅ぐ」とは異なる別々の現象・行為だと考えているが、英語を母語とする人たちはそうではないようだ。英語の場合は「匂い」に関係することなら smell ですべて表現できると考えた方がいい。

What's this smell? 「この匂いは何だ？」の smell は名詞である。ならず者とにらみ合ったクリント・イーストウッドが渋い顔で言った。Your breath smells. 「口が匂うぜ」、なるほど、口が匂うのではない。息（breath）が匂うのだ。これは自動詞だ。

(イ) lose 「紛失する」と「負ける」

日本人は「紛失する」「なくす」と「負ける」は異なる別々の行為だと考えるが、英語を母語とする人たちはそうではないようだ。

① I lost my wallet somewhere. 「私は財布をどこかで紛失した」

② We lost the match by a score of 6-0.

「我々は 6 対 0 のスコアで試合に負けた←試合を失った」

③ We lost the second match. 「我々は 2 回戦で負けた← 2 回戦を失った」

④ We lost in the second match. 「我々は 2 回戦で負けた」

⑤ Are you afraid of losing? 「あなた、負けるのが怖いのか？」

⑥ I'm lost. Where are we now? 「道に迷いました。ここはどこですか」

*ちなみに、①他動詞②他動詞③他動詞④自動詞⑤自動詞

⑥の lost は「道に迷った」状態を表す形容詞とされる。

(ウ) pay 他動詞と自動詞の意味の違いに驚き

日本語では、他動詞「代金を払う」「代償を払う」と自動詞「は利益になる」「は割に合う」は異なる別々の語だが、英語はどちらも pay である。

I paid him 10 dollars. 「私は彼に 10 ドル払った」（他動詞）SVOO 型

The job doesn't pay well. 「その仕事は給料が良くない」（自動詞）

Crime does not pay. 「悪事は割に合わない」（自動詞）

You'll have to pay a big price if you do that. （他動詞）

「そんなことすると大きな代償を払うことになるぞ」

(エ) hurt にも驚く

自動詞「が痛む」と他動詞「を傷つける」「痛みを与える」が同じ語

Where do you hurt? =Where does it hurt? 「どこが痛いのか?」(自動詞)

Does your leg still hurt? 「脚はまだ痛みますか?」(自動詞)

Let go of my shoulder, you're hurting me.

「肩から手を放せよ。痛いじゃないか」(他動詞)

Are you hurt? 「ケガはありませんか」「痛いですか」「ケガはありませんか?」「大丈夫?」
(他動詞の過去分詞が形容詞化したもの)

I hurt my ankle. 「足首を痛めちゃった」(他動詞)

Tell me the truth or I'll hurt you. 「本当のことを言え。でないと痛い目に合わせるぞ」

I didn't want to hurt her feelings. 「私は彼女の気分を害したくなかった」(他動詞)

You have no idea how much what you said hurt my feelings.

「あなたは、あなたの言ったことがどれほど私の気持ちを傷つけているかわかっていない」

英語は「痛い」「痛がらせる」「痛い目に合わせる」と「ケガする」「ケガさせる」「(身体が、心が) 傷つく」「傷つける」がみな同じ1つの語。

凄いね...いや、よくよく考えてみると、みな同じ1つの単語で済むのかもしれない。違いは、文脈や場面で判断できる。日本語の場合、意味が似ているのに異なる言い方が多すぎる。少ない単語で互いの意味が通じ合えるのなら、それでいいのかなという気がする。

(オ) wear

wear の他動詞は「～を身につけている」状態を表し、「身につけるもの」は衣類・ネクタイ・帽子・かつら・眼鏡・手袋・指輪・腕時計・香水など何でも OK だ。

2023年、お笑い芸人の「とにかく明るい安村」がロンドンで出演して、ネタのパンツ一丁のポーズをとり「安心してください、はいてますよ」という日本語の決めセリフを英語で Don't worry, I'm wearing! と言うと、観客が一斉に Pants! 「パンツ!」と叫んでいる映像を TV で見たことがある。その時、TV の司会者が、「みんな、なんであんなに興奮してパンツって叫んでいるんですかね? パンツが好きなんですか?」と首をかきあげていた。

もちろん、パンツが好きだからではない。それは日本語と英語の違いによるものだと思う。日本語で「はいていますよ」と言えば「ズボン、スカート、パンツ、靴下、靴」だが、安村さんの姿はパンツ一丁だからパンツと言わなくてもわかる。

だが、wear という英語で「身につけている」という意味を表す場合は常に目的語をとる他動詞であって、目的語がないと「長持ちする」「すり減る」という意味の自動詞になってしまう。だからあの格好であのセリフを言っても、wear の後に何か目的語が来ないと不自然で落ち着かない。観客が一斉に Pants! 「パンツ!」と叫んでいたのは、そういうことだろうと思う。

(カ) 自動詞の worry と他動詞の worry の違い

「悩む」「心配する」「くよくよする」⇔「心配させる」「悩ませる」

① Don't worry about it. 「そんなこと気にするな」

② We have nothing to worry about. 「俺たちには、心配することはなにもねえ」

③ What's worrying you? 「何をくよくよしているの？」

④ Do you know what time it is? Where have you been? I've been worried about you.
「今何時だと思ってるんだ。どこへ行ってたんだ? 心配していたんだぞ」

①②は自動詞で③④は他動詞。④は You have worried me. の受け身で「心配させられていた」だから be worried となる。

確かに、「他人のことを心配する」場合、その原因を作っているのは「他人」だから論理的に言うとも「心配させられる」（受動態）になると思うが、日本語の場合は「心配する」と表現して受け身にしない。だから混同しやすい。

< 5 > 自動詞か他動詞か? とまどう動詞

英語の動詞は、ほとんどが同じ形で他動詞と自動詞のどちらにも使われるが、例外もある。

(ア) look と see

同じ「見る」でも、look は自動詞なので「～を見る」とするには前置詞の at が必要となるが、see は他動詞なので前置詞は必要ない。その違いはどこから来るのかというと、look は「視線を向ける」「観察する」「注意を払う」という行為を指すのに対して、see は「目で（対象を）とらえる」行為を指すからだそうだ。

Look! [Look out!] 「気をつけろ」「危ない!」（視線を向ける、注意する）

→（注意を喚起してから、相手にものを言う場合にも使う）Look. 「いいかい!」

Look at me. Look at my face. 「私を見なさい。私の顔を見なさい」

②自動詞 look には、さらに「のように見える」の意味もある。

You look (to be) happy [sad]. 「君は幸せ（悲し）そうに見える」

You look very nice in the sweater. 「そのセーターよく似合うね」

*久しぶりの同窓会

You look great, You haven't changed a bit. 「あなた素敵よ。少しも変わっていない」

You look amazing. I didn't recognize you.

「あなた（こそ）素敵よ。あなただとわからなかったわ」

You look exactly the same. To tell the truth, I crushed on you.

「あなた、全く同じだね（変わらないね）。本当のこと言うと、俺あなたに惚れてたんだよ」

Really? You should've told me that. But I look so old.

「えっ、ホント? 言ってくればよかったのに。だけど、私、とても老けて見えるでしょ」

(イ) hear と listen

hear は「(自然に)...が聞こえる (...を聞く)」というように、対象(目的語)を耳でとらえる行為を示す他動詞だから前置詞なしに目的語をとる。

これに対して、listen は「耳を傾ける」という行為を示す自動詞だから「～を聞く」と言いたい場合は前置詞の to が必要となる。listen to (聞こうとして聞く)。なお、日本語では「聞こえた」と受け身で表現するが、英語は「聞いた」I heard (it). という。

I didn't just hear the shots. I heard his voice. I know it was him.

「私が聞いたのは銃声だけじゃないよ。彼の声も聞こえた。あれは彼の声だ」

Listen to me. 「聞きなさい」

Are you listening? 「ちゃんと聞いていますか？」

Do you hear me. 「聞こえますか？」

* hear me で「(私の言っていることが)聞こえますか」

Oh, sorry. I'll speak up. Can you hear me now?

「あ、ゴメン。声を大きくします。今度は聞こえますか？」

(ウ) lie 「嘘をつく」

一般的に「...嘘をつく」は自動詞で、嘘をつく相手をつける場合は前置詞の to が必要と

なる。「嘘をつく」という行為は、主語の心理状態から発生するもので対象(目的語)がなくても成立するからだそうだ。

I was ashamed of lying. 「私は嘘をついたことを恥じた」

Don't lie to me. 「俺に嘘をつくな」

You lied to me first. 「お前が先に嘘ついたじゃないか」

(エ) apologize 「謝る」も、主語の心理状況から発生する行為で自動詞だから、相手をつけ加える場合は前置詞の to が必要となる。

You should apologize. 「君は謝るべきだ」

I apologize to you. 「私はあなたに謝ります」

(オ) 他動詞だけの動詞で間違えやすいもの discuss

We discuss the problem. 「その問題を話し合う(議論する)」

私たち日本人が「話し合う、議論する」という動詞を思い浮かべるとき、たいてい「～について」という言葉がくっついてくるので前置詞の about をつけてしまいがちだが、考えてみれば「議論する」の日本語も「～を議論する」という意味の他動詞だから discuss は目的語を直接とる。したがって、about や on をつけるのは誤り。

「昨日、彼と議論したよ」と言われれば「へーそうなんだ」とはならず、「何を? 何について議論したの?」と聞き返すのがフツーだと思う。目的語がないと落ち着かない動詞だから他動詞であることがわかる。

【14】カタカナ語(外来語)と英語

ひとつの英単語には、日本語にするといくつかの意味があるのだが、そのうちのひとつがカタカナ語として日本語の中に定着していると、他の意味がしっくりこない。

<1>日本語であるカタカナ語の「ビジネス」は「仕事」「職業」だが、英語の business には

「用事」の意味もある。

* busy (忙しい) + ness (状態) → 「忙しくさせるもの」 → ①「仕事」 ②「用事」

映画や TV ドラマを観ていると、business は「用事」の意味で使われることが多い。

That's none of your business. 「お前には関係ないだろ」「お前の知ったことか」

次の2つは和訳しにくい。字幕では、やはり「お前には関係ないだろ」となっている。

Mind your own business. と That's my business.

Did you give him some advice? 「彼にアドバイスしてあげたの？」

No, I didn't. It's none of my business. 「しないよ。あたしには関係ないもの」

I'm not trying to get in your business,

「あなたのことに口をはさむつもりはないが、」(これも和訳しにくい)

< 2 > 「コンディション」には「条件」の意味もある

He was in serious condition. = His condition was serious.

「彼の容態(状態)は重症だった」

I can't accept your proposal on such a condition.

「そんな条件では、あなたの提案は受け入れられない」

There are just one or two conditions young man. Finish college and get a job.

「お若いの、ただ1つ2つ条件がある。大学を卒業せよ。仕事につけ」

(娘との結婚を求める未熟な若者に対し、娘の父親が言った言葉)

< 3 > 「パワー」「権力」と「電力」が同じ単語

The Diet shall be the highest organ of state power.

「国会は国権(国の権力)の最高機関」(日本国憲法第41条)

a nuclear power plant 「原子力発電所」

a nuclear-powered submarine 「原子力潜水艦」

< 4 > 「シャワー(を浴びる)」と「にわか雨」が同じ単語

Can I take a shower? 「シャワーを浴びてもいいですか？」

I was caught in a shower on my way home from work.

「仕事帰りに、にわか雨にあった」

< 5 > 「ライン」「線」、「行列」、「額のしわ」、「(列車・バスなどの)路線」が同じ単語

There was a long line waiting for the bus, 「バスを待つ長い行列ができていた」

Get in line. 「(行列に)並んでください」

Don't cut in line. 「割り込まないで」

Is this the end of line. 「ここが列の最後ですか？」

Which line should I take to Tokyo station? 「東京駅への路線に乗ればいいのですか」

Lines on one's forehead. 「額の横じわ」

* 幼児だった孫が不思議そうな表情で私の額を指さし、「爺ちゃんは、どうしてここに線があるの?」と聞いた。その時、なるほど「額のしわ」は line でいいのかと思った。

< 6 > 「バッティング・オーダー」と「ラストオーダー」

* 外来語の「オーダー」は最初「順序」の意味で日本語になり、ずっと後になって「注文」の意味も定着した。

* order の連想過程の論理は「順序」→「規律」「秩序」→「命令」→「注文」

law and order 「法と秩序」

out of order 「故障」（自販機の貼り紙）

in an alphabetical order 「アルファベット順に」

< 7 > 「ダイエット」とは「（日常の）食事」

You are going to die soon with that diet.

「そんなものばかり食べているとすぐ死ぬぞ」

* 映画で日本語字幕「そんなものばかり食べていると」を見たので英語を確かめたら、わずか3語で with that diet。なるほど、英語はシンプルで無駄がない。

I thought you were on a diet.

「あなた、ダイエットしてたんじゃないの？」

* diet とは「（日常の）食事」、「食生活」「食事療法」⇔日本語の「ダイエット」は「体重を減らすための減食や運動」を指すようだから、本来の意味と少し異なる。

< 8 > 「アイデア」「思いつき」と「思想」が同じ単語

That's a good idea. 「それはいい考えですね」

I have no idea. 「全然わかりません」

How do you fight an idea? 「思想とどのようにして戦うのだ」

Eastern ideas 「東洋思想」、Western ideas 「西洋思想」

< 9 > 「チャージ」「充電する」とゴルフの「猛チャージ（果敢な攻め）」

* charge は「充電」「攻撃」のほか「料金」「役目」「責任」「義務」「容疑」「非難」など様々な意味で名詞としても動詞としても使用される

What is this charge for? 「これは何の料金ですか」

He was charged with murder. 「彼は殺人罪で告発（告訴）された」

She is in charge of our homeroom. 「彼女は私たちの担任の先生です」

(She is our homeroom teacher. ともいう)

< 10 > 「ターン」は「回す」から「交替で～する」

* turn 動詞 「回す」「ひっくり返す」→「曲がる」「変える」→「交替で～する」

* 名詞の turn 「回転」→「方向転換」「曲がり角」→「順番」

You took the wrong turning. 「間違った曲がり角を曲がったんですよ」

You can wait your turn? 「あなた、順番を待ってくれますか？」

We took turns driving. 「私たちは交替で運転した」

< 11 > 「ラブシーン」と「殺人現場」が同じ単語

scene ①「舞台」→②「現場」③「場面」④光景

The love scene was very good. 「あのラブシーンはとても良かった」

She happened to be at the murder scene. 「彼女はたまたま殺人現場に居合わせた」

< 12 > 「オフェンス」の本来の意味は「違反」「罪」

Have you ever been in trouble with the police before?

→ No, never. → Not even a traffic offense?

「今まで、警察沙汰になったことがありますか」

「いいえ、一度もありません」→「交通違反さえも？」

< 13 > 「プライス」には「見返り」の意味もある

「価格」→「代償」「見返り」→「懸賞金」という意味にもなる。

Prices went up. 「物価が上がった」

What price would you pay? 「見返りになにしてくれるんだ？」

If you do that, you will pay a high price.

「そんなことをしたら、高い代償を払ことになるぞ」

< 14 > 「リーズナブル」

カタカナ語の「リーズナブル」は「値段が手ごろな」「妥当な」という意味だが、「無茶なことを言うな」「いい加減にしろ」もこれを使う。「道理をわきまえろ」ってこと

The price is reasonable. = It's a reasonable price. 「手ごろな値段だ」

What can I do? Be reasonable! 「どうしようもないだろう。無茶言うなよ」

Be reasonable. We'll finish this discussion later.

「無茶を言うんじゃないよ。この話の続きは後でしましょう」

< 15 > 映画「サスペンスもの」とは「宙ぶらりん」を意味する

suspender は「サスペンダー（ズボン吊り）」で動詞の suspend は①「吊るす」②「一時停止にする」③「停職させる」「停学させる」

*映画「サスペンスもの」は観客や読者に不安感や緊張感を与えるジャンル

He suspended the lamp from the ceiling. 「彼は天井からランプをつるした」

He had his driver's license suspended for drunk driving.

「彼は飲酒運転で免許になった」（SVOC型）

He was suspended from school for 3 days for cheating.

「彼はカンニングで3日間の停学処分を受けた」

< 16 > ボード（board）の意味は多いが、その連想の進み方にびっくりする

（名詞）「板」→「卓」「会議机」→「会議」「委員会」、「食卓」→「食事」

（「板」から「食事」まで連想するんだよ。信じられない）

（動詞）乗り込む、下宿する（させる）

「黒板」は a blackboard、「スノーボード」は a snow board

If you work for the school board as AET, you'll work part time. And you'll get the same money as much as working here full time.

「もし、教育委員会に AET として雇われれば、パートで働くんだけど。給料は、ここでフルタイムで働くのと同じだけもらえるよ」と、英会話学校の講師が話していた。

* AET とは Assistant English Teacher 「英語指導助手」

All the passengers on board were killed in the crash.

「その墜落事故で乗客は全員死亡した」

* on board (飛行機、列車、バス) 「に乗り込んで」「に乗っていた」

< 17 > さまざまなチケットがある

I got a ticket to [for]Tokyo. 「東京行の乗車券を手に入れた」

I got a ticket for tonight's show. 「今晚のショーの入場券を手に入れた」

I got a ticket for speeding. 「スピード違反で捕まった」

I got a parking ticket. 「駐車違反のカードを受け取った」

I got a ticket for illegal parking. 「駐車違反のカードを受け取った」

* チケットの本来の意味は「対価を支払ったことや権利を示すための証明書・引換券」だから「切符」「乗車券」も「入場券」も「違反切符」も ticket で OK

< 18 > 「チャンス」 英語の chance は悪い意味でも使う

chance の本来の意味は「偶発的な出来事」で、日本語の②「好機」という意味もあるが、ほかに①「偶然」「運」③「見込み」「可能性」の意味で使われる

I took a chance you were up. 「もしかしたら、君はまだ起きているかなと思って（来たんだ）」

There was a chance that the dog might have bitten or scratched the thief.

「もしかしたら、その犬が泥棒にかみついたか、引っ掻いた可能性がある」

There is a chance you could be targeted too. 「あなたも狙われる可能性がある」

Let's not take any chance. 「リスクを冒すのはやめよう」

Now is my chance to escape. 「今が（私の）逃げるチャンスだ」

* 「好機」という意味では opportunity という語がある

You should take advantage of this opportunity.

「君はこの好機を利用すべきだ」

< 19 > 「ケアする」「気づかう」の否定形は「どうでもいい」「気にしない」I don't care. care の本来の意味は、注意を向ける「気にかける」「気づかう」という自動詞で、日本人は最初に「心・身体・肌・家族・をケアする」と覚えるから、別れ際の挨拶の Take care 「気をつけてね」とか child care 「育児」はすぐにわかるが、I don't care. と聞いても「気にしない」にスッと結びつかない。なお、care は基本的に自動詞として使うので、care の対象となる名詞をつける場合は for や about をつける。

I cared for my father until he died. 「私は父が死ぬまで面倒を見た」

They don't care about their future. They want to be happy at the moment.

「彼らは未来のことは気にしない。今が良ければと思っている」

What do you want for dinner tonight? → I don't care.

「今日の夕飯は何が食べたい？」→「なんでもいいよ」

Where's your husband? → I don't know and I don't care.

「旦那さんはどこにいるのですか？」→「知りません。どうでもいいんです」

If no one can tell the difference, who cares? (コピー商品について)

「誰もその違いが見分けられないのなら、誰が気にするの？」

*なお、他動詞として使う場合は wh-節、that 節で、通例否定文・疑問文で用いる

He said that he wanted to kill people, and that he didn't care who they were.

「人を殺したかった。そして、誰でもよかった、と彼は言った」

* care は take care of として名詞でも使うが、この場合は「世話」や「保護」という意味になる。

He takes good care of his grandchildren. 「彼は孫をとともかわいがっている」

Let me take care of it. 「俺に任せておけ」(面倒なことの処理や対応について)

She had a hit man take care of the problem.

「彼女は殺し屋にその問題を始末してもらった(させた)」

* 「孫の面倒をみる」と「殺し屋に始末を頼む」とが同じ形というのは、日本人には抵抗があるが、英語は論理だから。

< 20 > 「サウンド」(音) sound の動詞の意味は？

英語 sound の動詞には「のように聞こえる」という意味がある

Sounds like fun. 「それは楽しそうだね」(「～しようよ」と誘いを受けて)

Your sound like you have a cold. 「あなた、声が風邪ひいたみたいだね」

Sounds funny? 「(私の)声、変？」(風邪気味の英語講師が言った)

His voice sounds nervous, guilty and not confident.

「彼の声は落ち着かず、やましく、自信なさそうに聞こえる」

* sound を名詞で使えば、His voice has a guilty sound. 「彼の声にはやましさがある」

Did he have any type of accent? → He sounded normal, like he was from N.Y.

「(犯人に)訛りはなかったですか？」→「ふつうの発音でした。ニューヨークの出身みたいな」

< 21 > 「マインド」(心) mind の動詞の意味は？

①「いやだと思う」②「気にする」→③「注意する」

Do you mind if I smoke here? 「ここでタバコを吸っても構いませんか？」

Don't mind me. Go on. 「私に気を使わず、続けてください」

I don't mind. 「私は気にしません」

Mind your step [head]. 「足元 [頭上] に注意なさい」

He is under mind control. 「彼はマインドコントロールされている」

< 22 > 「ステイ」stay の本来の意味は？

「ホームステイ」「滞在する」とまず覚えるが、本来の意味は「ある場所に動かずとどまる」で、ここから「ある状態のままである（いる）」という意味にもなる。

Stay away from here. 「こっちへ来ないで」

You should stay away from crowded areas. 「人込みは避けた方がいいよ」

I told you to stay here. 「ここにいろと言っただろ」

The convenience store stay open 24 hours. 「そのコンビニは24時間やってるよ」

Last night I stayed up all night studying. 「昨夜、徹夜で勉強した」

Last night he stayed out late drinking. 「昨夜、彼は遅くまで外で（外出して）飲んでた」

Stay calm whatever happens. 「どんなことが起ころうと落ち着いていなさい」

< 23 > 「センス（がいい）」は taste

「彼女は服装のセンスが良い」 She has good taste in clothes.

*英語の sense は「思慮、分別」「判断力」「感覚」など

It makes sense. 「それはつじつまが合う」「筋が通っている」

What you say doesn't make sense. 「君の言ってることは筋が通らない」

It doesn't make sense because women have longer life expectancy than men.

「そんなのおかしいよ。女性は男性より平均寿命が長いんだから」

*「ナンセンス」は「理屈に合わない」「ばかげている」という意味

I think it's wrong to criticize the past only from the present sense of values.

「現代の価値観からだけで過去を批判するのは間違いだと思うな」

< 24 > 「スマート」は「賢い」

英語の smart は「賢い」「利口な」で、カタカナ語の「スマート」は smart でなく slender 「ほっそりした」

He is smart. A smart boy 「彼は賢い」「賢い少年」

She is slender. A slender girl 「彼女はほっそりしている」「ほっそりした少女」

< 25 > 英語では「訛り」= 「アクセント」

He has a strong accent. 「彼には強い訛りがある」

All instructors here have different accents even though all speak English.

「この先生はみな英語を話すんだけど、みなその英語のアクセント（訛り）が異なる」

I can't believe she's from England because her accent's like so American.

「彼女が英国出身だとは信じられない。だって、彼女のアクセントはアメリカ人そのものだ」

The teachers pronounced English very clearly but all students spoke English with their own native accents.

「先生たちは英語をとてクリアに発音していたが、生徒はみな自身の訛りで話した」

Did he have any type of accent? → He sounded normal, like he was from N.Y.

「(犯人に) 訛りはなかったですか?」「ふつうの発音でした。ニューヨークの出身みたいな」

*英語の accent は①「強勢」stress と②「訛り」というか「言葉を話すときの発音の特徴」の2つを意味する。しかし、日本語の「アクセント」は、もっぱら①を意味する。だから、「アクセントをつける」とは「強調する」という意味になる。この違いは、英語の発音における地域差や個人差、つまり日本語でいう「訛り」がもっぱら「強弱アクセント」によるというところからきているからだと思われる。

日本人は英語の発音が苦手だが、欧米人にとっても日本語の発音は難しいようで、それは発音の仕組みが根本的に異なることに起因する。英語の発音が「強弱アクセント」なのに対して、日本語の発音は「高低アクセント」で、ネット検索すると次のような例が示される。

①「はし(箸)」低く始まり、高く発音する ②「はし(橋)」高く始まり、低く発音する ③「はし(端)」全体を平坦に発音する

なるほど、わかりやすい。日本人は「オオタニサン」と全体をフラット(平坦)に発音するが、欧米人はこれができないみたいだ。アメリカのTVのアナウンサーは「オオターニサン」と「ター」にストレスを置いて発音している。

< 26 > 「アイデンティティ」

カタカナ語の「アイデンティティ」は「自己同一性」と訳されて「他と区別される個性」のような意味で使われるが、英語の identity は「同一であること」で、動詞の identify は「身元を確認する」という意味である。そして、identification (card) は「身分証明書」となる。

The body was identified at once. 「死体は直ちに身元確認された」

The body hasn't been identified yet. 「死体はまだ身元が確認できていない」

The body was identified as John Kraus. 「死体はジョン・クラウスだと確認された」

< 27 > 「レギュラー」

Regular は「規則正しい」「正規の」という意味で、最初は野球選手の補欠と区別して「正選手」の意味で使われ、やがて「レギュラー番組」とか「レギュラーサイズ」「レギュラーガソリン」へと進んだが、「常連客」はまだ日本語のまま。

Is he a regular? 「彼、常連?」

< 28 > 「サプライチェーン」

最近よく「サプライチェーン」というカタカナ語を耳にする。supply chain を直訳すると「供給の連鎖」で「製品が原材料の調達から始まり製造から消費者に製品が届くまでの供給網」を指すが、supply の複数形には要注意。複数形 supplies 「生活必需品」はカタカナにすると「サプライズ」で、「驚き」の surprise と同じになってしまう。

China provides North Korea 90% of oil and 80% of supplies. (SVOO 型)

「中国は北朝鮮に油の 90% と生活必需品の 80% を供給している」

< 29 > 「スタック」

大雪による交通渋滞を伝えるニュースで、キャスターがしきりに車が「スタック」したと言っているのを見て驚いた。「スタック」は stick の過去分詞で「動けなくさせられる（なる）」という意味だから、「雪にはまって立ち往生する」状態を「スタックしている」と簡潔に表現できる便利な言葉である。ただし、英語の stuck は雪やぬかるみだけでなく渋滞で動けなくなる場合も使うし、さらに「仕事」や「クイズ」で行き詰まる場合も使う。

The car got [was] stuck in the snow [mud]. 「雪（ぬかるみ）で車が動けなくなった」

I got [was] stuck in a traffic jam this morning. 「今朝、渋滞に巻き込まれた」

I got stuck at work. 「仕事で行き詰った」

I got stuck on the quiz. 「私はクイズで行き詰った」

第4章 日本人が「え？」と驚く表現

【1】「指名手配」と「募集」が同じ語

What do you want? 「何の用だ？」

What do you want with him? 「彼に何の用があるんだ？」

Who do you want? 「誰に用があるんだ？」

映画を観ていると What do you want? 「何の用だ？」というのが頻繁に出てくる。日本人は want を「～が欲しい」と最初に習うから、この会話で「何の用だ？」という字幕を見ると少しとまど
う。

さらに、Who do you want? には、「えっ？」と驚くかもしれない。少しふるい人間ならば、「どの子がほしい？ あの子がほしい」の童謡『花いちもんめ』を連想するかもしれない。しかし、この場合は「誰に用があるんだ？」という意味である。だから、I want Mary. と言えば「メアリーに用がある」となる。

ビートルズの曲に "I want you" というのがあって「あなたが欲しい」と訳されている。映画『ライオンの娘』をDVDで観た。舞台はアイルランド西部のさびれた村。子供のころ憧れた学校の先生に恋する一途な乙女がヒロインだ。村には小学校が1つ。先生も1人で、教室は先生が生活する住居とつながっている。時代は第一次世界大戦のさなか。

妻に先立たれた先生は独身だ。乙女に愛を告白されて、その一途さに中年男の心は揺れる。だが、自分と結婚すれば生涯この寒村で暮らすことになる。多くの可能性を秘めた若い娘の未来を中年男が奪うのは罪だ。それはできない。きっぱり断る。すると、涙をためた乙女が男を見つめてつぶやいた。

So, you don't want me then? 「じゃあ、あなたは私が欲しくないのね？」

(うーん)、この和訳、ちょっとストレートすぎて違和感が...では、なんと訳す？ いや、わからないけど.....(え?) このあと、どうなったかって？ ふたりは結婚します。So, you don't want me then? このセリフが決め手でしたね。(え?) ...そのあと？ もちろん破局です。

それにしても、いくら英語は融通が利くとはいえ、「あなたが欲しい」と「あなたに用がある」が同じフレーズって、ちょっと大雑把すぎじゃないの？ と日本人は思うだろう。もっとも、相手が異性の場合、I want to see Mary. と誤解のないよう to see を付け加えることもあるようだが、同性の場合は付けなくてもよい。だけど、同性でも誤解されたらやばいよな。

また、wanted は「～を求む」で、Cook Wanted は「コック募集中！」だが、a wanted list はなんと「指名手配書」「お尋ね者」である。A man wanted by the police for murder. 「殺人で指名手配されている男」となる。ま、by the police をつける場合が多いと思うけど、それにしても「募集広告ビラ」と「指名手配書」の見出しの文字が同じ”Wanted”であることには驚く。そして、「これはちょっとまずいかな」って誰も思わないところが英語の凄いところだと思う。

【2】「服役する」と「サービスする」「飲食物を提供する」が同じ語 serve

What kind of food do they serve at the restaurant?

「あのレストランはどんな料理を出すの？」

He served ten years for murder.

「あいつは殺人罪で 10 年間服役したよ」

He is serving his sentence.

「やつは、今、服役してるよ」

【3】『犯行声明』 彼らは犯行と考えていない

The radicals claimed responsibility for the bombing.

「過激派はその爆破事件の犯行声明を出した」

は直訳すれば「～の責任を主張する」で「我々がやったんだと主張する」という意味になる。それはそうだろう。彼らは自分たちの行為を犯行とは考えていない。

responsible for は「(に対して) 責任がある」で名詞は responsibility 「子供のしつけは親の責任だ」の英訳が It's a parent's responsibility to discipline their children. であることになんの違和感もないが、TV ドラマ『FBI』で日本語字幕が「(誘拐の) 犯人について何か心当たりはありますか？」の英語 Do you have any idea who may be responsible for this? には強い違和感を覚える。

Who killed her? の一歩手前の段階が、Who's responsible for the murder? のようだが、どうもじっくりこない。

【4】「ごめんなさい」と「お気の毒です」が同じ語

映画を見ていると sorry は頻繁に出てくるが、意味は①「ごめんなさい」、あるいは②「お気の毒です」である。さらに③「後悔する」というものもある。日本人の感覚からすると3つとも異なる別々の感情だと思うのだが、英語では同じ語で表現する。

① I'm sorry. I'm late. 「ごめんなさい。遅刻しました」

② I'm sorry (to hear that). 「それはお気の毒です」

③ You'll be sorry (about this later). 「あとで (このことを) 後悔するぞ」

sorry の原義は「痛い」で「身体の一部が痛い」の sore と同じだが、①は「自分が原因で相手が痛い」場合、②は「自分が原因ではないが相手が痛い」場合、③は「相手が原因で相手が痛い場合」と考えれば納得がいく。ただ、日本人の場合「sorry = ごめんなさい」で慣れているので、②の場合は、なんとなく言いにくい。しかし、映画を見ていると、相手から身内の死を告げられて、まず発する言葉は I'm sorry だ。

【5】謝り方の違い

遅刻など、なにか過ちを犯したときや誰かに迷惑をかけたときの謝り方
(You are) late again. 「また遅刻したね」 → It won't [It'll never] happen again.

日本人の場合は「すみません。二度としないよう気をつけます」と謝るのだろうが、英語の場合は全く違う。この英文を初めて見たとき、私は強い違和感を覚えた。直訳すれば「それは二度と起きないでしょう」で、happen の意味は「予期しないことが偶然起こる」だ。

なんという言い草だ。まるでひとつとじゃないか。「ごめんなさい。二度としません」だろ。それにしても、と考えてみた。なぜ、こんな言い方をするんだろう？そして、気がついた。「二度としません」と言えば、「え？じゃあ意図的にやったのか？」と相手に思われかねない。そうじゃなくて、家を出るとき、ちょっと予期せぬことが生じて...とか。通勤路の渋滞がひどくて、とか。自分の意志にかかわりのないことが原因でと言わなければ信用を失う。そうか。だから I'll never do it again. 「2度としません」じゃないんだと納得がいった。

同じような英文のフレーズでもう1つ気がついた。「ごめん。わざとじゃないよ」この日本語を英語で言うと It was an accident. のようだが、直訳すれば「それは偶然（思いがけないできごと）です」となる。

このフレーズにも最初は違和感を覚えた。なんか、ひとつとなんだよな...と。なぜだろ？と調べてみて、なるほどなと思直した。「わざとじゃないよ」と言えば「当たり前だろ。わざとでたまるか」と言い返されてもおかしくない。

ただし、別の友人に「(あいつ) たぶん、わざとやったんだよ」と、ささやく場合は It was probably not an accident と「あれ、たぶん偶然じゃないよ」と否定形を使う。

【6】他動詞 fuck

アメリカの映画や TV ドラマを観ていて気づくのは、罵る言葉のまあ多いこと。

Shit (糞), Bull shit (牛の糞), Fuck (性交する), Fuck you. fucking~, Ass (けつ、尻), Ass hole (けつの穴), Bitch (あばずれ、いやな女), Son of bitch, (あばずれ女の息子), Bastard (私生児), Piss (ションベン), Idiot (バカ、まぬけ), Rubbish (ごみ)

括弧の中の日本語は直訳だが、相手を罵倒し罵る言葉だから、場面によって日本語字幕は「間抜け」「バカヤロウ」「くそくらえ」「くそったれ」「畜生」「たわごと言うな」「黙れ」などさまざまに変化する。ただし、Shit は日本語と同じように、「クソ！」とひとり呟く場合も多い。

この中で、ダントツに使われているのが、なんと Fuck you である。ならず者同士が「バカヤロー」とか「黙れ!」「失せろ!」「死ね!」などの意味で Fuck you と罵るのはもちろんのことだが、言い寄るうざい男に向かって若い娘が「うるさいなァ」「失せろよ」などという意味で Fuck you と呟く場面もある。いや、口うるさい父親に向かって反抗期の娘が Fuck you と罵る場面もあった。そして、日本語で「クソ!」と、ひとり呟く場合に Shit !の代わりに Fuck !ということも多い。

さらに 現在分詞の fucking はセリフの中の名詞だけでなく、形容詞や動詞など、なんに

でもくっつけられる。I was fucking mad. 「俺はめっちゃめっちゃ腹が立った」、fucking that guy 「あの変態ヤロー」、fucking that cop 「あんなクソ警官」とか I don't need fucking this money. 「オレはこんな、クソみたいな金なんかいらねーよ」など。

いやいや、それどころか、この fucking は「罵る言葉」から fucking beautiful 「めっちゃキレイ」みたいにポジティブな意味にも使われるようになったようで、先日、こんな記事を見た。オリンピック（2026年2月ミラノ）のフィギアスケート女子フリーで、ショートプログラム3位の米国選手が大逆転で金メダルをつかんだが、演技直後に興奮したのか「放送禁止用語」を口にしてしまった。

That's what I'm fucking talking about! 「よっしゃ！（私が話していたのはこれだよ）」

だから、この先、これはもう「放送禁止用語」でもなんでもなくなって、フツーに使われる言葉になるかもしれない。

ただ、なんとも不思議に思うのは、というか理解しがたいのは、この fuck は相手を罵る言葉として頻繁に使われる一方で、本来の意味の「性交する」でもフツーに使われているという点である。ここがわからない。

いつ頃から、そうなったのだろう？ 28年前、評判になったアメリカ映画がある。アカデミー主演男優賞と主演女優賞を獲得した1997年制作の『恋愛小説家』だが、ここでは「～とセックスする」の表現は次の2つで fuck や fucking は一切出てこない。

Did you have sex with her? 「彼女とセックスしたのか？」

I'm not going to sleep with you. Not ever. Never.

「私はあなたと寝ないからね。絶対に」

ところが、私が見た最近のアメリカ映画やTVドラマには fuck や fucking が溢れている。相手を罵倒する言葉としてだけでなく、日常会話の中のフツーの言葉として「～とセックスする」というセリフは、ほぼみな fuck が使われている。テレビ映画にだよ。fuck は「放送禁止用語」ということになっているようだが、そのところはどうなっているんだろう？

Did you fuck her? 「彼女とセックスしたのか？」

Didn't you ever fuck anybody else when you were married?

「結婚していたとき誰かほかの人とセックスしなかった？」（映画『氷の微笑』）

Do you want to fuck me? 「あなた。私とセックスしたいの？」

しかし、妻が夫に向かって次のセリフを言ったときはびっくりした。

I want you to fuck me. 「私はあなたにファックして欲しい」

He is fucking her. の字幕が「やつ（容疑者）はあの女と不倫しているぞ」になっていた。

確かに、3語からなる have sex with より他動詞1語の fuckの方がはるかに言いやすい。言葉は生きている。日本で「やばい」という本来ネガティブな言葉が、時代とともにポジティブな意味にも使われるようになったのと同じで、シンプルな表現を好む米国人だから、最近フツーの場面でフツーの人がフツーに fuck を使うようになったのかもしれない。

そして、日本でもSNSのやり取りで、名のある人たちが相手や相手の意見を「クソ」

とか「ゴミ」とか言って批判するのを見かけることもあるが、これは最近のアメリカ映画の影響だろうか。昔は、こんな言葉を使わなかったと思う。

第5章 日本語は曖昧、英語は論理的

【1】英語では伝える内容に正確さが求められる

英語は多民族の間で話されてきた言語だから、伝える内容には正確さと簡潔さが求められてきたと思う。伝える意味が曖昧であれば、誤解を招き争いのもとになる。

< 1 > 1981年のロサンゼルスにおける銃殺事件。いわゆる「ロス疑惑」で、2008年に来日した捜査官の記者会見でのやり取りをTVで観た。

日本人記者の質問 Do you know the murderer? 「殺人犯を知っていますか？」

検査官の回答 I don't know the murderer but I know who shot her.

「私は殺人犯と知り合いではありません。しかし、誰が彼女を射殺したか知っています」

日本語の「あの人が知っていますか？」は意味が曖昧で、この場合、①面識があるか、知り合いであるか？ ②あの人が何者か知っているか？ の2つの意味がある。

しかし、英語で ①の場合は Do you know him? でいいが、②の場合は Do you know who he is? と言わなければならない。似たような表現で次のようなものがある。

Find out who that woman is. 「あの女の正体を暴け」

He said that he wanted to kill people, and that he didn't care who they were.

「人を殺したかった。そして、誰でもよかった、と彼は言った」

< 2 > 出張で海外へ行く夫に妻が言う「食べ物に気をつけてね」

この場合の「食べ物」は the food ではない。「あなたが食べるもの」だから Be careful about what you eat. と言わなければいけない。

What's the secret? Is it the way of thinking? Is it what you eat?

「その秘訣はなんですか？ 考え方ですか。それとも食べるものですか」

の「食べるもの」も「食べ物」the food ではなく what you eat である。

< 3 > 「息子の宿題を手伝う」

I help my son with his homework. あるいは I help my son (to) do his homework. である。

「宿題を手伝う」のではない。「息子が宿題をやるのを手助けする」のである。他動詞 help の目的語は my son になる。

< 4 > 「彼が僕の頭を殴った」「彼女は赤ちゃんの頬にキスした」

He hit me on the head. 攻撃の対象つまり他動詞 hit の目的語は me

She kissed her baby on the cheek. キスの対象、他動詞 kiss の目的語は her baby

< 5 > 「消防車」や「ダンプカー」は car 「車」ではない

「消防自動車」は fire engine という。日本人の感覚からすれば、「え？ 消防自動車もクルマでしょ。タイヤもあるし」となるが、英語の car の論理は「乗客を輸送するもの」だそうだ。車輪が4つとか関係ない。貨物を運搬するものは truck。

だから、「ダンプカー」は間違いで dump truck だ。鉄道の「客車」も乗客を輸送するものだから car となる。切符の「12号車A席」は [Car 12 Seat A] と記載されている。

< 6 > 「うるせーな」はなんと訳す？

昔、ある五輪選手が記者会見で「うるせーな」と舌打ちしたが、この場合、日本語の「うるさい」とらわれて noisy 「うるさい、騒々しい」と訳してはいけない。発言者の気分を翻訳すれば Shut up! 「黙れ！」である。

< 7 > 「食べ放題」と「期待外れ」 (同等 [原級] 比較級) = (as + 原級 + as)

①日本語の「多くの」は英語で言うと2通りある。many 「数が多い」と much 「量が多い」だ。しかし、そのことは理解していても、「～は...の何倍である」と表現するとき as many as や as much as を忘れてしまう。

日本語の場合、「その数が」何倍とか、「その量が」何倍と言うべきところの「その数」と「その量」を省いてしまうので、英訳するときも知らず知らずのうちに省いている。

The population of China is about ten times as many as Japan's.

「中国の人口は日本の約10倍である」(日本語では「日本の数の」を省略している)

He ate two times [twice] as much as I did.

「彼は私の2倍食べた」(日本語では「私の食べた量の」を省略している)

*この as many [much] as (as + 原級 + as) の構文を「同等 (原級) 比較級」という

②「食べ放題」=「あなたが欲しい量と同じくらい食べていい」

(同等 (原級) 比較級) = (as + 原級 + as) を使う

You can eat as much as you want. 「食べ放題だよ」

You can eat as much rice and cabbage as you want.

「ご飯とキャベツが食べ放題だよ」

You can eat as much as you want there, but you have to buy them if you take them home with you. (リンゴ狩りの説明)

「その場では食べ放題だけど、持ち帰るときは買わなければいけない」

③「期待はずれだった」=「期待したのと同じくらいではなかった」

(同等 (原級) 比較級の否定形) → (not + as + 原級 + as) とするのが一般的

The water wasn't as clear as I had expected.

「水は期待していたほど澄んでいなかった」

(The water wasn't clearer than I had expected. とは言わない。厳密にいうと意味が異なる)

なお、以下のようにも表現できるがニュアンスが異なる。

The water was less clear than I had expected.

「水は期待していたより澄んでなかった」

The water was worse than I had expected. 「水は期待していたより悪かった」

④ 「ケガは見た目ほど悪くない」 = 「実際より悪く見える」

The injury isn't as bad as it looks. (同等比較級)

The injury looks worse than it is. (一般的な比較級)

< 8 > 「気が変わりました」は My mind has changed ではなく I have changed my mind. なるほ

ど、気分が勝手に変わるわけがない。おまえが変えたんだろ。

< 9 > 「昨夜夢を見た」は I saw a dream last night. ではなく I had a dream last night. 確かに、

夢を見るのは不可能である。

< 10 > 「財布を落とした (拾った)」は、I dropped [picked] my wallet. ではなく I lost [found].

なるほど、正確には「なくした」と「見つけた」である。

< 11 > 「持つ」という日本語に当てはまる英語は5種類に分かれる。

① hold は「その場で一時的に物を持つ」、赤ちゃんを「抱く」

② keep は「比較的長い間持つ」

③ take は「持って行く (連れて行く)」、「持ち出す (連れ出す)」

④ bring は「持って来る (連れて来る)」、「持ち帰る (連れて来る)」

⑤ have は基本的に「所有する」という意味

Could you hold this for a second? I can't find my car key.

「ちょっとこれ持っていて、車のキーが見つからないの」

I'll take your suitcase to your room, sir.

「スーツケースをお部屋までお持ちしましょう」

英語では、「(その場で) 持つ」と「(部屋まで) 持っていく (運ぶ)」とでは動詞が異なるが、考えてみれば2つの動作は異なる。

keep the change. は、「お釣りはずっと持っていていいよ」→「お釣りはいいよ」

< 12 > 日本語の「約束がある」は曖昧だろうか？ 英語ではいくつか区別する

I'm meeting my friend tomorrow. 「明日、友人と会う約束がある」

I have arranged to go shopping with my mother. 「母と買い物に行く約束がある」

Can I make an appointment for some time next week?

「来週いつか面談の約束とれますか？」いわゆる「アポ」（会う約束）

I'm sorry. I have a previous appointment. 「申し訳ありません。先約があります」

I promise you (that) that will never happen again.

「二度とこんなことないよう約束します」

< 13 > 「乗り遅れる」とか「乗り越す」の日本語表現は、よくよく考えると少し曖昧だろうか。英語の場合は miss を使う。

I missed the express train. 「急行列車に乗り遅れた」

I missed my stop. 「（私が降りる予定の）駅を乗り越した」

ちょっと気になると思うが、この場合の my は「私が降りることになっていた駅」という意味で「私の所有する駅」ではない。

I dropped my fork. Will you bring me another one?

レストランで「フォークを落としてしまいました。新しいのを持ってきてもらえますか」

も「私が使っていたフォーク」という意味であって日本語の「マイ・フォーク」（私の所有物のフォーク）ではない。

< 14 > 日本語では「～するのは初めてだ」と言うが、英語の場合、「今まで（一度も）～したこと

がない」と言う方が多い。

① This is my first time to try sashimi.

「刺身を食べるのはこれが初めてです」

② I have never [have not] tried sashimi before.

「私は今まで刺身を食べたことがありません」

日本語は、どちらかと言うと ① の方が一般的だが、英語では ① より ② の方が好まれるようだ。

I saw her for the first time in ten years. 「10年ぶりに彼女に会った」

英語には for the first time（初めて）のあとに in ten years とつけて「10年間で初めて」＝「10年ぶりに」という言い方もあるので、for the first time だけでは曖昧さが残るのだろう。そのあとに in my life 「生まれてこのかた」をつければ「生まれて初めて」という意味になるが、これでは少し大げさだから、「今まで～したことがない」という言い方の方が好まれるのかもしれない。次の2つは映画の中のセリフである。

I have never seen a man killed before. 「私は人が殺されるのは今まで見たことがない」

I have not seen you laugh before. 「君が笑うのを今まで見たことがない」

英会話レッスンで生徒が二人になるときは、講師が「あなた達は一緒にレッスンを受けたことありますか？」という意味で、こう尋ねる。

Do you know each other? 「あなた達は面識がありますか」

日本語表現であれば、「いえ、初めてです」「初対面です」と答えるが、英語では We haven't met before. 「私たちは今まで会ったことがない」という言い方が一般的のようだ。

【2】英語は「現在」「過去」「未来」をしっかり区別して表現する

①「あの音は何だ？」と「この匂いは何だ」を英訳すると次のようになる。

What was that sound? と What is this smell?

注目して欲しいのは be 動詞。「何だ？」と質問したとき、音はすでに過去のものだから was で、匂いは現在もまだ匂っているから is。英語を母語とする人は、こういう区別が、(えーと...) と考えなくても自然にできるらしい。あたり前だけれど。

②アメリカ映画でこんな会話があった。

「誰がそんなこと言ったんだ？」→「誰かよ (誰だったかな)。忘れたわ」

Who said that? → Somebody. I forget.

注目して欲しいのは、日本語字幕の「忘れたわ」に対する forget が現在形である点。過去形の forgot は「忘れていたことを (今) 思い出した」という意味で、現在形の forget は「今も思い出せない」状態を表す。日本語は「今も思い出せない」状態を「忘れた」といい、「今思い出した」状態は「ああ、忘れていた」と表現するが、どちらも過去形である。I forgot to call you. 「あなたに電話するのを忘れていた」

③ I'm really sorry. I couldn't find my keys when I was leaving the house.

「本当にごめん。家を出るときカギが見つからなかったの」

英文は主節の動詞 couldn't find も従属節の動詞も was leaving で過去形だが、日本語は主節が「見つからなかった」と過去形でも従属節は「家を出るとき」と現在形にして「家を出たとき」と言わない。

英語の場合、動詞の時制は話し手が話している時 (今) からみて過去のことは過去形、未来のことは未来形 (ただし条件節のときは現在形) にするのがルールだが、日本語の場合、従属節の動詞の時制は主節の動詞を基準にする。

つまり、主節の「見つけられず探していた」時は、まだ「家を出ていない」し「出かけられない」のだから「出るとき」と現在形で言う。未来形でも同様の違いがみられる。

I will call you when I get home.

「家に着いたら電話するね」

まだ家に着く前のことなのに日本語では「着いた」と過去形・完了形にするのは、主節の「電話する」ときは「家に着いた」後だから完了形・過去形を表す「た」を使うのである。

④さらに、日本語の場合、過去のことを述べる場合でも、「～た」「～た」「～た」というふうに同じ語尾を続けると、くどいと感じられて、あまり良い文章だとされない。だから「～る」という現在形も混ぜる。英語では、そういうことはありえない。過去のことを記述すれば、動詞は全て過去形である。

例えば『ダブリン市民』(ジョイス著 新潮文庫)の「エヴリン」の日本語訳は「彼女は窓際に座って、夕闇が並木通りに広がって来るのを眺めていた。頭を窓のカーテンにもたせ掛けているので、鼻に埃っぽいクレトン更紗の匂いがした。彼女は疲れていた。あまり人が通らない...」である。下線をつけた動詞のうち和訳は「もたせ掛けている」

と「通らない」の2つを現在形にしているが、原文は was leaned と Few people passed で過去形である。

⑤バーベキューで、父が友人と深刻な話をしながら肉を焼いているのを、横でハラハラしながら見ている子どもの表現が面白い。未来形、現在進行形、完了形の違いがわかりやすい。

They are going to burn. It is burning. It has burned.

「焦げるよ。(あっ) 焦げてるよ。(あーあ) 焦げちゃった」

(子どもでも、こんなふう到时制をちゃんと使い分けている。凄い！)

⑥ Where have you been? I've been looking for you.

「今までどこにいたんだ。ずっと探してたんだぞ」

(完了形や進行形を用いることで、自分の気持ちをうまく表現している)

【3】疑問文の作り方 愕然とする英語と日本語の差

例えば英文の She is our teacher. → Is she our teacher? と日本文の「彼女は私たちの先生です」→「彼女は私たちの先生ですか」とを比べた場合、英語の疑問文が①主語と動詞をひっくり返し、かつ②文の最後に? をつけているのに対し、日本語の疑問文は文の最後に「か」を付け加えただけである。

英語の場合は肯定文と疑問文を間違えようがないが、日本語の疑問文の「彼女は私たちの先生ですか」は「(ああ、) 彼女は私たちの先生ですか」という「感嘆文」や「そうですか」という単なる「相づち」の文と変わらない。疑問文の場合の発音は語尾を上げ、語尾を下げれば感嘆文や単なる相づちになるのだが、文章からはその判別ができない。

もちろん、日本文でも「あなたは将来何になりたいですか」とか「あなたはどこへ行きたいのですか」、「空はなぜ青いのですか」のように文の中に「何に」や「どこへ」「なぜ」のような疑問詞があればわかるが、ない場合は文脈から判断するしかない。だから、メールやラインでは日本文でも? マークをつける人も少なくない。まあ、メールやラインは横書きだからつけやすいが、しかし、著名な作家の縦書きの小説の中にも「?」をつけた会話文を見ることがときどきあるから、そのうち教科書でもそうなるかもしれない。

もう1つ、次の文を比べてみて欲しい。

「君たちのほかに誰かいたのか」 Was there anyone else with you?

「君たちのほかに誰がいたのか」 Who else was there with you?

「誰かいるのですか」 Is there anyone?

「誰がいるのですか」(そこにいるのは誰ですか) Who is there?

「誰か」と「誰が」を英語では Who と anyone で使い分けるが、日本語の場合、その違いは「か」と「が」である。

【4】仮定法の表現法 英語と日本語の差

英語の場合、現在の事実に反する仮定は過去形、過去の事実に反する仮定は過去完了形で表すというルールがある。時制を1 ずつずらして、心理的に「現実」から離れてい

ることを表現するのである。その基本形には、I wish と条件節 If があり、If の場合、主節では would, could, might などを使う。I wish や If の場合は仮定法であることはすぐわかるが、主節だけの文も多い。

What would you do? 「お前だったらどうする？」(If you were me が省略されている)

I wouldn't buy that. 「俺だったらそんなもの買わない」(If I were you を省略)

What would you have done? 「お前だったらどうした？」

You could've told me. 「(前もって)、私に知らせることができただろう」

上記のように主節だけの文は would, could, might が使われているので仮定法だと判断できるのだが、私達日本人には少し難しい。では、日本語の場合はどうだろう？「飛行機の操縦が出来たらなァ」「飛行機の操縦が出来ればなァ」「飛行機の操縦ができたなら」「飛行機の操縦ができるなら」

「もし～たら」という文であれば外国人でもわかるだろうが、「もし」をつけないで「～たら」「～れば」「～なら」でも仮定法になるのだから、これもちょっと厳しいかな。

【5】日本語表現の曖昧さ 「主語や目的語の位置」「読点の位置」「漢字と平仮名の配分」

< 1 > 「主語や目的語の位置」

日本語には「は、が、を、に、と」の助詞があるので、例えば「ジャックはメアリーにプレゼントをあげた」という文の主語と目的語を入れ替えて「メアリーにジャックはプレゼントをあげた」と言い換えることもできる。しかし、英語の場合、主語ジャックと目的語メアリーを入れ替えると意味が変わってしまう。

Jack gave Mary a present. 「ジャックはメアリーにプレゼントをあげた」

Mary gave Jack a present. 「メアリーはジャックにプレゼントをあげた」

日本語の場合は、助詞があるので語順を代えても同じ意味を表現できるのである。これはメリットなのかデメリットなのか？ 次の< 2 >と< 3 >もあわせて考えてみたい。

< 2 > 「読点の位置」と「漢字と平仮名の配分」

読点を打つ位置については、「文の切れ目に打つ」とか「息継ぎを意識して打つ」などの説明があるが、まあ、ルールはないといってもよい。意味の切れ目では読点を打たないと誤読を招くことにもなるし、平仮名が続くところでも誤読を防ぐため読点を打つ場合もある。しかし、だからといって読点を多用するとブツブツに切れて読みにくくなるし、文章が拙く見える。

『日本国憲法』の文章は、『路傍の石』で有名な山本有三氏を中心に『国語新表記』を進めていたグループが中心になって書いたものだそうだが、それまでの法律はもちろんのこと国語は「カタカナ文語体」で書かれていたので、新憲法の「平仮名口語体」表記は、戦後の国語表記のお手本になるようなものだったのだろうと思う。しかし、現代の感覚からすると読点が多すぎるような気がするが、どうだろう？

第7条「天皇は、内閣の助言と承認により、国民のために、左の国事に関する行為を行ふ」

第17条「何人も、公務員の不法行為により、損害を受けたときは、法律の定めるところにより、国又は公共団体に、その賠償を求むることができる」

< 3 > 「漢字と平仮名の配分」についても読点と同じで、その加減が難しい。小説などを読むと、読点の使用法も「漢字と平仮名の配分」も、けっきょく作者の「好み」とか「感覚」によるもので、「理屈」ではない。「改行」についても同様である。

いずれにせよ、第5章の【2】で触れた「現在」「過去」「未来」の表現の区別も含めて、「主語や目的語の位置」「読点の位置」「漢字と平仮名の配分」などのルールが曖昧で、書き手の裁量に任されているようなところは、日本語による表現を多様で豊かにしているのだろうが、その反面、日本語を複雑で難しくしているような気がする。

第6章 日本語にはない英語の表現法

【1】便利な英語の he と she

Have you thought of any names for the baby? あるいは Does it have a name?

「(生まれてくる) 子どもの名前は何か考えてあるのですか?」

Yes, if it's a girl, we call her Lusian, if it's a boy we call him Francisco.

「ええ、女の子ならルシア、男の子ならフランシスコという名です(と呼びます)」

「赤ちゃん」から老人まで誰でも、また、夫だろうが妻だろうが、父親だろうが母親だろうが、先生だろうが生徒だろうが、怪しい男や犯人だろうが立派な人だろうが、大統領だろうが首相だろうが誰でも、会話の中で1度出た人物で男性なら2度目からは人称代名詞の he his him でいいし、女性なら she, her, her を使う。これは実に便利な用法で、こんなのが日本語にもあったらなァと日本語の文章を書いているときに多々思う。

そして、he と she をいつでもどんなケースでも機械的に「彼」「彼女」と和訳するとおかしいことになる。以前、TV ニュースを観ていたとき、犯人の映像を見せられた目撃者の女の子が That's him. と指摘したところ「彼だわ」とテロップが出た。いや、これは違うでしょ。「あいつだ」とか「あの男だ」とかだよ。もっとも、時代を経れば、たとえ犯人を指す場合の日本語でも「彼」となるかもしれないが。

【2】これも便利。助動詞 Can, Do や完了形の Have が先頭に来る疑問文に対する返答

<1> Can you...? 「...ができるか?」と聞かれた場合の返答については、日本語の「できるよ」「できないよ」が英語の Yes, I can [No, I can't] にすんなり結びつくのだが、助動詞 Do, Have が先頭に来る疑問文の場合、その返答の Yes, I do. や No, I don't. がスッと出て来ない。

Did you get up early yesterday? 「昨日は早く起きましたか」

Have you finished your homework yet? 「宿題はもう終わりましたか?」

中3の教科書の文だが、この質問に対して、英文でなく和訳の日本語から考えて返答すると、Yes, I did. や No, I didn't. や Yes, I have. (No, I haven't.) がスッと出て来ない。

次は居酒屋での友人同士の会話。これは少し難しい。

I've never been drunk. → You have.

「俺は酔っぱらったことなんか1度もない」→「あるじゃん」

<2> 代動詞 do (be 動詞以外の動詞の代用として用いる) も日本語にはない便利な語

Who broke this vase? → Jane did. 「誰だ。この花瓶を壊したのは?」→「ジェーンです」

I know that I have no right to ask you. → You don't.

「私にはあなたに何か頼める権利がないことは、わかっているけれど」「あなたは、わかってない」

I bought a car. → Oh, did you? 「車を買ったよ」 → 「ああ、そうなんだ」「あ、そうかい」

I don't eat meat. → Don't you? 「私は肉は食べないんだ」 → 「そうですか」

I saw lots of lions in Kenya. → Oh, did you?

「ケニアでライオンをたくさん見たよ」 → 「あ、そうなんだ」「あ、そうかい」

I don't like him. → Neither do I. 「私は彼が好きじゃない」 → 「私もよ」

In England people don't drink beer while they're eating. After dinner they go to a pub.

「英国では、人々は食事のときビールを飲まない。夕飯がすんでからパブへ行く」

この説明に対して、バーミンガム出身の英国人が反論した。同じ英国でも、地域や階級層の差があるのかな？

They do. Oh, yeah. Both. Most men go to the pub. A lot of men like pubs. My father was older so he stopped going to a pub. He prefers drinking at home.

「(家で食事時) 食べながらビール飲む人もいるよ。ああ、両方いるよ。大半の男はパブへ行く。多くの男はパブが好きだよ。私の父は老いたのでパブへ行くのをやめた。どちらかというとな家で飲む」

【3】「無い物」や「いない人」を主語や目的語で使う

< 1 > nothing, not anything 「何も... でない」、nowhere 「どこも... ない」

Is anything wrong with the engine? 「エンジンに、何かおかしいところがあるのかな？」

No, nothing is wrong with it. 「いや、おかしいところはどこにもないよ」

I saw nothing. I know nothing. 「俺は何も見えていない。何も知らない」

(I didn't see anything. と同じ意味だが、nothingの方が「何も知らない」ことを強調する)

No, nothing like that. 「いいえ。そういうことは何も(一切)ありません」

All that work for nothing. 「あんなに頑張ったのにすべて水の泡だ」

I have nothing to hide. 「私は隠すことなんか何もない」

There is nowhere to hide. 「隠れるところはどこもない」

< 2 > Nobody 「誰も... でない」 No one 「誰も... でない」

None 「...のどれも～でない」「誰も... でない」

A lot of people heard gun shots. Nobody saw it.

「多くの人が銃声を聞いた。誰も(撃つところを) 見ていない」

No one (Nobody) knows the news. 「誰もそのニュースを知らないよ」

None of my family smokes. 「私の家族は誰も喫煙しない」

That's none of your business. 「お前には関係ないだろ」

I have nothing to feel guilty about. 「私は罪の意識を感じることは何もない」

< 3 > 「何の関係もない」

I have nothing to do with the murder. 「私はその殺人事件とは何の関係もない」

We have nothing to do with that salesman.

「当社は、そのセールスマンとはいっさい関係はありません」

It has everything [much] with you.

「関係大ありだよ」（「大あり」は everything や much を使う）

What does this photo have to do with Reed? 「この写真とリードどんな関係があるんだ？」

【4】日本語にはない it の用法

it で私たちが最初に教わるのは、前に出たものを受けて「それが、それを、それに」という意味だが、そのほかに日本語表現にはない用法があって、しかも、それが頻繁に使われる。この場合の it は日本語に訳さないで、日本語を見てそれを英訳するとき、この it がなかなか出てこない。

① 形式主語の it

英語では、重要なこと（＝結論）を先に言う。この場合の主語は it にするが、この主語 It は日本語に訳さない。

It's easy to get guns in America.

「そいつはたやすいことだ→銃を手に入れるのは」→「アメリカで銃を手に入れるのはたやすいことだ」

In this kind of situation, it's legal to shoot someone in America.

「このような状況では、それは合法だよ→誰かを撃つのは→アメリカでは」

It's better for you to ride.

「その方がいいよ→あなたにとって→乗り物に乗った方が」＝「乗り物で行った方がいいよ」

It's pleasure to have you with us.

「（それは）うれしいですわ→あなたをお迎え（あなたがうちに滞在）するのは」

How does it feel to kill someone? 「人を殺すって、どんな感じがするのだろうか？」

② it の特別用法 天候・寒暖・明暗、時間、距離を表す文の主語として用いる

この it も日本語に訳さないから、日本語から英訳するとき、この it がスッと出てこない。

It's a beautiful day, isn't it? 「いい天気ですね」

It's windy today, isn't it? 「きょうは風が強いね」

この日本語を英訳するとき、主語を「きょうは」と考えてしまつてつまずく。天候は it が主語だと頭に叩き込んでおくことが大事である。もっとも、Today is a beautiful day. でも文法的には間違いではないが、It を使う方が自然のようだ。

It was raining on and off yesterday. 「昨日は雨が降ったりやんだりしていた」

この場合も同じ、「昨日は」の日本語にとらわれていると、it が出てこない。

It looks like rain. 「雨が降りそうだ」

How cold is it outside? 「外はどのくらいの寒さですか」
 How hot is it in Egypt in July? 「7月のエジプトはどのくらいの暑さですか」
 It's only three, but it's getting dark. 「まだ3時だけど、暗くなってきたよ」
 It's beginning to get light outside. 「外は明るくなり始めた」
 How long does it take to get there?
 「そこに行くのにどれくらい（の時間が）かかりますか」
 How far is it to the station?
 「駅までどのくらいの距離がありますか」

③ 漠然と状況・事情を示す it

これも日本語に訳さない it、だから、ついつい忘れがちになる。
 I can't believe it. 「信じられない」
 I can't stand it. 「もう我慢できない」
 I can't take it anymore. 「もう我慢できない」
 I can't help it. It can't be helped. 「仕方がないよ」
 I mean it. 「本気で言ってるんだ」
 I made it. 「間に合った」
 I did it. 「やった！ うまくいったぞ！」
 I know it. 「わかるよ。わかってるよ」
 I knew it. 「やっぱり、思った通りだ」
 Let's call it a day （それを1日と呼ぼう→1日としよう）→「今日は終わりにしよう」
 Who is it? 「どなた？」
 It's me. 「俺だよ」「私よ」

【5】 なんでもありの have

< 1 > 「何かを自分のところに持つ」

英語は伝える内容に正確さが求められるのだが、その一方で、基本的な動詞、例えば have, get, give, take, go, come などは、信じられないほど様々な意味で使われる。その最たるものが have である。

have の基本的な意味は「何かを自分のところに持つ」だが、持つものは、「物」「人」だけでなく目には見えないものも多数ある。「特徴」「知識」「趣味」「経験」「（抱えている）問題」「時間」「状態」「（置かれている）状況」「病気の症状」「気分」、さらに「食べる（行為）」「（行為を表す名詞を伴って、その行為を）する」。もう何でもあり。

< 2 > 「楽しい（苦勞する）時間を持つ」

「楽しい時間を過ごす」と「～するのに苦勞している」

have a good time と have a hard time...ing

Are you having a good time here? 「ここで楽しくやっていますか？」

She is having a hard time finding a job. 「彼女は仕事を見つけるのに苦勞している」

She had a hard time fitting in at school. 「彼女は学校に適應できなかった」

You must have had a great time. 「よっぽど楽しかったのね」

昔、カナダのガソリンスタンドで朝、満タンにして代金を払ったとき、店の若者から笑顔で Have a good day! と声をかけられ気分を良くしたことがある。最近では、朝の TV のニュースの終わりに司会者が「それでは、よい1日をお過ごしください！」と締めくくることが、中には「それでは、よい1日を！」とだけ言う人もいる。これは直訳ですね。

*ただし、「楽しさ」「楽しいこと」では fun を使う。

You have a lot of fun. 「君は楽しいことが多いね」

Sounds like fun. 「それは楽しそうだね」（「～しようよ」と誘いを受けて）

Try! It's fun. 「やっごらん。おもしろいよ」

< 3 > 「病気を持つ」

病気について言うと、風邪の症状は「喉の痛み」「熱」「鼻づまり」すべて have で OK。「痛み」も「かゆみ」も「花粉症」も「ぜんそくの発作」も「二日酔い」も全部 have でよい。ただし、以下のように have を使わない症状もある。

I can't stop coughing. 「咳が止まらない」

How do you feel today? 「今日の気分はどうですか」

I feel better than yesterday. 「昨日より良くなっています」

驚くのはまだ早い。「have + 人 + 動詞の原形」で「人に～させる」という使役の用法があり、また「have + 物 + 過去分詞」で「物を～される（してもらう）」という用法もある。その用法のちに変形して現在完了形の「have + 過去分詞」の型が出来あがったのだそうだ。

< 4 > 「使役」「依頼」「被害」を持つ = have

< 使役動詞 have + 目的語 + 過去分詞 > の型

日本語の「使役」というと「仕事をさせること」だから、それと「依頼」や「被害」が同じ型というのは少し違和感があるが論理は同じ。

I had my bag repaired. 「バッグを修理してもらった（修理させた）」

I had my bag stolen. 「バッグを盗まれた」

I had my pocket picked in the bus. 「バスの中ですりにやられた」

I had my large intestine examined with an endoscope.

「大腸を内視鏡で調べてもらった」

日本人の感覚だと、「依頼する」と「被害にあう」は大きな違いだから「～してもらう」と「～された」と表現を区別するが、英語は区別しない。これも論理。

Can I have it delivered? 「それを配達していただけますか？」

< 5 > 「完了した状態」を持つ → 現在完了 < have + 過去分詞 > の型

は、もともと < have + 目的語 + 過去分詞 > の型 だったそうだ。

I have a shirt washed. 「私はシャツを一枚洗ったところだ」

この washed は a shirt を後ろから修飾する過去分詞で、文は「私は洗ったシャツ一枚を持っている」という意味になる。しかし、重要なのは a shirt より washed なので、やがて時がたつにつれ、語順が逆転して have washed a shirt になり、それとともに、動詞 have は「持つ」という意味が弱まって、次第に助動詞化していった。こうして、今の完了形の型ができたというのである。

< 6 > 「人を迎える（招待した）」も持つ

これにも驚いた。日本語の感覚からすると「え？」と思う。

Thank you for having me. 「招待してくださってありがとう」

We're having six people for dinner. 「夕飯に6人のお客さんが来るの」

It's pleasure to have you with us. 「来てくださってうれしいわ」

Her condition is serious and she can't have visitors yet.

「彼女の状態は深刻で、面会はまだできません」

< 7 > 「風景」や「光景」、「雨や雪」も持つ

いやいや、驚くのはまだ序の口にすぎない。

We thought that we would have an ocean view from our room, but we have a building in front of us. 「私達は部屋から海が見えるだろうと思った。でも、目の前にはビルがある」

Do you have a lot of [lots of] rain in New York? 「ニューヨークは雨が多いかい？」

We may have a lot of snow tonight. 「今夜は雪がつもるかもしれない」

< 8 > 赤ちゃんも子供も「持つ」

I'm having a baby. 「赤ちゃんができたのよ。（現在進行形 まだ、生まれていない）」

She had a baby girl. 「彼女は女の子を産んだ」

She had a little girl with her. 「彼女は幼い女の子を連れていた」

例を挙げればきりが無い。上記の文は、日本語にすると動詞の表現がみな異なるが、英語は全て have である。なんだか、have ひとつで、なんでも表現できるような気分になって来る。それにしても、ネイティブスピーカーの頭の中は、いったいどうなってるんだろう？

have の基本的な意味は「自分の世界になにかがある」と英和辞典『E-Gate』の編者田中茂範教授は説明する。（うーん、なるほど）とは思ふ。そして、バラバラであったものが、なんとなく繋がってくるような気もする。

しかし、そのことを知っているからといって、「ああ、この文はきっと have で表現していいのだな」と、上記したような文がどんどん頭に浮かんできて使いこなせるようになる、なんてことにはならないだろう。個々の表現は、やはり、それぞれ、ひとつひとつ使うことによって覚えていくほかないと思う。これはネイティブスピーカーの子供でも同じではないだろうか？

【6】なんでもありの get

have の基本的な意味は「何かを自分のところに持つ」で、持つものは何でもありのようだが、この have と同じ内容を「手に入れる（ゲットする）」と示す力強い動詞が get だ。

< 1 > 「手に入れる（ゲットする）」（悪いことも含めて）

How did you get the money? 「そのお金、どうやって手に入れたんだ？」

I got a score of 80 [a perfect score] on the math test.

「数学の考査で 80 点（満点）とった」

He got a promotion last month. 「先月、彼は昇進した」

I got a ticket for speeding. 「スピード違反で捕まった」

< 2 > 比喩的に

Get it? Got it? 「わかる?」「わかった?」

I don't get it. 「わからない」「納得いかない」

I'll get in touch with you by tomorrow. 「明日までに連絡を取ります」

< 3 > 状態を手に入れる→ある状態になる

Don't get angry. 「怒るな」

I'm getting fat. 「太っちゃった」

It's getting warmer. 「だんだん暖かくなってきた」

I got suntanned from playing tennis. 「テニスで日焼けした」

Don't you get homesick? 「ホームシックになることないの?」

< 4 > get を使った受身（予期していなかった突然の出来事の場合に使う）

I got caught in a traffic jam. 「渋滞に巻き込まれた」

I got caught in a shower on my way home from school.

「下校途中に、にわか雨にあった」

He got caught cheating on the test. 「彼はカンニングしていて捕まった」

How do you do it without getting caught. 「ばれずにどうやってやるんだ」

< 5 > 「（出かけるために）着がえる」 get dressed

「（出かけるために）着がえようよ」→ Let's get dressed

「出かけるよ。着がえて」→ We are going out. Get dressed.

< 6 > 日常の動作、行為

副詞と組み合わせて「起きる」「降りる」「下がる」「越える」「ひざまずく」「中へ入る」「外へ出る」「へ着く」「（乗り物に）乗る」など日常の動作から様々な行為まで表現する。

< 7 > get along 「仲良くやっていく」（along 「～に沿って」）

Do you get along with your daughter? 「あなたは娘さんとうまくいっているの?」

(Do you have a good relationship with your daughter?)

She left her job because she didn't get along with her boss.

「彼女は上司と折り合いが悪くて仕事を辞めた」

I can get along without you. 「私はあなたなしでやっていける」

【7】とまどう go, come, be, run の用法

< 1 > go は「行く」だけではない

私達は go をまず「行く」と学ぶから、以下の英文を見ると少し驚く。

This tomato has gone bad. Throw it away. 「このトマト傷んじゃった。捨てて」

The company went bankrupt. 「その会社は倒産した」

Prices went up. 「物価が上がった」

Don't mind me. Go on. 「私に気を使わず、続けてください」

My legs go to sleep. My legs are asleep. 「足がしびれている」

*日本人は「しびれる」＝「寝つく」「眠っている」とは考えないけれど、機能しない状態をいうのだから論理的なのかな。

Nothing can go wrong. 「しくじるはずがない」

* gone は go の過去分詞であり、動詞として完了形や受動態で使われるほか、形容詞として「なくなった」「いなくなった」「過ぎ去った」などの意味で使われる。

My headache has gone. 「頭痛が消えた」

When I came back, my suitcase was gone.

「帰ってみるとスーツケースがなくなっていた」

It's going, going. gone! 「伸びていく (大きい) 伸びていく (大きい) ... 入ったー！」

*メジャーリーグの野球中継で、打球が伸びてホームランになったときアナウンサーは"Gone!" と叫んでいる。go の基本的な意味は「話し手のいるところから離れて行く」だから「元の状態から→別の状態に移行する」→ go を使う

< 2 > 「手を離す」→「放す」「自由にする」→ let go , Let me go 「放してよ」

Let go of my shoulder. You're hurting me. 「肩から手を放せよ。痛いじゃないか」

I can't believe they let him go. He's going to do it again.

「やつを自由にするなんて信じられない。やつは、またやるよ」

*警官が相手に向かって、持っている銃やナイフを「離せ」と言う場合は→ Drop it !

< 3 > 「話し手が望む状態になる。あるいは予測した状態になる」→ come を使う

* come の基本的な意味は go の反対で「話し手のいる (視点のあるところ) へ移動する」

Supper's ready! → I'm coming, Mom. 「ごはんよ！」→「ママ、今、行くよ」

My dream came true. 「夢がかなった」

Don't worry. I didn't come. She didn't make me come.

「心配するな。俺はイカなかった。彼女はイカせてくれなかった」

One of your buttons has come off. 「ボタンが一つとれたよ」

When you fall, skies come off but snowboard is stuck.

「転ぶと、スキーはずれるけれど、スノーボードはくっついたままだよ」

*ボタンやスキーが「はずれる（とれる）」は go でなくて come を使って come off

⇔ go off は「立ち去る」「爆発する」となる。come off の場合、ボタンがとれてもスキーがはずれても、視点は「とれた場所」にもどる。

< 4 > be 動詞は真っ先に「～である」と学ぶが、「～にいる」もよく使われる

I'll be back by five o'clock. 「5時までには戻るよ」

I'll be there in a minute. 「すぐにそちらへ行きます」

I'll be home by seven o'clock. 「7時までには帰るよ（家にいるようにするよ）」

Where were you last night? 「昨夜、どこにいたんだ？」

Where have you been? 「今までどこにいたんだ？」

He told me to be here at four. 「彼が4時にここへ来てって言ったのよ」

*映画『ターミネーター』の決め台詞は、I'll be back. これは元々 I'll come back. だったが、主演のシュワルツネッカーが「弱すぎる」と感じて変更したそうだ。be back には「（元の場所に）（必ず）戻って来る」というような強い意味があるとのこと。

< 5 > run の基本的な意味は「途切れることなく連続的に動いて行く」

He ran for the mayor. 「彼は市長に立候補した」（選挙戦は投票日まで続く）

The train runs every 15 minutes. 「電車は15分ごとに出發す」

Your nose is running. 「鼻水がたれているよ」

When I washed this T-shirt, the colors ran. 「このTシャツ、洗ったら色が落ちた」

He runs a hotel. 「彼はホテルを経営している」

Our money is running out. = We are running out of money.

「お金がもうじき無くなるよ」

Why did you run? 「なぜ逃げたんだ？」

Run! 「逃げろ！」（映画で「逃げろ！」と叫んでいるのは run!）

【8】驚くべし can の用法

< 1 > can の多様な用法について、次のようにも論理（理屈）を展開できる。

原義①能力「～できる」

→< 派生 1 > ②可能性「ありうる」→否定形「ありえない」

< 派生 2 > ③許可「～してよい」「さしつかえない」→否定形「してはいけない」

④依頼「～してください」→⑤命令「しなさい」

< 2 > 「依頼」→「要請」「命令」

映画で、容疑者の恋人に刑事が言った。「ひとつ協力願います」→ You can help us.

Can you help us? のように「依頼」でないのは（当然、協力できますよね）と有無を言わせぬ「要請」だからだ。「順番を待ってくれますか？」 You can wait your turn. レス

トランでわがままな客にウェイトレスが言った。これも有無を言わせぬお願いである。

「いちいち指図はごめんだ」 You can't order me around.

「このことは、誰にも話さないでね」 You can't tell anyone (about) this.

「こんなことしやがって、聞いているのか？」 You can't do this. Do you hear me?

「そんなパンフレットなんか信用しちゃだめだよ」 You can't trust the brochure.

死にかけている若い娘を診る医師に父親が言う。You can't let her die. これなんと訳せばいいのだろうか。「お願いします。なんとか助けてやってください」って意味だけど。

< 3 >可能性

「そんなはずがない」「そんなバカな」「ありえない」It can't be!

「うそ、もう7時だ」 It can't be seven o'clock already.

「それはなにかの間違いだ。聞いてくれ（説明する）」 It's a mistake. I can explain this.

なるほどな。「聞いてくれ」と言い訳をするときの論理は「私はそれを説明できる」だ。「おとなしくしないと殺すぞ」は I can kill you. と英訳する。

強盗の脅し文句は、日本語の場合「おとなしくしないと殺すぞ」だが、英語では I can kill you. この can が効果的だと思う。短いフレーズだが、「オレはお前を殺すこともできるんだぞ。だが、言うことをきけば殺さないですむからな」という意味になる。

< 4 >米国の TV ドラマに出てきた can の次のセリフは和訳がむずかしい

親しい人が癌を患っていることを知り、涙ながらに訴えるシーンで、You can't get sick. You can't die. と言ったが、字幕は「死なないで」だけだった。

You can't get sick. は「許可の can」の否定で「病気なんかなるなよ。ダメだよ」「病気になるかならないで、いやだよ」。あるいは「可能性の can」の否定で「大丈夫だよ。あなたは病気になるかならない」みたいな感じかな。

同じドラマでもう1つ。離婚の危機にある夫婦の会話。新しい家を購入してくれた夫に妻が訴えるシーン。

Don't you get it? All I ever I wanted was for you to look at me.

「わからないの？ 私があなたに望んできたすべては、私の方を見て欲しいってこと」

で、次の文の can't がむずかしい。You can't look at me. You can't talk to me.

場面から考えると「あなたは私の方を見てくれないし、話しかけてもくれない」というような意味になると思うが、You can't は強い拒絶や命令を表すから「私に話しかけないで」「話しかけるな」という意味にもなってしまう。

(うーん...) この you can't は許可の否定「してはいけない」ではなく、可能性の否定「あなたはできない」→「してくれない」ということになるのだろうか？

ネット検索すると、「(あなたは)私に話すことができない」という状況から、「私に話しかけてくれない」「私と話そうとしない」という意味合いになることがあるとのことだ。

【9】「食べ物をよそう」は help

私たちには、Help me! が「助けて」としっかりインプットされているので、以下の③や④の意味が出てこない。①「手伝う」→②「助ける」→③「役に立つ」→④「(食べ物)を器に美しく盛ってあげる」

The law doesn't really help. 「その法律は全く役に立たない」

She helped me to some potatoes. 「彼女は私にポテトをとりわけて(よそって)くれた」
「手伝ってくれる」→「よそってくれる」。ちなみに「ご飯をよそう」の漢字は「装う」だ
そうだ。「身支度を整える」が転じて「飲食物を器に美しく盛る」という意味になった。

Feel free to help yourself to anything to drink in the fridge.

「どうぞ遠慮なく [ご自由に] 冷蔵庫の飲み物は何でも自分でとって飲んでください」

また、helpful 「役に立つ」や helpless 「役に立たない」から「無力の」という意味が出て
こない。

Don't bully helpless children. 「弱い子(無力な子)をいじめるな」

< can't + help > 「どうしようもない」「仕方がない」

It can't be helped. 「どうしようもない」「仕方がない」

I'm sorry Mommy. I couldn't help it. I couldn't wake up.

「ママ、ごめんなさい。仕方がなかったんだ。目がさめなかったんだよ」

(おねしょした子どもが母親に謝っているシーン)

*ちなみに「おねしょする」は wet the bed

I couldn't help it. I couldn't find my car key when I was leaving the house.

「仕方がなかったんだよ。家を出るとき車のキーが見つからなくて」

I can't help blaming myself. 「わが身を責めずにはられません」

【10】happen 「予期せぬことが偶然起こる」

What's happening? [What's going on?] 「どうしたんだ?」「何事だ」

What happened to your face. 「その顔はどうしたんですか?」

She happened to be at the murder scene. 「彼女はたまたま殺人現場に居合わせた」

I happened to meet him. 「私は偶然彼に出会った」

What was the motive? → She said she didn't know herself. She did it on kind of impulse.

The razor happened to be there. 「動機は何だ」→「彼女自身わからないと言った。一種
の衝動でやった。たまたまカミソリがそこにあったんだと」

It'll never [won't] happen again. 「二度としません」(注意 主語は私ではない)

【11】 work 「働く」から、次に何を想像できるか?

①「働く」「働かせる」→②「動く」「動かす」→③「作用する」「効く」→「うまくいく」
「コンピューターが動かない」の「動く」は、move 「移動する」ではなく work 「作動す
る」だから The computer doesn't work. であり、海外のホテルで「部屋のテレビがつか
ない」と連絡する場合は、The TV in my room doesn't work. だ。

*「薬が効く」の「効く」も「作用する」という意味だから work になる。

Are you sure it works? 「それホントに効くの？」

It works for a cold. 「それは風邪に効くよ」

*殺人事件の犯人2人が、事故に見せかけた偽装工作をしたあとの会話

You think it worked? → It worked. 「うまくいくかな？」 → 「うまくいくよ」

日本語が現在形なのは結果がまだ先のことからだろうが、英語はすでに行った偽装行為をさして過去形なんだろうか? 「うまくいったかな」 → 「うまくいったよ」

*それにしても、凄いね。日本語はどれも別々の表現なのに、英語は同じ1つの work で OK。しかし、よく考えると理屈に合っている。

第7章 発想の違いと表現の違い

【1】出産と誕生

< 1 > 英語では「ご出産、おめでとうございます」と言わない

Congratulations on your new baby!

Congratulations on the birth of your child!

英語では「お子さんの誕生おめでとう」と言う。(うーん)、この違いはなんだろう？ もしかしたらキリスト教かな？「出産」という日本語は母親が「がんばって産みました」って感じがするが、キリスト教の場合、すべての生命は神によって与えられたもので、神の恵みと祝福のしるしとされているのだそうだ。つまり、誕生とは人間の行いを超えた神のつかさどる境域に属する。そういうことだろうか。

「子供を産む」の英語は have a baby が一般的のようで、「私、子どもができたの」は I'm going to have a baby. しかし、I have a baby. は「私は赤ちゃんがいる」という意味でもある。そのところは紛らわしくはないのかなと日本人は思うが、そんな文脈でわかるでしょ、ってことかな。

なお、「誕生の日」である birthday の和訳は「誕生日」なのに birthrate の和訳は「出生率」だ。でも、これは「誕生率」でもいいような気がする。

The birthrate in Japan has been decreasing.

「日本の出生率はずっと下がって来ている」

< 2 > 英語では「一卵性双生児」と言わない。identical twins という。

They are identical twins and look similar.

「彼らは一卵性双生児で、ほぼ同じに見える（容姿が似ている）」

identical は「同一の」「全く同等の」。なるほど、「一卵性」という表現はあまりに生物学的でちょっと失礼だよね。なお、「身分証明」を意味する ID は identification または identify の略で、identify には「身元を確認する」という意味がある。

The body hasn't been identified. 「その死体は身元確認できてない」

< 3 > 「出産予定日」は「満期（期限）が来る日」→ 形容詞の due を使う

When is the rent due? 「家賃の支払い日（満期）はいつですか」

When is your baby due? 「ご出産の予定は（満期）いつですか？」

【2】日本語は「～ではないと思う」⇔ 英語は「～だとは思わない」

① 「今日の午後は、雨は降らないと思うよ」→ I think it will not rain this afternoon.

② 「今日の午後は、雨が降るとは思わないな」→ I don't think it will rain this afternoon.

日本語の表現としては①の方が自然だと思うが、英語の場合は②である。大切な情報を先に持って来るのが英語のルールだから、否定を先に持ってきて、そのことをまず相手に知らせる。

I don't think it is anything wrong to ask questions when you don't understand.

「私は思わない」とまず告げる→「わからないとき質問するのはなにか間違っただと」

I think people are the problem, not guns.

「銃が悪いのではなく、(銃を使用する)人間に問題があるんだよ」

英語では「悪いのは人間だ」という結論を先に持って来るが、日本語は逆に結論が後
The police concluded that the driver, not the car caused the accident.

「警察は、事故の原因はクルマではなく運転手だと結論づけた」

英語では「結論づけた」内容である「運転手が原因」というのを先に持って来る。

* TV ドラマ『FBI』で、Were you here three nights ago? 「三日前の晩、ここにいましたか?」と

刑事に問われた人の返事が、I don't think so. だった。

この質問に対してこの返答は、日本人の多くが違和感を抱くと思う。なにか意見を尋ねられた場合なら「私はそうは思わない」と訳せばよいが、この場合は、なんと訳せばいいのだろうか? ちょっと戸惑うが、「いいえ、いなかったと思います」だろう。しかし、この英文からこの日本語はスッと出てこない。

【3】警察の事情聴取 英語は肯定疑問文、日本語は否定疑問文

Has anything unusual happened lately?

「最近、何かいつもと違うことが起きていましたか」

Have you noticed a change in his behavior?

「彼の生活態度の変化に気づきましたか」

Did you see anyone or anything suspicious?

「何か怪しい人物あるいは怪しいものを見ましたか」

上記3つの英文はすべて TV ドラマ『FBI』での会話で肯定疑問文だが、日本の事情聴取は「起きていませんでしたか?」「気づきませんでしたか?」「見ませんでしたか?」のように、だいたい否定疑問文になると思う。

なぜだろうとネット検索してみると「否定疑問文は特定の答えを導きだそうとする誘導尋問の一種とみなされ、虚偽の自白につながるリスクがあると批判されている」とのことだ。なるほど。「見なかったか?」という質問は「見ただろう?」という答えを想定しているから「いいえ、見てないです」と答えにくい。取調室で刑事に囲まれ否定疑問文が繰り返されると、気の弱い人は「そういえば...」ということにもなりかねない。

ただ日本語では、肯定疑問文で「見たか?」と問われて「いいえ、見ませんでした」と答えるのと、否定疑問文で「見なかったか?」と問われて「はい、見ませんでした」と答えるのを比べてみると、後者の否定疑問文の方が答えやすいと思う。この違いはどこから来るのだろうか? それは、質問に対する日本語の「はい」「いいえ」の答え方と英語の「Yes」「No」の答え方の違いによる。

日本語の場合、「見ていない」と答えたい人は、相手の質問が「見たか？」なら「いいえ」となって相手の質問内容を否定することになり、少しプレッシャーを感じるかもしれない。これに対して、「見なかったか？」では「はい」となって相手の質問内容を否定することにならない。だから、こちらの方が気が楽だと思う。

英語の場合、Did you see that?と問われても Didn't you see that?と問われても、見てなければ、あるいは見てないと答えたい場合はどちらの答えも No, I didn't で、見ていたら Yes, I did. となる。つまり、英語の場合の「Yes」「No」は相手の質問内容に対する答えではなく、事実に対する肯定か否定かである。ここが違う。

さらに、「日本語の否定疑問文は、一般的には肯定疑問文よりも柔らかく、相手への配慮や控えめな気持ちを示す傾向がある」に対して「英語では一般的に肯定疑問文よりも否定疑問文の方がきつい印象を与えることがある」とも説明されているが、なるほどと思う。また、Didn't you と not が文の先頭に来る英語と、「...していないか」と文の最後に否定語が来る日本語の違いもあるかもしれない。

【4】「見分ける」「違いが判る」ということは「違いが伝えられる」ことである
「見分ける」を英語では tell, can tell という。tell は「相手にある内容を伝える」ことだ。
I can't tell a sheep from a goat. = I can't tell the difference between a sheep and a goat.
「羊とヤギの見分けがつかない」

No one can tell. [Who can tell?] 「誰にもわからない」

It's difficult to tell just seeing the photo. 「写真を見るだけではわかりにくい」

You're new, huh? I can tell. 「新入りだな？ 一目で分かる」(映画から)

Can you tell someone is from Gamagori by the way to talk?

「話し方で、その人が蒲郡出身だってことがわかるの？」

What' the difference? 「どっちでもいいじゃないか」

【5】「お付き合いする」「と付き合っている」「と交際している」の動詞は？

< 1 > まず、see を日本語にすると意味がいくつあるだろうか？

①「見る」「見える」②「会う」「(会って) 診てもらおう」③「見てわかる」④「見て確かめる」

① On a clear day, you can see Mt. Fuji from here.

「晴れた日には、ここから富士山が見える」

② See you later. 「またね」「じゃあね」

② Have you seen her? 「彼女を見かけてない？ (知らない?)」「彼女に会ってない？」

② You should see a doctor. 「医者に診てもらった方がいいよ」

③ Do you see? 「わかりますか？」 See? 「わかったかい？」

④ May I see your passport, please? 「パスポートを見せてください」

< 2 > 「と付き合っている」「と交際している」のポイントは進行形

be seeing 人 (継続的に会っている) be dating 人 (継続的にデートしている)

Are you seeing someone now? 「今、誰かと付き合っているの？」

I'm not seeing him. 「彼とは付き合っていないよ」

What's your relationship with her? → We are seeing each other.

「彼女とはどういう関係ですか?」 → 「私たちは付き合っています」

He said he was dating her and in the process of divorcing his wife.

「彼は彼女と付き合っている。そして妻とは離婚の手続きを進めていると言った」

< 3 > 「別れた」「振った」

We broke up a few days ago. 「2, 3日前に私たちは別れたんです」

She broke up with me. 「彼女が俺を振ったんだ」

I broke up with her. 「俺が彼女を振ったんだ」

We broke up in early April and then, a couple of weeks later, I met someone else.

「私たちね4月初旬に別れた。それで、それから2, 3週間ほどして別の出会いがあったの」

【6】 「人と会う」には3つの会い方がある

① (初めて) 会う = 知り合いになる (出会い) ② (日時を定めて) 会う ③ 出迎える。

日本語では3つとも異なる語だが、英語はすべて meet これが不思議。

How did you meet her? 「彼女とは、どうやって出会ったの?」 (「出会い」「なれそめ」)

しかし、これは「昨日友人と会った」と聞いて、「どんなふうにして?」と問い返す英文と同じになる。だから、「出会い」についての質問と区別がつかないのではと思うが、でも大丈夫。昨日会ったことならフツー I met her yesterday. と言う。言わない場合は When? と聞くのがフツーだから。

I'm meeting my friend tomorrow. 「明日友人と会う約束がある」

I'll meet you at the station. 「駅まで迎えに行くよ」

【7】 「に包帯をする」 (on は「の上に」ではない)

put の基本的な意味は「置く」 (on は「の上に」ではなく「接触関係」を表す)

put a bandage on a cut. 「傷口に包帯をする」 (傷口に接触させて包帯をつける)

put on の後に「身につけるもの」が来れば「身に (接触させて) つける」を意味する。

「身につける」ものは何でも OK だ。

「衣類を着る」「靴をはく」「帽子をかぶる」「ネクタイを締める」「眼鏡をかける」「手袋・指輪・腕時計などをはめる」「マフラーを巻く」「香水をつける」「包帯をする」。

これら9つの表現が、英語ではすべて put on の1語。しかし、日本語の場合は表現が全て異なる。これを見るとため息が出てくる。もちろん on の後には、他に「比喩」も含めて様々な名詞が来る。

put a pan on the fire は「フライパンを火にかける」

Why does your mother put pressure on you to marry by the time you are thirty?

「なぜ、あなたの母はあなたに30歳までに結婚しなさいと圧力をかけるの」

【8】「死後6年たつ=6年間死んでいる」

「彼女は結婚して10年になる」を英語にしなさいといわれれば、私たちはまず It を主語にした文を思い浮かべるだろう。

It's been ten years since she married him. あるいは It is now ten years since she married him. (is は現時点で10年という「状態」を強調し、完了形は10年経ったという「経過」を強調する) ところが、次の言い方もある。これを見たときは、(なるほどな)と思った。

She has been married for ten years. 「彼女は10年間結婚している」

そして、TVドラマで次の会話が出てきたときは驚いた。

How long has he been dead? 「死後どれくらいたつ？」

He has been dead for six years. 「死後6年たつ」

直訳すれば「彼は6年間死んでいる」ということになるのか？ 論理は正しいけど...

【9】発想に共通するものあり？

<1> 「呑み助」「呑んべえい」

日本語にも「呑み助」「呑んべい」という言葉があるが、英語で「酔っている」は drink の過去分詞であり形容詞でもある drunk

You are drunk, aren't you? 「あなた、酔ってるのね？」

名詞を前から修飾する場合は drunken を用いる

Drunken driving is illegal. 「飲酒運転は違法です」

Japan is strict on drunken driving. 「日本は飲酒運転に厳しい」

I get drunk easily and then go to sleep soon.

「(私は酒に弱い) すぐに酔って寝てしまう」

He is a heavy drinker. He drinks a lot. 「彼はお酒が強い」「彼はたくさん飲む」

日本語は「酒が強い・弱い」と表現するが、英語では drink a lot 「たくさん飲む」か a heavy drinker 「大酒のみ」だ。heavy は「重い」から「大量の」という意味にもなる。日本では「ヘビースモーカー」とはいうが「ヘビードリンカー」とはいわず、酒の場合は日本語のまま「大酒のみ」か「酒豪」。なお、「酔っていない」「しらふ」の状態を sober という。

He was sober and clear. 「彼はしらふで正気でした」

<2> 「道」→「方法」「手段」 way

この論理の展開は日本語も同じ 「使い道」「他に道がない」=「手段」「方法」

「...へ行く道」→「道のり」「方角」→「行き方」→「方法」「手段」

Make way. 「道をあける」、Clear the way. 「邪魔だ」

I'm going that way. 「私もその(同じ)方向へ行くところです」

I'll go with you part of the way. 「途中まで一緒に行きましょう」

You took the wrong way. 「道を間違えていますよ」

I'm on my way. 「すぐ、そちらに向かいます」「今そちらに向かっています」

Help is on the way. 「助け(救急車)はこちらに向かっている(頑張れ)」

He was on his way home from school. 「彼は学校からの帰宅途中だった」
 The taxi driver couldn't see the child because there was a bus in the way.
 「タクシートの運転手はバスが邪魔になってその子供の姿が見えなかった」
 What's the secret? Is it the way of thinking? Is it what you eat?
 「その秘訣はなんですか？ 考え方ですか。それとも食べるものですか」(
 The only way to turn off these bombs is to find the code.
 「これらの爆弾を解除する唯一の方法は番号を見つけることだ」
 Is it a different way to talk in Gamagori from the way in Tokyo?
 「蒲郡の話し方と東京の話し方は違うの？」
 The way that they were killed is very similar to the way that Cory's victims were killed.
 「彼らの殺され方とコーリーの被害者の殺され方はとても良く似ている」
 I'm tired of the way (that) you're treating me.
 「私は、あんた達の私に対する扱いにはうんざりだ」
 Everyone faces death in their own way. 「死に向かう方法は人それぞれだ」
 I didn't mean it that way. 「そんなふうなつもりではなかったんだよ」
 It doesn't work that way. 「そんなふうにはいかないんだよ」

【10】 ちょっと変わった英単語と用法

< 1 > 「時間厳守」

英語には「時間厳守する」punctual という形容詞がある。これには驚いた。

It's about the only when they travel by plane that they are punctual.

「彼らが時間を守るのは、飛行機で旅行するときくらいのものだ」

puncture とは「パンクする（させる）」「穴が開く（穴をあける）」

< 2 > 「車を道路の片側に寄せてとめる」という 2 字熟語がある → pull over

I will pull over. 「車を隅に寄せて停めるよ」

I was pulled over by the police last night. 「昨夜、警官に車を止められた」

pull は「引っ張る」で over は「終わる」だから → 引っ張る（動かす）のを終える → 「車を走らせる」のを終える、ということなんだそうだ。

pull over とか pull the car over などは映画でよく使われる。

第 8 章 居酒屋とパブ

【1】アルコールの年齢制限

「制限時間＝時間制限」の英語は、なぜかカタカナ語になっていて「タイムリミット」(time limit) だが、「年齢制限」(age limit) や「速度制限＝制限速度」(speed limit) は漢語のままである。

「ヘビースモーカー」(a heavy smoker) もカタカナ語だが、「大酒飲み」(a heavy drinker) は日本語のままだ。まあ、drink は「ドリンク」(飲み物) というカタカナ語がすでにあるので、「ドリンカー」(酒飲み) というカタカナ語は生まれにくいのだろう。

タバコや酒の年齢制限は smoking age limit と alcohol age limit というが、日本の場合、喫煙も飲酒も 20 歳からである。すでに選挙の投票権は 18 歳以上に引き下げられ、2022 年 4 月から成人年齢が 18 歳に引き下げられたのだが、飲酒と喫煙については「健康への配慮から」20 歳未満禁止が維持されている。

日本は法治国家だから「守らなくてもよい法律」はないはずだが、「ほとんど守られていない法律」はある。例えば、道路交通法における制限速度。大半の道路で大半の車が制限速度を 5～10 キロ程度オーバーして走っている。こういう交通状態の場面で、自分だけが制限速度以内で走行すれば渋滞を引き起こし迷惑をかける。

飲酒喫煙については、高校生までは世間の目も厳しい。高校生が体育祭の打ち上げを居酒屋でやれば、通報されて生徒は指導され店主も罰せられる可能性がある。しかし、18 歳や 19 歳の大学 1 年生や社会人がコンパや忘年会に参加し飲酒しても咎める人はいないだろう。だからといって、18 歳以上は飲酒も喫煙も OK だとすれば、高校 3 年生でも、誕生日過ぎた者はいよいよとなって先生も困るだろう。一応、20 歳が境界だが、18 歳はグレーゾーン、19 歳はまあいいかというのが日本の現実だろうと思う。

20 年前、アイルランドのダブリン郊外に滞在したとき、バス停の前で高校生がタバコをスパスパやっていたので注意したくなったが、後で調べてみると喫煙は 16 歳から OK だった。では、飲酒はどうだろう？

イギリスやドイツなどでは「ビールとワインは 16 歳から OK で、ウイスキーやブランデーみたいな蒸留酒は 18 歳から」、フランス・イタリア・スペインなどはどちらも 16 歳から OK のようで、日本と比べてゆるい。

しかし、それでも、ヨーロッパでは一般的に飲酒は否定的に考えられているような気がする。アイルランド、スコットランド、オーストラリアで、それぞれ 1 週間のホームステイを体験したが、日本の多くの家庭で見られる父親の晩酌は 1 度も見なかった。特別な日や友人を招いた場合は別にして、食事中は父親といえども飲み物は水で、家族と一緒に質素な夕飯をとり、飲みたければ夕飯後パブへ出かけ、つまみなしでビールをちびちび飲む。だから、私は毎夜、晩御飯を食べてからパブへ出かけてビールを飲む羽目

になった。飯食った後にビールなんか飲めるか？ と最初は思ったが、慣れてしまえば悪くない。

【2】日本人はビールを「ゴクゴク飲む」が英国人は「ちびちび飲む」

イギリス人英会話講師は、日本人のビールの飲み方がイギリス人とあまりに違うので驚いていた。

In England they don't drink beer while they're eating meals. After dinner they go to a pub and just drink. They don't drink. They sip Guinness spending a long time. It is very different from Japan. In Japan people gulp beer eating something.

「イングランドでは、食べながらビールを飲まない。夕飯がすんでからパブへ行ってただ飲むだけ（つまみなし）。長い時間かけて、ギネスをちびちび飲むんだよ。日本とはずいぶん違う。日本の人たちは何かを食べながらゴクゴク飲むね」

* 「オレは毎日飲むよ」って、そんなことを他人に言うべきではない

意外なのは米国で飲酒解禁年齢は 21 歳である。これは全米で統一されており、州によって異なるということはない。やはり、敬虔なキリスト教徒の主導により、1920 年から 1933 年まで 13 年間にわたり禁酒法が施行された国である。「オレは毎日飲むよ」と言ったら、敬虔な英会話教師（米国人）に咎められた。

I think in America people are less likely to say that I drink every day.

「あなたね・・・米国では、私は毎日飲むなんて言う人はほとんどいないよ」

Maybe the same amount of people drinks, but less people talk about it.

「たぶん、飲む人の数は変わらないだろうけれど、そんなこと他人に言う人は少ないよ」

When did you start drinking and smoking, when you were 20 or before you were 20? 「あなた、飲酒や喫煙はいつから始めたの？ 20 歳？ それとも 20 歳前？」

なんだか、アメリカの若者に説教されているようで白けた。それでいて、米国では 18 歳から銃が買えるのだから怖いわ。

If you are over 18 and don't have a criminal record, you can buy guns legally. Guns are sold in even supermarkets.

「18 歳以上で、犯罪歴がなければ合法的に銃を買える。スーパーでも売っているよ」

* 「家飲み」、「ひとり飲み」は白い目で見られる。あるオーストラリア人講師の話

It's OK to drink with your friends and drink with your family. But to drink alone is not so acceptable. Maybe it depends on person, family and also depends on class. In my family and probably a lot of families in Australia, we usually drink water while eating and have tea or coffee after the meal but on all special occasions like Christmas, we drink wine.

「友人と一緒に飲むのとか家族と一緒に飲むのはいいけれど、ひとりで飲むのはあまり好ましく思われない。まあ、人により家族により階級にもよるのだろうけれど。私の家庭の場合、おそらくオーストラリアの多くの家庭では、食事中は水を飲み食後にお茶かコーヒーね。だけど、クリスマスとか特別な日はワインを飲みながら食事するよ」

【3】日本の生ビールはアワが多い

I went for a drink last night.

「昨夜、飲みに行ったよ」と話すと、別のイギリス人講師が言った。

Did they serve you a big head? Always in Japan.

「アワが多かったかい？ 日本ではいつもそうだ」

グラスに注いだときにできるビールのアワの部分を a head of beer というのだそうだ。私はアイルランドでの体験を話した。

I saw someone complained to a barman about the head of beer in Ireland.

「アイルランドで、ビールのアワについてクレームをつけている人を見たよ」

Always in England and in Ireland.

「イングランドやアイルランドでは、いつものことだよ」

How do you complain?

「どうやって文句言うの？」

You say” Can you top it up please? “If you want to be sarcastic, you say “I’d, like some beer with my froth. I’m paying for the froth.” Beer glasses in Japan are smaller, so this is important. 「なみなみと注いでください、って言うんだよ。皮肉っぽく言いたければ、私の言うように注いでくれますか、アワ代も払うので、と言うんだよ。日本ではビールのグラスが小さいので、これは大切なことだ」

日本の居酒屋が日本酒を1合、2合と量で売るように、イギリスやアイルランドではビールを1パイント（568cc）という量で売る。しかし、日本の生ビールは「生大」、「生中」などとテキトーな量で売られる。だから、ビールのアワの量は同じ店でも一定ではない。アワの多いのを出されると、文句は言わないがテンションが下がる。

*日本の居酒屋の「お勘定は最後で」は苦手

続いて、話題は日本の居酒屋とイギリスのパブの違いへと移った。

Payment at a bar is very different between Japan and England. Which do you prefer? Western style of payment or Japanese style? For foreigners in Japan. It’s very difficult to organize payment. If the teachers go to a bar, at the end of night the bill comes. People count the numbers. “How many?” “Well. . . I had five beers and.. .” You can’t buy your friends a drink. In England it’s very popular to buy someone a drink but in Japan it’s very difficult.

「飲み屋での支払い方法は、日本とイングランドとではずいぶん違う。あなたは、西洋式と日本式のどちらが好き？（日本の居酒屋で、外国人が複数で飲む場合）、支払う時の調整が難しい。講師たちで飲みに行く。夜の終わりになって勘定書が来る。みんな自分の飲んだ分を数える。『何倍飲んだ？』『ビール5杯と、それから、ええと』。日本では友人に一杯おごることができない。イングランドでは、友人に一杯おごるのは、よくあることだが、日本だとそれが難しい」

西洋のパブでは、一杯注文するごとにその代金をバーテンに支払う。カウンターの中のバーテンの背後には手提げ金庫が置いてあって、その都度開けて代金を中に入れオツリをくれる。西洋人が困惑するように、確かに日本式は曖昧だ。最後に勘定のトータル

を払うわけだから、割り勘だとややこしい。まさか、何杯飲んだか数まで数えられないから、総額を人数で割るということになる。しかし、これだと飲んだもん勝ちということにもなって、なにか割り切れない気分になる。

【4】日本の居酒屋の魅力

生ビールのアワの多さや支払方法に困惑する英会話講師たちだが、日本の居酒屋にはすっかり魅入られたようだ。なにしろ、料理の品ぞろえが半端ない。しかも閉店間際まで飲み食いできる。西洋のパブは、基本、食べ物は出さない。飲むだけである。観光客の多い都心のパブでは料理も出すが、品が少ない。そういえば、ローストビーフだけというパブもあった。アイルランドの首都ダブリンでも、郊外のパブになると食べ物はなかった。人々は食事をすませてからパブに集まるのだから料理は必要ない。

In most pubs in Britain, you have to order something to eat by 7 or 8 o'clock but in Japan pubs shut about at 11:30. So, last orders are at 11:00, very very late.

「英国のほとんどのパブでは、食べ物は7時か8時までに注文しなければならない。日本の居酒屋は11時半に閉店だからラストオーダーは11時だ。とても遅い」

*公園や電車の中で飲酒はできない。

Has anything in Japan surprised you?

「日本でなにか驚いたことある？」と、オーストリア講師に問うた。

Well. . . The first surprise I got was when I went to a supermarket. Everything was noisy. They were playing CDs and shouting something.

「そうね. . . 私が最初に驚いたのはスーパーへ行ったときのことかな。なにもかも騒がしかった。店ではCDが流れていて、店員たちが何か大声で叫んでいた」

なるほど、音楽を流したり、威勢のいい店員が「さーラッシャイ、ラッシャイ」などと叫ぶのは他の国にはないだろうな。Anything else? 「他には？」と訊くと電車の中で缶ビールを飲んでいる人を見かけたことだそうだ。

I think that in Japan you can drink almost anywhere, right?

「日本では、ほとんどどこでも飲酒できる。そうでしょ？」

You can't drink in public in Australia. For example, in a park and on train.

「オーストラリアでは、公共の場で飲酒できない。例えば、公園とか電車の中」

Actually, some people bring alcohol to a beach or park and have a barbecue. But it's not really allowed.

「ま、実際には、ビーチとか公園にアルコールを持ち込んでバーベキューやる人もいるけれど、本当は許可されていない」

第9章 米国民と銃

【1】米国では飲酒解禁年齢は21歳だが、銃は18歳から所持できる

飲酒が21歳からなのに銃の所持が18歳からという、このアンバランスには合点がいかない。テキサス出身の英会話講師と銃について話したことがある。

“It’s easy to get a gun in America. If you are over 18 and don’t have a criminal record, you can buy guns legally. Guns are sold in even supermarkets.”

と、講師が言ったので私は念を押した。

“So, people who have a criminal record can’t buy guns.”

“It’s not difficult for people who have a criminal record to get guns. Like Mafia, there are people providing guns illegally. They sell guns to anyone without license, just for money.”

“I think the gun control laws in the U.S. should be stricter.”

“I think people are the problem, not guns.”

「米国で銃を手に入れるのは簡単だ。18歳以上で、犯罪歴がなければ合法的に銃を購入できる。銃はスーパーマーケットでも売っているよ」

「ということは、犯罪歴のある人は買えないんだ」

「犯罪歴のある者でも銃を手に入れるのは難しくない。例えばマフィアだが、銃を非合法に供給する連中がいる。奴らは、許可証も持たず、ただ金銭目的だけで銃を売るんだ」

「米国は銃規制の法律をもっと強化すべきだと思うな」

「銃が悪いのではなく、銃を使用する人間に問題があるんだよ」

この米国人講師は銃規制を支持しない。私は服部君事件のことを話してみた。1992年、ルイジアナ州バトンルーージュ市で、留学していた日本人高校生の服部君が射殺された。名古屋市の高校生だった。

ホームステイ先の息子さんとハロウィン・パーティに仮装の服装で出かけた服部君は、訪問先を間違えて別の家を訪れた。住人のピアーズは、服部君を不審者と考え銃を突きつけFreeze（止まれ）と警告した。服部君は「パーティーに来たんです」と説明しながら歩み寄り、至近距離から撃たれて殺された。

ピアーズは殺人罪で起訴されたが、陪審員12名は被告の発砲を「自衛」（正当防衛）行為とし、全員一致で無罪の評決を下した。しかし、その後、遺族が起こした民事裁判では刑事裁判とは反対に「自衛」（正当防衛）は認められず、被告は損害賠償を命ぜられた。

服部君の両親は、米国の家庭から銃を撤去しなければ、同じようなことはいつでも起こり得るとして、銃規制を求める運動を始め、今なお尽力されている。その後、銃販売店

に対する販売規制は強化されたが、銃の所持に対する規制は強化されていない。米国には、銃で自らや家族を防衛することは正当な権利であるという考え方が、今なお根強い。

私は、講師が服部君事件に対して、I'm sorry. と言うと思った。

“I was shocked because the jury returned a unanimous verdict of not guilty.”

“It was in self-defense that he shot the boy. If someone comes into someone’s property without permission, that is trespass. In this kind of situation, it’s legal to shoot someone in America.”

“.....”

“What would you do, if someone comes into your house without permission?”

「陪審員が全員一致で無罪の評決を出したときはショックだったよ」

と、私は言った。

「その男が少年を撃ったことは正当防衛だよ。もし誰かが誰かの敷地内に無断で侵入すれば、それは不法侵入だ。そういう状況では、人を撃つのは合法なんだ。米国では」

私は講師のこの言葉にもショックを受けた。私がとても納得できないという表情をすると、彼は私に質問した。

「もし誰かが、許可なしに君の家に侵入してきたら君はどうするんだ？」

私は返事に窮した。そんな状況など、考えてみたことがない。もちろん、銃を撃った体験もなければ、人を射殺した場面を現場で見たこともない。だから、もし人から銃を突きつけられたとしても、実感が湧かず、恐怖感をリアルに感じないかもしれない。また、もし間違えて他人の敷地に許可なく入ったとしても、まさか撃たれるとは思わないだろう。

銃規制については賛否いろいろ議論がある。しかし、警察が社会の治安を維持できれば、一般市民が自衛のために武装する必要はない。

オーストラリアも米国と同じように銃社会だった。広大な国土と移民社会という事情を背景に、自衛のための銃所持が認められてきた。そして、米国同様、銃乱射事件も発生していた。とくに1996年タスマニア州で起きた銃乱射事件では35人の犠牲者を出して、人々に衝撃を与えた。以後、政府は本格的な銃規制に乗りだし、現在、オーストラリアのそれは世界で最も厳しい部類に入るのだそうだ。世界の情勢は、今後、銃規制に向かって動いていくだろうか？ そうあってほしいと思うが、わからない。

上記のようにテキサス出身の英会話講師と銃について話したのは、もう20年以上も前のことである。あれから20年余が過ぎ、2026年1月24日、ミネソタ州ミネアポリスでデモ参加者が射殺されるという事件が起きた。

【2】米国民は自己防衛のために銃を所持・携行できる

米国民には自己防衛（護身）のため銃を所持し携行する権利が認められており、それは「憲法補正条項第2条」に基づくとされている。

2026年1月24日、ミネソタ州ミネアポリスで、米移民・税関捜査局（ICE）の移民取り締まりに抗議するデモに参加した看護師の男性プレッティさん（37歳）が、ICEの捜査官によって射殺された。ICEなどの当局は、プレッティさんが銃を手にして捜査

官に近づいたので、やむを得ず射殺したと声明を出した。

メディアがその映像を検証し、インターネットにもあげられていた。道路上で、数人の捜査官がプレッティさんを抑え込んでいる。そこへ1人の捜査官が割って入り、プレッティさんのウエストバンドに手を伸ばした。「銃を持っているぞ」と複数の捜査官が叫ぶ。あとから割って入ったその捜査官は銃を手にして出てきた。その1秒あまりあと、銃声が1発響き、続けて少なくとも9発の銃声が響いた。銃を取りあげた捜査官は、プレッティさんに接近する前は手に何も持っていなかった。

検証の結果、プレッティさんは腰のベルトに銃をさして所持していたが、銃を手を持って捜査官に向けたという当局の主張は事実ではないとわかった。彼は捜査官に銃を取りあげられたあと、別の複数の捜査官によって射殺されたのである。

この事件に関して、銃を持って抗議デモに参加したことをトランプ大統領が I don't like that he had a gun. と非難すると、ICE の移民政策に抗議する側は反論した。プレッティさんは銃保持の許可証を持っていたのだから、あの場で銃を所持していたことは違法ではない。そして、ミネアポリス警察本部長は、プレッティ氏が銃を所有していたのは合法だったと言明した。

このニュースで私が仰天したのは、ミネソタ州に限らず、米国では許可証があれば、公共の場でも拳銃を携帯することが認められているということである。ということは、取り締まる側からすれば、自分たちに向かって抗議するデモ隊の中に銃を持っている者がいて、持っていることがわかって、検挙できるのはそれが無許可の場合あるいは銃を手にして自分に向けた場合に限られるということになる。しかし、許可証の有無など、その場で見てわかるものではないし、双方が興奮状態にある状況では何が起きるかわからない。

さらに驚いたのは、共和党の重要な支持基盤の一つである『銃愛好団体』つまりトランプ大統領の有力な支持者である側が、大統領の「銃を携行し抗議デモに参加したことはよくない」という発言に対し、それは国民の権利を侵害すると反発したことである。

また、連邦検事が「銃を持って近づいた場合は、連邦捜査官による射殺が正当化される」と X に投稿したところ、『全米ライフル協会』は、それは「危険で間違っている」と非難したことである。銃を所持し携行することは法で認められた米国民の権利であって、「銃を持って（人に）近づく」のも違法ではなく、なんらとがめられることではないと言っているように聞こえる。

そして、さらにさらに驚いたことは、こうした反発を受け、大統領報道官が26日の記者会見で「トランプ大統領は法を順守する米国民の憲法修正第2条の（銃保有の）権利をもちろん支持している」と強調したことだ。米国における銃規制の強化など、夢のまた夢だと愕然とした。

日本でも銃を所持できる。ただし、それは狩猟目的に限られる。護身用に銃を所持・携行することは認められていない。しかし、米国では、一般市民が狩猟に限らず自衛のために銃を所持できる。一般家庭に銃の存在する米国では、銃による事件や事故がしばしば起きる。もちろん、日本でも狩猟用の銃を使った殺傷事件は起きるし、ヤクザが非法の銃で事件を起こすこともある。しかし、基本的に軍隊と警察だけが銃を持つ日本社

会は、銃社会の米国よりはるかに安全だと思うのだが、こういう考え方は米国では通用しないようだ。

第 10 章 聖書と米国民

【1】『進化論』（the theory of evolution）

Do you accept the theory that human beings evolved from the apes.

→ No way!

「あなたは、人類が猿から進化したという推論を受け入れますか？」

→ 「とんでもない!」「ありえない!」「絶対に嫌だ」

（ape は monkey と異なり、ゴリラやチンパンジーなどの尾なし猿。映画『猿の惑星』は Planet of the Apes である）

娘が高校で理科の講師をしていたとき、米国から来た AET(英語指導助手)の若い女性が、机の上に置かれた地質時代の古生物のフィギアを見て、これは何だ？ と興味を示した。それで、古生物の説明から『進化論』の話になったとき、米国女性はホントに申し訳ないといった表情で、次のように言ったそうだ。

I'm sorry. I'm not sure about that. We didn't learn about that in school. We learned about the Bible story. 「ごめんなさい。それについてはよくわからないの。学校で教わらなかったの。私たちは聖書の話を読んだの」

その話を聞いて、（へえ...今でも？）と私も驚いた。そして、思いついた。そうか、それで...「引力の法則」は the law of gravitation と law 「法則」なのに、「進化論」は the theory of evolution と theory 「推論」「仮説」「理論」なんだ。

しかし、日本の学校では「進化論」も「引力の法則」と同じように科学的な真実として教えている。そして、おそらく、ほとんどの日本人が「進化論」を真実だと信じているだろう。ところが、米国では、そうではないようだ。

ネット検索をしたら、2015年に米 Pew Research Center が行った調査で、進化論を信じてと答えた人はほぼ6割、初めて過半数を超えたというニュースが載っていた。つまり、「神が人間を創った」という『旧約聖書』の話を信じている人が、まだ4割もいる。

米国大統領の就任式では、大統領は聖書に左手を置き右手を掲げて宣誓する。大統領に限らず、公職の就任宣誓時も一般的に行われるそうだ。米国映画の裁判シーンで証人が聖書に手を置いて宣誓するシーンも見かける。また、1ドル紙幣には「IN GOD WE TRUST」（我々は神を信じる）のフレーズが印刷してある。米国は現代科学技術の先端を行く国家であるが、同時にい

ろんな場面で聖書が持ち出され神をたたえるキリスト教国家でもあるようだ。

激突と片思い

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
